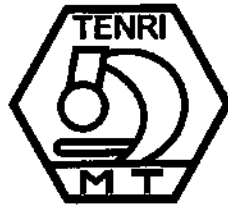


開校記念誌

天理医学技術学校 47年の歩み



天理医学技術学校
天理医学技術学校同窓会



天理教教会本部



校舎と憩の家新入院棟 (東病棟・西病棟)・外来診療棟 (平成 25 年 12 月撮影)



校舎落成時の校舎周辺（平成8年頃）



天理教会本部側から見た旧校舎（昭和60年頃）

目次

□ 絵 航空写真：天理教教会本部、新校舎周辺、旧校舎周辺

真柱様お言葉

中山 正善 二代真柱様（開設式）	3
中山 善衛 三代真柱様（新校舎落成披露）	6
中山 善司 真柱様（閉校式）	9

閉校に寄せて

天理医学技術学校 学校長	奥村 秀弘	15
公益財団法人 天理よろづ相談所 理事長	横山 一郎	16
公益財団法人 天理よろづ相談所 世話部長	上田 純治	17
学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学 学長	吉田 修	18
公益財団法人 天理よろづ相談所病院 院長	太田 茂	19
天理医学技術学校 前学校長	高橋 浩	20
天理医学技術学校 同窓会会長	市村 輝義	21
公益財団法人 天理よろづ相談所病院 臨床検査部 部長	中村 文彦	22
学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学 学科長	松尾 収二	23

第1章 教育方針・沿革

教育方針・歴代学校長	27
沿革	28
第1節 開校・衛生検査技師教育	29
第2節 臨床検査技師教育と新校舎建設	31
第3節 臨床工学専攻科とダブルライセンス	39
第4節 天理医学技術学校閉校	41

第2章 各期の卒業生（卒業記念写真・卒業生氏名・メッセージ）

臨床検査学科 第1期生～第45期生	47
臨床工学専攻科 第1期生～第13期生	92

第3章 学生自治会と学生寮

第1節 学生自治会の変遷	107
第2節 学生寮の変遷	112

資料集

1. 歴任教職員一覧	117
2. カリキュラム変遷	118
3. 受験生・入学生の変遷	127
4. 科目別歴代講師一覧	131
5. 国家試験合格者数一覧	136
6. 卒業生の変遷	137
7. 就職の変遷と現状	139
8. 年譜	143
9. 天理医学技術学校学則	156

編集後記	159
------	-----

真柱様お言葉



天理高等看護学院・天理衛生検査技師学校開設式における 中山 正善 二代真柱様のお言葉

(昭和42年4月6日 天理よろづ相談所7階講堂)

本日、よろづ相談所の一環として高等看護学院、それから衛生検査技師学校の開設に当たりまして、その第1期生として、ここに学ばれる百人足らずの諸君に、一言私の考えます点をお聞き頂いて、諸君のそれぞれの勉学の上に就いての参考として頂きたい、と、かように存ずる次第であります。

私は昨年四月、よろづ相談所の中に憩の家を設けました。その時にも申したのでありますが、医は仁術なりと昔から言われています如く、医は患者を救けるという上に就いての、大切な役割をもっておられるものである。

先程、山本さんのお話の中にも、公共事業としての重要な、主要な部分を占めておるといってお話がありますが、それは人の命を取り扱うという意味から来ることであろうと思います。勿論、その上に就いて、それぞれの持場持場というものがあります。

一つは、それに携われるのはお医者さんであります。お医者さんの技術が伸びていけばいく程、なくなりかかった命も元通りに治すことが出来るというのが、現在の世界的な常識であろうと思います。

お医者さんの技術は、技術だけの上進ではなくて、生命の延長ということに繋がっているところに、その意味があるものと言わなければなりません。そのために、人の命のために、いろいろと設けられていくのが、設備と申さなければならぬのであります。

しかしながら、当憩の家は医学校ではないのであります。医科大学ではないのであります。お医者さんの養成機関ではないのであります。否、その仁術に頼って命の延長を促す、言い換えますと、我々の人生の幸福を願うという患者のために、一つの憩の場と相成ることが、私達の一つの希望である、と、かように昨年も申したのであります。

お医者さんは、その上に就いて、その自分の能力を発揮して頂いて、息の根のあるうちにあらゆる人々の幸福、あらゆる人生の陽気さを取り戻すべく勤めて頂くのである。

おふでさきの中には、このことに就いて、お医者さんは、人体に対する修理肥の役割をする。医者は修理をして下さるお方であり、薬は、それにおく肥に該当するものである、ということが記されてあります。その修理人であるところのお医者さんが、肥であるところの薬を使って、そして人生の幸福を増していく、そこに病院の意義があり、我々の喜びが湧いて来るものと言わなければなりません。

私は、昨年、そのことを強調したのでありますが、その上からお医者さんに付け加えて、或は病室の安逸性、或は機械の整備などということが、病院の、憩の家の一つの命となっている。

これは今日までに於て、既にある程度の設備はなし終えたのであります。只一つ残されていることは、これの運営に於ていかなる態度をとるか。例えば、ここに立派な機械があったと致します。機械があったと致しましても、その用途を誤ったならば、これは何にもならないのであります。正宗の名刀は立派な名器でありましょう。しかしながら、使い方を誤ったならば、これは凶器と相成るのである。

ここに立派なベットなり、病室なりが設備し得たと致します。しかし四六時中、傍において見取りをすところの看護婦と申しますか、その人的関係、患者と看護婦との人的関係に於て、心がはだはだであったならば、安らかな憩というもののもち得られない。病人を扱う上に於て、この設備を活用する上に於て、肝心な点は、この機械と、この病室と、お医者さんと、三つのものが一体と相成って



適当に運営されるところに、成果というものが発揮される。陽気ぐらしが生まれて来る。憩の家の命が現れて来ると、かように申したのであります。

既に幾人かのお医者さんもおられれば、機械もあれば、看護婦もいる。その上で、今日高等看護学院という一つの附属設備が出発し、衛生検査技師の学校が設けられた。一面に於て、当病院に於ける機械を、完全に持続しながら使っていく技術者の養成であり、当憩の家の精神を、しっかりと患者に示すところの要員の養成である。

先程、山本さんのお話にありました、笑顔と親切という、このモットー、その点に就いては、私は看護学院の皆さん方に、十分、第一の前提として、根本の信念としてもって頂きたいと思うのであります。親切と、そして笑顔、これの基礎の上に、いろいろな課程、決められたところの技術ないし教養を、附設することによって、始めて完全な看護婦としての意味があるものと、お考え頂きたい。

法規によって規定されたところのものの中には、往々にして、この第一の条件を読み込んでしまっておられる場合が多いのであります。当然のことであるとして数えあげられていない場合が多いのであります。しかしながら、この当然なことが忘れられた時には、そのあとに付け加わって来る技術がいかに上達したと言え、それは人と人との間を取り持つところの人的関係に於て、かもし出すところの看護婦の空気として、私は十分なものであるとは言えない、と、かように信じておる。

技術や規則が第一義であるのではなくて、皆さん方の相手とするのは、精神的にも、身体的にも弱っているところの病人であるということを忘れてはなりません。その上に親切に、そして素直に、お医者さんの言われるように所作を行なう。そこに恐らく高等看護婦としての命があるのではないかということ、私は考えるのである。

また衛生検査の技師となられる諸君に於いても、私は同じことを申したい。諸君は機械を扱うのである。機械を扱うが故に、動もすると人情というものが薄れて来るかも知れません。機械の操作ということに重きを置いたならば、自己の完成ということがおろそかになる場合があります。

法規によつての規則から言うならば、機械の検査ということに重点を置いて検出され、各自の人格の陶冶ということに就いては、余り規則には深く触れていないと思います。しかしながら、諸君も亦人間であり、機械の奴隷ではないのであります。機械の奴隷でない限りは、その機械を人間に都合よく、機械の使命を果たさすべく、人間として機械を操作するということに、重きを置いて頂きたい。

先程申しましたように、自分の人間としての陶冶、これを基礎として、その上に仕込まれているところのものが技術であり、機械の操作である、というようにお考え頂きたい。

私はこの二つのコースの出発に当たりまして、時を同じゅうして出発するが故に、ここに合同の開設式が設けられましたが、患者というものを、一つの台として、人間的な付き合いに於て、親切に、笑顔をもってその回復を助長し、機械を操作して、そしてその回復を助成するという面に於ては、技術的には多少の違いはあるが、各人各人の自己の完成ということに更に重きを置いて、自己を完成しながら、しかもその職務に万全を期するのが大切であるということ、先ずお願いしたいのである。

動もすると、技術者は自分の技術に頼って、自分の人間的完成ということ、陶冶ということ、怠りがちになります。又看護婦に於てならば、医者である先生の言うことのみを果たせば、それで義務がすんだかの如き、錯覚を起こすのであります。しかし、それよりも大切なことは、自分の人格的素養によつて、患者との人間的関係が助成され、その間にかもし出されるところの空気が回復の期にあるところの患者、或は病の床に呻吟するところの患者の、精神的にも、肉体的にも、大きな影響があるということをお考え頂きたい。

諸君はよろづ相談所の附設学院ないし学校に学ばれる以上、先ず自分の人格を陶冶して、それによつて与えられるところの職務にふさわしいような、笑顔と親切をもって触れ、又一面に於て機械を誤り



なく操作する、精密に操作する、迅速に操作する、という技術を身につける。一面に於ては自己の完成への前進であり、一面に於ては機械の操作に対するところの機械の征服である、というような大きな抱負をもって、大きな希望をもって、単なる職業教育を受けるといような面にもみあくせくせず、自分の人生を拡大していくんだというところに興味をもって学んで頂きたい。

学校ないし学院として申しますならば、第1期生というものは、いいにしろ、悪いにしろ、伝統の出発点であります。後に続いてくる人達は、その伝統に知らず識らずに染っていくというのは、これは人間の常であります。その意味から申しましても、皆さん方に寄せられているところの期待というものは、理想的に大きいものであるということを、しっかり心に治めて貰いたい。あえて申しますならば、皆さん方は、その意味に於て責任も重いんだから、しっかりといい伝統の先輩となって頂きたい。

笑顔をもって親切に当たるのが看護婦の、いかなる技術にも先んじた大切な要点であるとは私は考えます。迅速に、精密に、その機械を操作することによって、データーを早く出すこと、これは技術検査を学ばれる方の理想であってほしいのであります。そして立派な伝統ある学校の第1期生としての喜びを、この学校、または学院に残しておいて頂きたい。このことを希望致しまして、開校に当たっての私の挨拶と致します。

どうかしっかりと勉強してくれますようお願いいたします。

(真柱訓話集第27巻より)



お言葉中の二代真柱様



新校舎落成披露における中山 善衛 三代真柱様のお言葉

(平成8年9月1日 天理医学技術学校4階講堂)

この度、天理よろづ相談所では天理看護学院と天理医学技術学校の校舎の老朽に伴って、新しい校舎を建築施工いたしておりましたが、滞りなく竣工の運びとなり、本日落成披露にお招きを頂いたわけであります。

この機会に挨拶を求められましたので、思い浮かびますままに両校への私の考えなり希望するところを簡単にお話して責めを果たしたいと思ひます。

聞けば、看護学院も医学技術学校も創立30年を数えるということで、その間には大勢の人材養成に当たって下さった方々のご苦勞をまずお礼を申さなければなりません。また、両校で学んだ後、憩の家あるいはまた他所で勤務した人、また勤務中の人、さらにはやがては勤務する方々に対してはその志と勉學の努力をおねぎらいを申したいと思ひるのであります。

考えてみれば、両校とも私はその存在や活動はどちらかといえば非常に地味に見えると思ひのであります。人によってはよろづ相談所にそういう学校があったのか、という認識不足の人も私たちのまわりに、しかも身近なところにあるかもしれない。ましてや、両校が信条教育を基底にしているという事実はあまり知られていないであろうと思ひのであります。

看護学院も、医技校とこれから申します。看護学院も医技校も専修学校ではありますが、これは言うまでもなく信条教育に立脚しつつ、しかも専門教育をほどこさんがための道だと解しているのであります。ですから、専修学校でありましても、親里にある他の学校と同様、私はたすけ一条の道の上に果たす役割は甲乙がないと、平等であると、同等であると思ひているのであります。

話は最初から逸脱しそうになりましたが、この点が学院なり医技校なりの運営ならびに教育に当たったの重要な視点であるということをご承知頂きたいのであります。学生諸君を含めて関係して下さる皆さんが、ここに留意して私の話をもう少し続いて聞いて頂きたいと思ひます。

繰り返すことにこれはなりますが、学院と医技校設立趣旨で重要な点は、天理教の教義に基づく信条教育で人格の形成をたすけつつ、しかも病む人々の医療を補佐する者を養成することであります。極言するならば、両校で信条教育を行なうことができなくなる事態が起こったとすれば、もはやそれは、よろづ相談所憩の家にこれらを設けた意味は全く半減してしまうと申さねばなりません。

学院や医技校は共に医療現場ではどちらかといえば、縁の下の力持ち的な仕事を担う者を養成して下さっております。建物に譬うれば、表面にはでないが大切な部分であると申せましょう。建物が大きければ大きいほど、基礎工事に力を入れなければならないのは常識であるように、憩の家が隆盛の道をたどればたどるほど、それを支えられるようにここに関係する人々が、憩の家の教内に於ける役割と期待とをよく理解し、その上から物事を判断して要員の育成に当たって下さることを私は希望したいのであります。

考えてみて下さい。医療は時代の推移と共に医療法も看護法も変わってくる。今日では30年前には思いも及ばなかったことが、皆さん方の身に及んでいるでしょう。コンピューターに例を取り上げても30年前と今とでは雲泥の開きがあります。しかしながら、コンピューターを操作するのは人間であります。この点は変わらないのであります。

もし、学院及び医技校の先生方の指導や指導される学生諸君に、人間一人ひとりにふさわしく与った生命に対して畏敬の心というものがなかったら、どんなに最新式の精密計器を備えても、利用如何で憩の家には危機をもたらしてしまうのじゃないかと、私はその点不安に思ひるのであります。



三代真柱様御揮毫

つまり、各人の考え方や一人ひとりの心の持ち方ひとつが、それを未然に防ぐかどうかという道だと申したいのであります。

検査技師の立場に立つて言うならば、物言わぬ物質を相手に毎日明け暮れる仕事もあるでしょう。また、人と接しながら機器とにらめっこする仕事もあるでしょう。いずれも病気の診断をたすける大切な仕事ではあります。従って、緊張の連続と言えるかもしれません。けれども、自分の心に間隙が生じたとき、データーを読み誤ったり、他人のデーターを入れ換えて報告してしまうような過ちは起こるはずが絶対ないとは断言できないだろうと思うのであります。

起るはずがない過ちが生ずる元はどこにあるか。それは機器に対する過信と機械的な動作にあると私は思っているのであります。人間に備わっている感覚よりも、機器が出す答えの方に重点を置くということは、一面においては大変危険であるようにさえ思われるのであります。

あえて申すならば、人間の心情を軽視するような考え方は、ここではあまり好ましくない考え方だと思うのであります。万が一にも人の生命を左右するような誤りが生ずれば、その人の過ちで終わるのではなく、私たちの信念からすれば、親神様、教祖にお詫びの申し上げようがないと言わなければなりません。ですから、これを防ぐには常に自分は人の命と人の心を尊重して仕事にかかわっているかということをお問ひ続けながら、与わった仕事に精を出して頂きたい。

ついでに、看護する人の立場に立つて言っても、一人ひとりの患者の容体を正確に看取り、この人をたすけるための自分の心の持ち方はどうか、自分は何をすることがこの人が少しでもたすかる手だすけになるのか。人間の心の弱さをさらけ出す、身の内にお障りを頂いた者への接し方に自分の態度は親切であるか、誠意を持って接しておるか。機械的に仕事をこなして間違いを犯してはいないだろうか、というような自問は看護にあたる者の初歩的な心得でありましようが、この初歩的な心得を看護技術修得に優先して、しっかりと身に付けて頂きたいというのが私の願いであります。

また、私は考えました。憩の家をもちたてるのに、親神様から私たち銘々に頂戴している役目を全うする心構えとは何かということ。私は真柱という立場にあつて、その役目を果たす努力をしているのであります。ここに列席の方々も憩の家においては、理事長とか世話部長とか、あるいは看護学院長とか医学技術学校長とか病院長とか、さらには看護学院生、医学技術学校生、またその職員など、それぞれが立場を持っている。それは、それぞれが憩の家の理念全うの上に必要な役目を分担していることを意味するのであります。

関係者一同が自分が分担する立場の役割を正確に把握し、全員ひとつ心となって憩の家というたすけ一条の道の中の一つの陽気ぐらしの道場を、親神様の思召しにかなうよう、一手一つになって作り出すという心構えでつとめることだと思うのであります。

憩の家に陽気ぐらしを生み出すためには、一言にいえば、各自はそれぞれ密接な連絡をしようということですが、さらに細かく言えば、根気もあれば忍耐もあれば、親切、気配り、思いやり、たすけ合い、いろいろな心遣いがそれには必要であつて、こういう数々の人間形成を心掛ける者、す



なわち成人を目指す者が一手一つとなって憩の家を支えて下さることが、これからも末代かけて続いて行けば、私は創始者の念願は半ば満たされることになると思うのであります。

一手一つとは皆さんには初めて聞く言葉ではなかろうが、一つの目的に向かって全員が同じ考え方で真実込めて行動することです。そこには調和がなくてはなりません。一手一つの調和とは、誰が見ても物事が円滑に運ばれている姿をいうのだと思う。

ご承知のように、ここ親里にはいろいろな学校群あり、修養機関あり、布教伝道機関あり、各会ありで、どれもこれもが陽気ぐらしへと、たすけ一条の道を進める上で必要な分野を受け持っているのであって、その点では憩の家とて同じことである。

更にはこれらご承知のように、憩の家には三つの分野のあることでもあります。それはよろづの事に悩みを持つ人々にたすかって頂きやすいようにという配慮からであります。

学院と医技校はこの中では世話部に所属している。身上部に所属しているのではない。世話部に所属しているというその訳は、世話部というのは、憩の家身上部、別称天理よろづ相談所病院の要員を養成する役目も含めて持つからであります。この上からも、学院と医技校は憩の家設立趣旨に則って、それにふさわしい学生を教育しなければ役目を全うすることにはなりません。

両方とも最初にお話をしたように、本教の信条教育に力を入れながら、加えて看護教育なり医学技術養成なりに当たって頂きたい。そして、それぞれに学ぶ諸君は以上のことを心にわきまえて自らの心を磨き、学んだそれを特技として活かして、たすけ一条の道を堂々と歩んで頂きたいと思います。

看護学院も医学技術学校も一見地味な学校ではありますが、どうかまずつゆまず、たすけ一条の道を地道に私たちは歩むごとく、世上の風潮にいたずらに惑わされることなく、関係者一同心を揃えて、校舎が新しくなったということで、心機一転、任務を全うして下さる努力をこれからも重ねて頂きますことを希望して、私の話を終わることにいたします。

ご静聴ありがとうございました。

[憩の家月報第 125 号より]



お言葉中の三代真柱様



閉校式典における中山 善司 真柱様のお言葉

(平成 26 年 3 月 22 年天理医学技術学校 4 階講堂)

本日、天理医学技術学校の閉校式に出席いたしました機会に、心に思いますことを少しばかりお話しして挨拶といたしたいと思えます。

憩の家では平成 23 年に学校法人天理よろづ相談所学園を設立し、翌 24 年 4 月、天理医学技術学校と天理看護学院を統合して天理医療大学を開校いたしました。大学開校以来、早くも二年が経過して医学技術学校も最後の卒業生が卒業いたしましたので、本日をもって閉校することになったのであります。改めて卒業生や関係皆様のこれまでの努力に敬意を表し、心からおねがい申したいと存じます。誠にご苦労さまでございました。

学校が閉校されるということは、情のうえからは悲しいことであり、さびしいことであります。しかし、医学技術学校が長きにわたって培った理念と実績は、医療大学にしっかり引き継がれたことを思いますとき、きょうの日の意義はお互いに学校創設の元一日を尋ね、よって立つ建学の精神を明らかにして誓いを新たにするとところにあると思うのであります。

天理医学技術学校は、天理よろづ相談所の要員育成を目的に、天理看護学院の前身である天理高等看護学院とともに天理衛生検査技師学校として昭和 42 年に開設されました。

二代真柱様は両校合同の開校式の席上、学ぶ者の心得として、

「まず自分の人格を陶冶して、それによって与えられるところの職務にふさわしいような、笑顔と親切をもって触れ、また一面において機械を誤りなく操作する、精密に操作する、迅速に操作する、という技術を身につける。一面においては自己の完成への前進であり、一面においては機械の操作に対するところの機械の征服である、というような大きな抱負をもって、大きな希望をもって、単なる職業教育を受けるというような面にのみあくせくせず、自分の人生を拡大していくんだというところに興味をもって学んで頂きたい。」

と、お諭しになりました。

また同じお話の中で、衛生検査技師を志す者に対して、

「諸君もまた人間であり、機械の奴隷ではないのであります。機械の奴隷でない限りは、その機械を人間に都合よく、機械の使命を果たさすべく、人間として機械を操作するということに、重きを置いて頂きたい。

…自分の人間としての陶冶、これを基礎として、その上に仕込まれているところのものが技術であり、機械の操作である、というようにお考え頂きたい。」

と、具体的に事分けてお話くださっています。

当時は衛生検査技師を養成する学校も少なく、教育の内容も公衆衛生検査領域の教育が中心であったのが、やっと医療検査領域のカリキュラムが重視されるようになった頃でありました。そうした中、日本で唯一、宗教教育、すなわち天理教の教義に基づく信条教育を掲げ、宗教性豊かな人格の涵養を第一義にした衛生検査技師の養成を目指すことになったのであります。

その後、約半世紀、47 年に及ぶ医学技術学校の歩みは憩の家にとどまらず、広く日本全国の医療現場での卒業生の活躍となって、天理の臨床検査技師、臨床工学技士に対する信頼を生み、高く評価されるようになりました。高度化、専門化された現在の先端医療が、広範囲にわたる、しかも非常に細分化された個々の検査データによって支えられていることは周知のとおりであります。



昨今の医学の進歩に伴い、ますます厳しくなる医療現場への要請は新設された新入院棟や外来棟の医療設備からもわかるように、今後さらなる機械化をもたらすことになると思われます。それだけに、さらに徹底した技能の研鑽が待望されるとともに、機械に振り回されない人間の資質が問われることになると思うのであります。どんなにすばらしい機器が整えられたとしても、その機器を生かすか否かは、それを扱う人間の扱い方一つにかかっていると言えるのであります。

衛生検査学校設立のときに、二代真柱様がいみじくも指摘になった人格の陶冶こそが、今後の医療現場を左右することになると思うのであります。要員養成の伝統を引き継ぐことになった天理医療大学が、人に尽くすことを自らの喜びとする天理教の信条教育を基調にして、人に対する深い愛情と、自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材の育成を建学の目的とするところに大方の期待が集まる所以であります。

ところで、おさしづに、

「細道通りよい、往還道は通り難い。この理をよく聞き分けて悟れ。悟れば分かる。
往還道は通り難い、細道は通りよいというは、どういうものやと思うやろう。さあ
心に掛けて通るから、細道は通りよい。…」

(明治22年11月1日)

と、あります。

このお言葉は、教祖の教えを誰に気兼ねすることなく歩むことのできる私たちが心しなければならぬことを、道に譬えてお諭しくくださったお言葉であります。一見道幅も狭く通り難く思える細い道は、注意深く心して通るから心配ないが、広く大きな道は安全で通りやすい道だと油断して通るから、逆に道を踏み外しかねないことをお戒めくださっているのであります。

憩の家が開所された当初から考えますと、ただ今はあらゆる意味で充実した憩の家の姿だと言えるのではないかと思います。それだけに、「細道通りよい、往還道は通り難い」と、端的に教えられるところをしっかりと心において、先人たちの努力のうえに築き上げられた今日の往還道を、心して勇んで力強く着実に歩んでいただきたいと思ひます。

時あたかも教祖百三十年祭に向かう年祭活動のさなかであります。ようぼく一人ひとりが、その使命に対する自覚を深め、それぞれの任務(つとめ)をまっとうして、ご存命の教祖にお喜びいただこうと申し合わせている時であります。どうか節から芽の出るご守護をいただけるように、それぞれの持ち場立場でようぼくとしての成人を目指すとともに、一手一つになって憩の家の理念ならびに医療大学の建学の精神に照らし、伝統に根ざす人材をしっかりと育成していただきたいと思ひます。

最後に、皆様の日頃のご丹精を重ねておねざらい申して、きょうの挨拶にさしていただきたいと思ひます。



お言葉中の真柱様

閉校に寄せて



全 終

天理医学技術学校 学校長

(公益財団法人 天理よろづ相談所病院 総長)

(学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学 理事長)

奥村 秀弘



タイトルに使用しました「全終」という言葉は、私がインターン時代東京でお世話になった古畑積善先生に御教え頂いた言葉で、辞書にも見当たりませんが、「終わりを全うすべし」と読みます。これは先生が生涯座右の銘としておられた箴言、即ち、いましめの言葉であります。

先生の郷里信州松本の新村小学校の講堂に掲げられていたもので、日清、日露の戦いで有名になられた海軍の伊東祐亨元帥が松本の新村小学校を訪ねられた時、記念に揮毫された文字で、先生は小学時代から、東京帝国大学医学部を卒業され、外科医として大成された後もこの言葉を好まれ、私にも医師としての生き方について御教え頂いたのが、この「終わりを全うすべし」という言葉でありました。しかし当時、私はまだ24才の青二才であり、深く考えることもせず、そんなものかという程度でしか考えていなかったのですが、年を重ね、色々な試練や苦難を経験するにしたい、「終わりを全うする」ことの大切さと難しさを感じるようになりました。ことに責任ある立場を経験する程、その昔古畑先生に御教え頂いた「終わりを全うする」ことの大切さを痛感するようになりました。

さて、御承知のように、いよいよ天理医学技術学校も半世紀になんなんとする長い歴史に幕を閉じ、天理医療大学に引き継がれることになり、「終わりを全うすべし」という時期がやってきました。昭和42年4月、天理衛生検査技師学校として天理高等看護学院と同時に穂の家の要員養成機関として開校しましたが、その後47年の永きに亘り、検査学科45期生迄1288名、又臨床工学専攻科13期生迄95名の卒業生を世に送り出しましたが、全国各地の医療機関を始め各企業からこれ程高い評価を頂いた学校は全国でも本校だけであります。これも一重に開校以来、長年本校の運営に御苦労頂きました高橋浩前学校長を始めとする教職員ならびに指導者の方々の献身的な御盡力の賜物であります。

私は、高橋前学校長のあとを受け、平成9年9月より本校の責任者として着任しました時、本校のすばらしい歴史と伝統を更に充実し発展するにはどうすべきかという事を常に心にためて私なりに努力してまいりましたが、それには設立の理念をしっかりと心におさめて、科学的な知識や技術を学ぶだけでなく、宗教的な暖かい豊かな心を身につける学校であるべきであると考え、そのためには特に信条教育に力を注いでまいりました。その一つとして、学生の毎朝の昇殿参拝の励行を徹底することに力を入れました。又教職員の先生方が熱心に御指導頂き、その効果が現れ出したのは3年間皆勤賞を受ける学生が年々増加し、遂に卒業生の半数以上が皆勤賞を受け取る様になりましたが、同時に国家試験の合格率も全国平均70%台の中で、8年連続国家試験全員合格という有終の美を飾ってくれました。これは大学も含めて全国で本校だけあります。この快挙の大きな原因の一つは、毎日の早朝参拝に全員が参加するという規則正しい生活のリズムが、学生達の学力の向上にも好結果をもたらしたものと考えています。

また、平成13年に設立された臨床工学専攻科は、わずか1ヵ年という短い期間でありましたが、開設以来本年迄、全員が参拝皆出席であり、又全国平均80%台の国家試験も参拝と同様、開設以来13年間一人の不合格者もおらず、全員が合格を続けてくれました。これは先輩として後輩の検査学科の学生達に良き範を示して頂いたと感謝しています。

今申し上げました様に、本校は学生も教職員も一体となって、我が国で例のない天理医学技術学校のすばらしい伝統と歴史を築いて頂きました。ここに、本校開設以来御盡力賜りました教職員ならびに御関係の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。お陰様にて立派に「全終」即ち終わりを全うすることが出来たと考えております。心から厚く御礼申し上げます。

願わくば天理医療大学検査学科に、天理医学技術学校のすばらしい伝統と歴史を受け継いで頂けるよう御願い申し上げます。閉校の御挨拶といたします。



閉校に寄せて

公益財団法人 天理よろづ相談所
理事長 横山 一郎



昭和42年（1967年）4月、天理医学技術学校は天理衛生検査技師学校の名のもとに開校した。前年には財団法人天理よろづ相談所病院（憩の家）が開設されていた。

昭和48年には天理医学技術学校と校名を変更し、今日に至った。46年余りの歴史を持ち、この間、幾多の優秀な検査技師を世に送り出してきた。伝統のあるこの学校が平成26年3月22日閉校することとなった。卒業生にとって、自分の学んだ学校名が消えることは淋しいことであると思うが、天理医療大学臨床検査学科への移行という発展的な閉校であることを思うと、一つの飛躍の句を迎えるということが出来て、淋しさの中にも前進の喜びを感じる節目であると思うのである。

しかし、素直に言って、ここ数年卒業生の国家試験合格率が100パーセントであることを思うと閉校は勿体ないような気がする。合格率100パーセントにける奥村校長の情熱と教員の方々の質の高さを感じる。

私は毎年2月に、医学技術学校の学生に対して1時間余りの講義を行ってきた。天理教の教理を基本とした話であるが、学生が誰一人として居眠りする者もなく熱心に話を聞いてくれる。話す者としても気持ち乗る、学生たちが真面目である。

私は他の大学や学生の集まりで話をする機会がある。しかし、どこへ行っても天理医学技術学校の学生ほど熱心に聞いてくれるところは無い。

また、毎年開催される臨検祭に何度か見学に行ったが、非常に興味深いものがあり、現在の医療の中で検査技師の受け持つ重要性を垣間見ることが出来、学生の技術の高さを感じたものである。

こうした学生諸君の真面目に学ぶ姿勢が合格率の高さに反映されていると私は思っている。

さらに学生にとって天理よろづ相談所病院というあらゆる診療科のある大病院で実習が出来、技師としての腕を磨くことで大いに役立っていると思うのである。

昭和42年4月6日の開校式に於いて開設者である天理教二代真柱様はお話の中で、衛生検査技師を目指す学生に対して、「諸君は機械を扱うのである。機械を扱うが故に動もすると人情というものが薄れてくるかもしれません。機械の操作ということに重きを置いたならば自己の完成ということがおろそかになることがあります」と仰せになっている。

こうした知識偏重、技術偏重になりがちな学生に対して、朝の本部参拝に始まる天理教の教理を基とする信条教育を施すことによって知識技術のみならず、人間的な成長を促してきたと思うのである。

卒業生の諸君すべてを、採用人員の関係で憩の家に就職して頂くことは出来ないが、全国各地の医療機関に於いて重要な役目を果たしていることは周知の事実である。

こうした伝統と実績のある天理医学技術学校が時の流れとはいえ、天理医療大学へと発展的閉校となった。今後天理医療大学臨床検査学科は、医学技術学校で培われた実績の上に立って更なる発展を遂げ、優秀な人材を世に送り出してほしいと願うばかりである。



天理医学技術学校閉校によせて

公益財団法人 天理よろづ相談所
世話部長 上田 純治



私は平成24年3月1日付をもって教会本部より天理よろづ相談所（憩の家）に出向、世話部の御用に携わっております。

世話部には養成係があり医療ようぼくの人材の発掘、また、育成を行っております。特に看護師、検査技師の育成には天理看護学院、天理医学技術学校が設置され、学生の扶育や学生寮の管理、監督について担当しており、学生が勉学に励むのに支障がないよう環境整備に心掛けています。医療ようぼくの育成とは天理教の教理の上から人々の幸せを希求し、ただ単に病気を治療するに留まらず、全人的な救済を目的として親神様の思召である「陽気ぐらし」の世界建設に寄与する人材の育成であります。また、その設立母体である天理よろづ相談所の開設の目的は、天理教の信仰に基づき親神の子どもと教えられる全ての人々の幸福を望む上からであり、単に病気を治療するに留まらず、人々の心身の救済を希求し、陽気ぐらし世界の実現に寄与するものであります。その上から憩の家は「身上部」「事情部」「世話部」の三部門で組織され、緊密な連携のもとに医学、信仰、生活の三つの面から人々の幸福を願うのであります。そして天理医学技術学校は身上部の臨床検査技師の確保の上から設置されたのであります。昭和40年12月14日、財団法人天理よろづ相談所の設立許可申請を厚生省に提出しておりますが、その際、「看護婦学校をもつこと」、「衛生検査技師学校をもつこと」が、必要な要件として挙げられています。当学校は憩の家が開設された一年後の昭和42年に天理衛生検査技師学校として天理看護学院（当初は天理高等看護学院）と共に開校の運びとなりました。私は検査技師とは、血液検査や尿検査を行うことぐらいしか思いあたりませんでした。医師が治療を判断する上で超音波や心電図、脳波、微生物検査等々、大変重要な役割をされていることを憩の家で御用をさせていただくうちに認識いたしました。毎年卒業生により発表される研究論文集には実習、研究等勉強された成果をみることができます。

また「チーム医療」という言葉を聞かせていただきますが、それは医師、看護師、検査技師、さらには事務員他多くのスタッフが心を合わせて患者に対応していくことであります。この天理医学技術学校は、日々地道な研究、実験、調査、研修を行い、確かな実力を持って当校を巣立ちますが、卒業生は憩の家をはじめ全国各地の医療施設で活躍しています。

大変淋しいことではありますが天理医学技術学校は平成26年3月をもって閉校となり、平成24年に開校した四年制の天理医療大学医療学部臨床検査学科に引き継がれます。日進月歩、より高度になっていく医療。検査技師もさらに進歩しなければなりません。しかし検査技師としての医療への取り組み心構えは、開校当初と変わってはならないのであります。このよき伝統を長く次の世代に伝えていかなければなりません。時が移り変わっても開校の頃より引き継がれた伝統をいつまでも継承されることを祈念しお礼のご挨拶といたします。



天理医学技術学校閉校に際して：輝かしい歴史と将来

学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学
学長 吉田 修



昭和42年に開学した天理医学技術学校は、約半世紀にわたって優れた臨床検査技術師および臨床工学士を輩出し、天理よろづ相談所病院のみならず、奈良県立医科大学付属病院をはじめ多くの医療機関において活躍しています。また臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験合格率は毎年ほぼ100%であり、就職率も100%という輝かしい成績をあげてきました。これは数ある専門学校のなかでトップを誇る成績です。教育に当たられた歴代の学校長先生はじめ教職員の皆さんの並々ならぬご努力と、知識・技術の教授のみならず信条教育を立派に実践されたことに心から敬意を表します。

これからの医療における臨床検査学、臨床工学はますます範囲が広くなり、より高度の知識と技術が求められます。さらに最先端のバイオテクノロジーの臨床検査学、臨床工学への応用のために、医療現場でしかできない研究とその実用化が大きな役割として加えられております。生物学史上特筆すべき発見の一つに数えられるiPS細胞を例にとっても、再生医療のみならず、究極のオーダーメイド治療に実用化され、臨床の現場で活用される可能性があります。

一方、国家財政、医療経済からみますと今日の医療はいろいろな問題を抱えていますが、それらは超高齢社会の日本の根本的課題に直結しているといえます。日本は2025年には65歳以上の人口が全人口の30%を占め、75歳以上は18%となると推測されています。総医療費は同年には50兆を超え、国民皆保険を基調とする医療は破綻をきたすともいわれています。世界に冠たる日本の医療制度はこのような状態にあるのです。いかにして国民の健康をまもるか、医療行政、国民そして医療職従事者が協力して取り組まねばなりません。

このように臨床検査学はさらに専門化、高度化が進み、同時に俯瞰的視座をも必要とする重要な医療科学の分野になっています。天理医学技術学校を四年制の大学にしたのは、時宜を得た適切な対応といえます。

平成24年4月に発足した天理医療大学の教育理念は「人に尽くすことを自らの喜びとする」としましたが、これは天理教の教義に基づく信条教育の理念であります。「人間は社会的動物である」といわれます。人間は社会を構築し、その中で生きています。そのために必要なのは利他の精神であり、人間の遺伝子にも備わっているものです。でなければ人類は大昔に滅亡しています。「人に尽くす」とは取りも直さず究極の利他のこころです。この理念は「生命への畏敬」に基づいたものでもあり、現在の、またこれからの日本にこそ、いや高齢社会である先進諸国すべての国でなくてはならないものです。わけても医療職に就く人はこの理念を自己の信念として持ち続けていただきたいとおもいます。

天理医療大学は医学技術学校の伝統と学風をしっかりと受け継いでまいります。それは高度の知識・技術の教育と信条教育の結果醸し出された、何物にも替え難いものです。信条教育の理念と、「感謝・慎み・たすけあい」というキーワードに表される理念は、いまの日本にとって最も大事にしなければならぬ事柄です。

平成28年4月から、天理医療大学臨床検査学科の卒業生が皆さんの職場に行くことでしょう。彼らは名実ともに皆さんの後輩です。どうかよろしくご指導のほどお願いいたします。



閉校に寄せて

公益財団法人 天理よろづ相談所病院
院長 太田 茂



天理医学技術学校は、昭和42年4月に天理衛生検査技師学校として開学し、昭和48年4月に現在の天理医学技術学校と改称し、さらに平成13年4月には臨床工学専攻科を開設し、合わせて1,400名若の優れた人材を輩出し、本院のみならず奈良県下、さらには全国において医学、医療の発展に大きく寄与してきましたが、天理医療大学の開設に伴って、平成26年3月をもってその使命を終えることとなりました。

この間46年に亘って、学生の教育、学校運営に邁進された歴代の学校長、教員、職員など関係各位のご尽力に対して、臨床病理部門、透析センター、手術室など多分野において天理医学技術学校卒業生から多大な貢献を受けてきた天理よろづ相談所病院を代表して謝意を表したいと思います。

さて、臨床検査技師、臨床工学技士は臨床医学には不可欠の存在であり、医療機関の医療の質はこれらの専門家にかかっております。私は小児科医であります。一般に内科系医師は診断、治療にあたっては末梢血検査、血液生化学検査、微生物学検査、エコーなどの生体検査など臨床病理検査における検査領域範囲、精度管理、迅速性に依存するところが大きいのであります。この点、天理医学技術学校卒業生で構成される本院臨床病理部門には常に進取の気概を忘れず、新しい検査の導入、実施に努められ、臨床医の診断能力を高めて頂きました。また、常に検査の精度管理にも努められ、臨床医の検査に対する信頼を得てこられました。さらに、臨床の重要な一部門としての自覚を持ち、必要な場合は時間を問わずに検査に応じて速やかに検査結果を報告する態勢、異常値が出た場合の緊急連絡体制を整えて、円滑な診療に大きく寄与されてきました。さらに、時間外、緊急の透析、手術に際しては、昼夜を問わず、診療に携わって頂いております。このように、医師の信頼を得て、良質な医療の提供に不断の努力を欠かさない臨床検査技師、臨床工学技士の姿勢は、天理医学技術学校の教育の賜物であると思っております。

また、天理医学技術学校卒業生である本院の臨床検査技師、臨床工学技士は、検査、透析、手術部門の中で病院に寄与するのみならず、専門家の立場から、他職種と協力して医療安全管理、感染症対策など病院運営の重要な分野において活躍しておられます。このような病院運営に積極的に加わって貢献する姿勢も天理医学技術学校における教育の中で培われてきたものと考えております。

さらに、本院における天理医学技術学校卒業生は臨床検査分野のみならず、広く医学分野において研究、学会活動に積極的に関わり、立派な成果を上げられ、全国的に注目されてきました。医師の研究、学会活動も天理医学技術学校卒業生との共同研究、支援に負うところが大きいのであります。このような研究、学会活動など知的活動に対する姿勢も天理医学技術学校における教育の中で培われてきたものと考えております。

以上のように、天理よろづ相談所病院が全国屈指の高い医療水準、研究・学会活動を維持できたのは、天理医学技術学校卒業生に負うところが大きかった、すなわち天理医学技術学校に負うところが大きかったと考えております。

天理医学技術学校閉校にあたり、天理よろづ相談所病院から、学校関係者、卒業生の皆様に改めて敬意と謝意を捧げたいと思います。



天理医学技術学校の思い出

天理医学技術学校
前学校長 高橋 浩



天理医学技術学校が平成26年3月に閉校するがその記念誌に寄せる一文を依頼された。私はこの学校の前身の天理衛生検査技師学校（衛検）の初めから新校舎が出来までの約30年間関わったが、退職して十数年が経つ。今その思い出を記す。

衛検開校の準備期間は僅か1年しかなかった。私は昭和41年（1966年）4月1日の天理よろづ相談所の開所式の前々日に、山口県宇部市から家族と共に天理に移ってきた。この日時に山口県立医大は国立移管を完了し、取り残されていた臨床病理学教室は消滅し教室員は分散し助教授だった私は天理での再起を誓った。その心がなかったら、当初の7、8年の苦勞は堪えられなかったろう。役に立ったのは15年に及ぶ臨床検査法の開発と実施の経験と39歳の若さだろう。それに検査技師養成の覚えもあった。私の任務は臨床検査部全体の纏め役（臨床病理部長）とされたが、手勢は少なかった。開所式の翌日には診療が始められた。1年後の研究所開設は急がれなかったが、技師学校の開校は至上命令だった。

校舎は百年経った古い木造の教室に実験台などの設備が施され、隣接する病院と廊下で結ばれた。諸井理事長、東井世話部長、山本院長それに営繕の方々が親身になって工事を進めて下さった。これで約30年雨漏りがひどく危険になるまで使われた。この間、訪ねてきた卒業生がちよっとも変わっていない！と大声をあげるのを聞いた。ところが新校舎が完成し、30周年の同窓会に集まった者の中に、無くなった旧校舎を想い淋しそうな姿を見たのは意外だった。自分の青春の跡が消えたからだろうか。

この学校の特徴を幾つかあげてみる。私見である。まず第一は、上級生が下級生を指導教育する習慣がある。開院当初は臨床検査の出来る者はわずかで習熟もしていなかった。一方臨床側は意気盛んな俊英の専門科部長が揃っていた。過大な検査要求に対し、初めの1週間は一般検尿がやっとならであった。天高卒の者が10人居居たが素人だった。この人達の多くは翌年学校の一期生となる。医員は初め松田信義氏1名だったが次第にふえて4名の時もあった（この医師達は後に大学教授や病院長になった）。本校の一期と二期は夜間制で昼間は病院の検査部門で実習兼アルバイトとして検査を実施して貰った。だから新生生はいきなり検査室で練習し憶えたら実際の検査に入り、報告するデータを出した。当時の臨床検査の需要は、血液の臨床化学的測定が多かった。本当を言えば、用手法による精確なデータを出すには2年から3年の訓練が必要であるが、当時はやむを得なかった。その後も臨地実習が技師教育の基本となり、病院内での研究実習にも連なった。臨床検査の本質の体得に必要と思った。

臨床検査は元々患者に直結し、検尿、検便、検血から始まったが、生化学、免疫学の発達と共に検査が機械化されて自動化し、標準化されてきた。私はこのあたりで天理の勤めは終わった。検査はアートから始まってサイエンスになった。臨床医学（個々の診療）から始まり基礎医学になった。本校の卒業生はこれを基に治療を目指す新しい臨床医学を開拓していただきたい。

紙数が尽きた。私は約30年もの間校長の任にあったが、病院の業務と兼任であり、多くの時間がさげなかった。これを大過なく終えたのは教職員ならびに講師の方々のお陰である。元気な若者達を教育訓練し、社会に貢献する優秀な臨床検査技師に育てられた並々ならぬ努力に感謝し敬意を表す。



天職としての臨床検査技師教育

天理医学技術学校同窓会 会長
(天理医学技術学校 前副学校長)
(関西医療大学保健医療学部教授)
市村 輝義



昭和41年(1966年)、天理よろづ相談所(憩の家)が開所した翌年、「天理衛生検査技師学校」が開設されて以来、47年の歳月が流れた今年、「天理医学技術学校」が閉校となりました。技師法の改正に伴って、昭和48年(1973年)に「天理医学技術学校」が開校され、その翌年、前身の「天理衛生検査技師学校」が閉校された歴史があります。丁度、その年(1974年)に、私は、専任教員として検査技師教育の第一歩を踏み出すこととなりました。

私と臨床検査との関わりは、衛生検査技師学校へ入学した昭和43年(1968年)から始まり、卒業後、「憩の家」臨床病理部へ就職し、6階臨床病理部分室での仕事を中心に、手術室、ICU等の緊急検査(血液ガス、電解質など)を行っていました。ここで患者さんと直結した検査の重要性と技師のあり方について勉強させていただきました。検査の実務に就いたのは、昭和49年(1974年)3月までの3年半だけで、その後、「天理医学技術学校」へ専任教員として着任することとなりました。

着任したのが3年制の臨床検査技師の教育が始まった翌年で、全国的に臨床検査が急成長を遂げ、マニュアルから徐々に機械化が進んでいる頃でした。検査現場の進歩が著しく、学校における教育がいつも後手にまわり、振り回されており、教育は学問体系がしっかりしていなければ、実(じつ)のある教育はできないと痛感したものでした。この時、「臨床検査学」の構築と教育学へ興味を持ち始めました。全国の技師教育の集まりである「全国臨床検査技師教育施設協議会(現一般社団法人日本臨床検査学教育協議会)」へ参加するようになり、カリキュラム改正時には検討委員として、常に検査を技術学として捉えた「臨床検査学」の構築を頭において素案作りのお手伝いをさせていただきました。幸い現行のカリキュラムにおいて「～検査学」という科目名が普通に使われるようになり、少しは理想に近づいたと思っています。

もう一つの課題として、臨床検査全体を掌握する検査管理の必要性を感じ、運営管理(精度管理、検査室管理)に関する教育も重要な柱として考えるようになりました。これは昭和61年のカリキュラム改正時に「検査管理総論」として実現化し、現行(平成12年～)のカリキュラムでも専門分野である「検査総合管理学」として確立しており、この科目群は、他の医療職の教育カリキュラムにはない教育となっています。

学校の資料を出来るだけ散逸することを避け、連続した記録を残すため10年毎に年誌(史)または資料集を発行し、5年毎に行われる同窓会総会時に同窓生の皆様に提供(有料)させていただきました。「天理医学技術学校十年誌」(昭和52年刊85p)、「創立20周年天理医学技術学校資料集」(昭和62年刊63p)、「天理医学技術学校三十年史」(平成10年刊219p)、「創立40周年天理医学技術学校資料集」(平成19年刊70p)の4冊を主担当させていただき、継続的な資料の記録と時々の学校や教育の変遷を残させていただきました。この閉校記念誌「天理医学技術学校47年の歩み」の資料の一部になったことを大変嬉しく思います。

30数年に亘る天理医学技術学校における検査技師教育を終え、平成20年(2008年)3月、定年退職を迎えました。その後、大阪府で大阪大学に次いで2番目の4年制大学となる「関西医療大学保健医療学部」(大阪府泉南郡熊取町、関西空港近く)の中に「臨床検査学科」を設置するというので、声がかかり、「設置準備室」を経て、昨春(平成25年4月)、「臨床検査学科」第1期生を迎えたところです。天理医学技術学校、日本臨床検査学教育協議会などで培った経験を基に、もう少し頑張ってみようかと思っています。

私にとって臨床検査技師教育は、天職なのかも知れません…!



医技校魂は永遠である

公益財団法人 天理よろづ相談所病院
臨床検査部 部長 中村 文彦



私は 1996 年に血液内科医員として天理よろづ相談所病院に赴任しました。血液内科は診断、治療両方の面で他の内科とは異なる点が多い診療科です。まず診断の面ですが、造血器悪性腫瘍の診断を行う際、多くの検査を行います。通常は CBC や骨髄穿刺、その塗抹標本の染色観察があります。さらにフローサイトメトリーや染色体検査、電子顕微鏡検査、核酸分析、リンパ節の病理診断、免疫染色などです。天理よろづ相談所病院に赴任して驚愕したのが、ほとんどの検査を院内で施行できたことでした。大学病院でもこれらをすべて行えるところはほとんどありません。その診断能力の高さは世界でもトップクラスであり、すさまじいレベルであることに驚嘆しました。次に治療の面でも血液内科は非常に特殊です。造血幹細胞移植という治療法を行う点が最も特殊と言っていいでしょう。他の内科で移植を行う診療科はありません。この移植医療でも天理よろづ相談所病院は非常に高い実力がありました。移植そのものの実績については後発でしたが、細胞処理と検査の実力は非常に高いものでした。自家末梢血幹細胞採取、幹細胞凍結保存・解凍の技術、CD34 陽性細胞のカウント、コロニーアッセイ。さらに CD34 陽性細胞の分離まで、どこまでも高度なことが可能でした。診断、治療にわたる天理よろづ相談所病院の傑出した先進性を担っていたのは言うまでもありません。医師ではなく臨床検査技師でありました。

なぜ、高度な技術を当院の臨床病理部技師や医学研究所技師が保持しているのか、私にはよくわかりませんでした。よくわからないまま 10 年以上血液内科で診療を続けました。技師の実力に見合った診療を目指しましたが、十分な成果が上がったとは言えない状況だったと思います。2007 年に輸血療法を担当を拝命し、輸血管理室との仕事が増え臨床検査技師とのかかわりはさらに増加し、2011 年に臨床病理部の部長代行を拝命し、臨床病理部への関わりが本格化しました。そして医学技術学校の研究実習発表会に出席した時に、医学技術学校の出身者、つまり当院の臨床病理部技師、医学研究所技師がなぜ高度な技術を持っているのか、ようやくその一部を理解することができました。医学技術学校の学生たちの鍛えられ方は、並大抵ではないことがわかったのです。学生を鍛えるといっても、単にビシバシ教えるだけでなく、学生と教育する技師たちの一体感が重要な要素であることも理解することができました。この一体感は卒業し、就職してからのちも続き、さらなる高みに続いていくわけです。

これは医学技術学校の歴史そのものであり、「医技校魂」といっていいものだと思います。厳しいしつけのみではその後の成長はありませんが、自ら伸びていく意欲も備わっていることも医技校魂の特色であります。医学技術学校が閉校となっても医技校魂は永遠であります。卒業生は医技校魂を胸にこれからの仕事に邁進し、そして医技校魂はさらに発展して天理医療大学に受け継がれることでしょう。



「医技校の伝統をつなぐ」

学校法人 天理よろづ相談所学園 天理医療大学 医療学部 臨床検査学科
学科長 松尾 収二



私が、医技校の授業を受け持ったのは、天理よろづ相談所病院の臨床病理シニアレジデントへ進んだときからなので約30年ということになります。平成8年、同病院の臨床病理部長に就任してからは、非常勤講師の派遣や臨地実習を引き受ける責任者として、また卒業生の採用試験員の一人として、それまでとは違った形で関わりました。医技校の教員の人事異動などにも関与し、卒前教育だけでなく臨床検査技師の教育、役割を考えさせられる機会が多々ありました。

授業は、2年生では「臨床検査医学」、3年生では「臨床病理学総論」を講義しました。平成15年からは「臨床病理学演習」として、いわゆる実例から検査データの読み方を学ぶR-CPC (Reversed Clinicopathological Conference) の授業も行いました。臨床検査技師が検査データを読めることは必須のことと考え、情熱を持って授業に取り組んだつもりです。私自身も知識を整理するのに大変役に立ちました。学会の研修等に自信を持って臨むことが出来るようになり感謝しています。

このような中、平成24年4月天理医療大学が開学し、平成26年3月に医技校が閉校を迎えることとなりました。当初、医技校の存続が危ぶまれる中、天理よろづ相談所横山一郎理事長および奥村秀弘学校長・院長（現、総長・医療大学理事長）のご尽力で天理医療大学に臨床検査学科が設立されることとなりました。臨床病理部（現、臨床検査部）、医技校および同窓会の皆さんも一丸となって臨床検査技師の教育養成の存続を訴える嘆願書を出されました。皆様方の応援は幹部の方たちの力強い支えになったことと存じます。私も臨床検査学科長の重責を担うこととなりました。平成21年2月末に奥村院長より打診があり、あまり悩まずにお引き受けしたことを覚えています。それから3年近くかけて大学設立の準備に携わりました。臨床病理部長との二足のわらじで極めて苦しいときもありましたが、多くの方々に助けて頂きました。なかんずく途中から準備に加わってもらった小松方氏（現、准教授。医技校第23期生）のおかげで詰めの作業が進み本当に助かりました。

平成24年4月から病院を辞し現職となり、医技校の存在を肌身で感じるようになりました。専門学校と大学で何が異なるのか、自問自答することもありました。医技校の学生さんの有能さをあらためて感じました。臨床検査技師になる目標、目的がはっきりしており、授業や実習を受ける心構えが前向きでした。これが、40数年にわたって培ってきた伝統、教育のノウハウであるのかと深く感じ入りました。

大学は、これから伝統、校風を築き上げていかねばなりません。医技校の学生さんと2年間、同じ学舎で過ごさせてもらいました。新人生歓迎会をやってもらい、3校（大学、医技校、看護学院）共同の天医祭もやってもらいました。大学生も医技校の学生さんを“先輩”と言うようになり、このことが多少なりとも医技校の良いところを学んだ証とっております。医技校の皆さまには本当に感謝致しております。

臨床検査は広く深く進歩しており、臨床検査技師に求められる知識、技能の教育もこれに応えるものでなければなりません。人として、医療従事者として、やさしい心も持ち、世に役に立つ学生を育てたいと存じます。卒業生の皆さまが誇って頂ける大学となるよう、教職員、力を合わせて頑張りたいと存じます。今後も暖かく見守って頂き、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

第1章 教育方針・沿革





教育方針

天理医学技術学校は「臨床検査技師」または「臨床工学技士」として必要な知識および技術を教授研究し、あわせて天理教教義に基づく信条教育を行い以って医療の実践ならびに医学の進展に貢献する人材を育成することを目的とする。

歴代学校長



初代学校長
山本俊平



二代学校長
高橋 浩



三代学校長
奥村秀弘



校旗



沿革

昭和 41 年 4 月	財団法人 天理よろづ相談所（憩の家）開設
昭和 42 年 2 月	厚生省認可
昭和 42 年 3 月	各種学校認可
昭和 42 年 4 月	天理衛生検査技師学校開校（夜間 2.5 年間コース） 初代学校長 山本俊平 就任 二代真柱様ご臨席のもと開設式、第 1 期生 34 名
昭和 44 年 4 月	同校昼間 2 年間コースへ変更
昭和 46 年 1 月	二代学校長 高橋 浩 就任
昭和 48 年 4 月	天理医学技術学校開校（昼間 3 年間コース）
昭和 49 年 3 月	天理衛生検査技師学校閉校
昭和 54 年 2 月	専修学校医療専門課程認可
平成 6 年 8 月	専門士称号授与認可
平成 8 年 9 月	真柱様ご夫妻、善司様ご夫妻ご臨席のもと新校舎落成
平成 9 年 9 月	三代学校長 奥村秀弘 就任
平成 13 年 4 月	臨床工学専攻科 開設
平成 14 年 4 月	臨床検査学科 新カリキュラム開始
平成 15 年 8 月	おやさと一号館（男子学生寮）竣工
平成 18 年 4 月	臨床工学専攻科 新カリキュラム開始
平成 21 年 9 月	別所よろこび寮（女子学生寮）竣工
平成 26 年 3 月	臨床検査学科第 45 期生・臨床工学専攻科第 13 期生 卒業式
平成 26 年 3 月	天理医学技術学校 閉校



第1節 開校・衛生検査技師教育

1. 天理衛生検査技師学校創設

本校誕生の契機は、昭和41年4月開所の「財団法人天理よろづ相談所（現公益財団法人天理よろづ相談所）」の設立にあった。天理よろづ相談所が財団法人としての許可を受けるためには、公益施設を持つ事が必要との見解に立って、看護婦学校と衛生検査技師学校を設立する事を当時の厚生省より指示があり、財団法人天理よろづ相談所設立事業と平行して、「天理高等看護学院」ならびに「天理衛生検査技師学校」の開校が検討され、設立要件の一つに入れられた。

学校開設には、天理よろづ相談所「世話部」がこれにあたり、昭和41年12月10日に「指定認可申請書」を厚生大臣に提出し、翌年3月23日に設立認可を受けた。

開校式典は「天理高等看護学院」、「天理衛生検査技師学校」合同で、昭和42年4月6日、中山正善二代真柱様はじめ多数のご来賓の列席を賜り、天理よろづ相談所7階講堂において挙行された。東井三代次世話部長の開会の辞、三殿遙拝、よろづよ八首奉唱のあと、山本俊平学校長（初代憩の家病院院長）の式辞、引きつづき二代真柱様より本誌冒頭に掲げたお言葉をいただいた。さらに、ご来賓の方々より多くのご祝辞をいただいた。



旧校舎（天理衛生検査技師学校）の正門付近

校舎は旧天理中学校校舎を移転した木造瓦葺平屋建ての建物をいただいた。校舎面積は1469㎡、敷地面積は1993㎡であった。校舎の内訳は教員室兼事務室を中央におき、講義室が3室及び化学、細菌、血液、血清、病理、物理、生理の実習が行える実習室が4室おかれた。その他図書室、更衣室、暗室、管理人室、手洗いが設置され、図書については、和書専門書が870冊、洋書165冊を所蔵していた。



2. 夜間 2.5 年間コース

衛生検査技師の養成は、法的には昭和 34 年当時、修業年限 2 年の昼間過程となっていたが、昭和 40 年からは修業年限 2.5 年間の夜間コースも認められた。

昭和 42 年開校の本校の教育はこの夜間コースからであった。本校の母体である憩の家臨床病理部は部長、医員の他検査技師 6 名、大卒者 2 名、検査員 10 名程度のスタートであった。昼間、手伝い兼実習に来る学生の力は臨床病理部にとって大きな戦力となった。夜間コース 1 日のスケジュールは 8 時 15 分登校、三殿遙拝、8 時 30 分から病院実習兼手伝い、15 時から 21 時まで学校における講義、実習であった。

当時のカリキュラムは基礎科目 8 科目（数学・物理学・有機化学・無機化学・物理化学・生物学・英語・ドイツ語）、専門科目 13 科目（医学概論・公衆衛生概論・臨床病理学総論・衛生検査総論・解剖組織学・病理学・生化学・生理学・血液学・微生物学・血清学・医動物学・実験用動物学）で、講師陣は主として憩の家の医師、技師であったが、外国語、生物学などについては天理大学の先生方であった。

また、夜間コースであるにもかかわらず三殿遙拝から 1 日を始めるなど、朝の参拝から授業が始まる現在の信条教育の型がすでに出来ていた。

3. 昼間 2 年間コース

昭和 43 年 3 月の天理よろづ相談所理事会で、夜間コースから昼間コースへの移行が決まった。移行理由は厚生大臣への変更承認申請書によると「天理衛生検査技師学校の夜間制の目的は、天理よろづ相談所病院の臨床病理部で働く無資格の検査補助員に資格を取らせることであったが、入学希望者のほとんどは全国各地の高等学校卒業予定者であり、既に付近の病院において臨床検査助手として働いている者は皆無の状態である。故に夜間制を昼間制に変えたほうが良いと判断するので、昭和 44 年 4 月 1 日より学期の変更を行いたい」と明記されている。昭和 43 年 8 月 26 日に承認され、第 3 期生を迎えた。

新しいカリキュラムは夜間制の教育を踏襲するものであったが、1 年生時の午前中に講義、午後に学内実習が組まれ、2 年生時には月・火曜日以外は病院実習であった。学校らしい体制も定着しはじめ、特に本校の特徴である病院実習の形態の基本形が出来上がっていった。



実習風景



第2節 臨床検査技師教育と新校舎建設

1. 天理医学技術学校への移行 昼間3年間コース

医学、医療の進歩に伴い、新検査法の開発が進み検査件数は大きく増加した。中でも生理学的検査が占める割合は年々増加した。そこで、衛生検査技師が認められていなかった生理学的検査を担当する技術者が必要とされるに至り、昭和45年5月21日に「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」が成立した。新しく誕生した臨床検査技師は、教育は高卒後3年以上、業務に生理学的検査と特例的に検査用採血を独占業務として加えたものであった。

本校では昭和47年11月2日の天理よろづ相談所理事会において、昭和48年4月1日付けで新制度に基づく昼間3年制の「天理医学技術学校」を設置することとし、衛生検査技師学校は第6期生卒業後、昭和49年3月末日をもって廃止することが決議された。昭和48年4月9日、天理よろづ相談所7階講堂において「天理医学技術学校」の開設式ならびに第1期生（第7期生）の入学式が行われ、新体制の第1歩が踏みだされた。また、これに伴い、「天理衛生検査技師学校」は昭和49年3月20日の第6期生の卒業式をもって発展的閉校となった。

3年制の臨床検査技師教育を開始するにあたり、校舎は当時本校の棟続きにあった准看護婦養成所の部分も使用させていただき、臨床生理、物理、ME等の実習を強化するため実習室の増加を図るとともに図書室、更衣室、学生自治会室も設けられた。

新法によりカリキュラムを実施するにつき本校では、新設科目として基礎科目では、人文科学、社会科学、保健体育、情報科学概論を、専門科目では医用電子工学概論、臨床生理学、臨床化学、RI、関係法規を追加した。特に医用電子工学概論、臨床生理学、臨床化学には多くの時間数をあて強化を図った。また、教育が3年になった事による最も大きな追加科目は研究実習である。日常検査をするうえで生じてくる問題また臨床からの要望を解決する手段を習得する事を目的に、約3ヶ月、週4日臨床病理部、研究所、学校で行った。学生にとっては指導者より man to man の指導が受けられ、学会等での発表にも積極的になれる素養が養われ、卒業後にも大いに役立つ実習となった。学校としては教育効果の高い実習と認識され、実習を受ける側にとっても職場の活性化にもなる重要な実習と位置付けられた。



旧校舎（天理医学技術学校）正門付近



春



夏

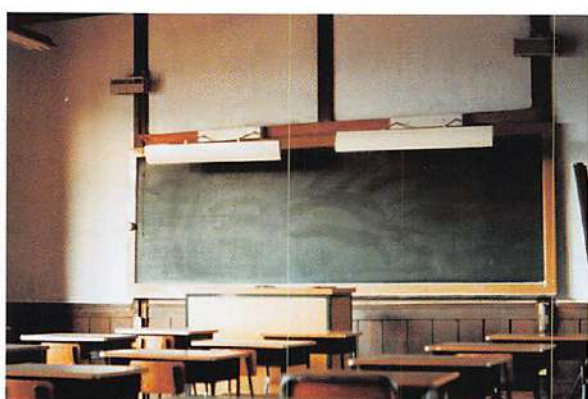
旧校舎の四季



秋



冬



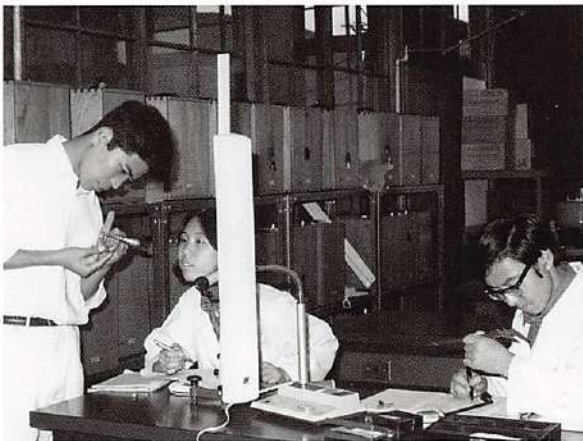
旧校舎の廊下と教室



2. 臨床検査技師教育カリキュラムの変遷

昭和61年には、検査の飛躍的な進歩に伴い検査室の様相が著しく変化したため、厚生省の養成所指定規則および指導要領の大幅な改正があり、昭和62年より実施することとなった。その概要は、総時間数は変わらないものの、科目の構成が変わり、基礎科目、専門基礎科目、臨床専門科目と大別された。また、病院実習の義務化と、臨床専門科目（7科目）を最低1週間、合計330時間以上の病院における実習を行わなければならなくなった。病院実習の呼び名も「臨床実習」と改名された。本校カリキュラムも、省令改正を期に第20期生より大幅な変更が行われた。

さらに、平成12年には、政府の規制緩和政策により、医療関係職種の教育について緩和が行われ、平成12年より臨床検査技師教育カリキュラムが大幅に変更された。その概要は一律一様な指定教育科目・時間数を廃止し、分野別（基礎分野、専門基礎分野、専門分野）、教育の領域別内容、単位制などを導入した大綱化、弾力的運用ができる指定規則・指導要領の改変であった。臨床実習も「臨地実習」と名称が変更となり、7単位（315時間）以上が必須の独立した科目として設定された。この改正に基づき、本校では第34期生より「セメスター制」を導入し、3年間をⅠ～Ⅵセメスターに分けた。従来2年生の6月から翌年2月まで行われていた臨床実習が7週間（21日）減り、10月から開始して20週の臨地実習となった。



旧校舎授業風景

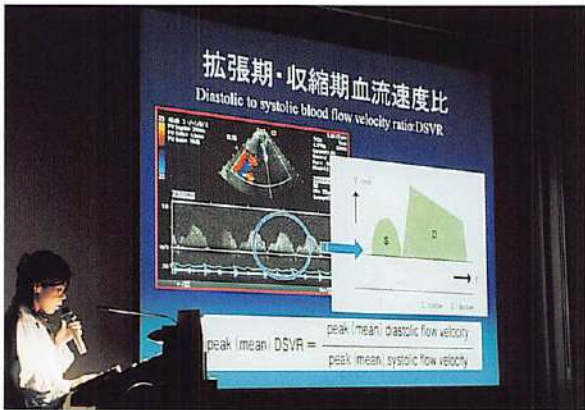




細胞診実習



微生物学実習



研究実習発表会



こどもおちばがえり ひのきしん



スキー実習



天理教大祭参拝



3. 新校舎建設までの経緯と新校舎

旧校舎は、明治35年（1902年）～明治41年（1908年）にかけて、「天理教校」として建築された校舎の一部であり、約1世紀にわたり多くの卒業生を輩出した。本校においても約30年間で850名の卒業生を世に送り出したこととなる。

しかし、この校舎が近い将来、使用の限界が来ることは明らかであったため、昭和63年頃からの学校の教育を続けるために最低必要な設備、校舎の配置概要などをまとめ、平成4年に中田武彦世話部長に提出し、天理中学の校舎（昭和42年建築）を使用してはどうかとの話もいただいた。

そのような中、天理医学技術学校・天理看護学院校舎の新築の話が持ち上がり、平成6年1月4日の新年互礼会挨拶の中で理事長より、両校新築決定が公表された。

平成7年1月に株式会社竹中工務店により新築工事が開始され、平成8年7月に完成した。新校舎の概要は1階には学生と教員、学生と講師、学生と卒業生（同窓生）、教職員間などコミュニケーションを取り合い、ふれあいの場としてのスペースとなっている。2階には講義室やスモールグループディスカッションのための演習室が配置され、知識を修めるスペースとなっている。3階には物理系、化学系、生物系の実習室を一堂に集め、効果的に実習が行えるように工夫しており、技術を修めるスペースとなっている。4階には特別講義や卒後教育にも使用できる大講義室（140名収容）があり、生涯研修のスペースとなっている。その他、看護学院との共用のスペースとして、医学技術学校棟の5階には食堂、看護学院棟の4・5階には講堂兼体育館があり入学式や卒業式の会場としても利用されている。

4. 中山善衛三代真柱様新校舎お入込み

平成8年9月1日、中山善衛三代真柱様ご夫妻、善司様（現真柱様）ご夫妻がご来校になり、看護学院玄関前でテープカットの後、奥村秀弘看護学院長、高橋浩医学技術学校長の案内で両校内を視察された。続いて体育館兼講堂で、両校の職員、学生および「憩の家」職員に対しお言葉（本誌巻頭掲載）をいただき、その後、深谷善和理事長よりお礼と決意の言葉があった。ご退場後、学院応接室にて『一手一つ』（11ページ掲載）のご揮毫を賜った。

5. 新校舎落成披露

平成8年9月1日の内部関係者への披露宴は食堂で行われ、教会本部関係、業者関係、管内学校関係および天理よろづ相談所関係者約300名の出席者であった。今村俊三事務局長の司会のもと、深谷善和理事長の挨拶、松田元次前理事長の音頭で祝福の乾杯が行われ、和気あいあいの中宴が進んだ。平成8年9月5日は部外関係者への披露・祝賀会が開催され、体育館兼講堂で式典、食堂で祝賀会が開催された。官公庁関係、学校関係、天理よろづ相談所関係、協力業者関係、報道関係など約140名の出席者であり、我々教職員も出席させていただき、このような立派な校舎で教育ができる事が夢のようであり、感謝と喜びでいっぱいであった。



真柱様お入込み テープカット



新校舎外観



正面玄関



新校舎西側面



体育館兼講堂（看護学院棟4・5階）



脳波実習



学校長退職記念講義（高橋 浩 二代学校長）



国家試験激励会（奥村 秀弘 三代学校長）



医用工学実習



公衆衛生学実習



顕微鏡検査学実習



化学検査学実習



第3節 臨床工学専攻科とダブルライセンス

1. 臨床工学専攻科開設の目的と認可までの経緯

臨床工学技士は医師の指示のもとに人工心肺装置、血液浄化装置、人工呼吸器、除細動器、体外式ペースメーカーなどの生命維持管理装置の操作および保守点検を仕事とする医療専門職種である。昭和63年4月1日に臨床工学技士法が施行されるまでは、その仕事の多くの部分を臨床検査技師が担当していた。技士法が施行されてから平成5年3月31までの5年間は経過処置として、厚生労働大臣指定の講習を受け、かつ生命維持管理装置の操作等を5年以上業として行った者には、臨床工学技士国家試験受験資格が与えられた。天理よろづ相談所病院においては多くの臨床検査技師がこの経過処置を利用して臨床工学技士となった。

当院にとって自施設で養成した臨床工学技士が平成5年以降も必要であること、また、本校においても既存の臨床検査学科で学んだ学生に対して引き続き1年間の専門教育を行う事により、4年で2つの医療資格（ダブルライセンス）を取得することが可能となり、医療現場が求めるより幅の広いニーズに対応できる医療従事者を輩出できるとの判断から、平成11年頃より本校に「臨床工学専攻科」の新設の検討および準備を開始した。

平成12年9月2日に行われた天理よろづ相談所理事会において、天理医学技術学校に平成13年度より「臨床工学専攻科」を新設することが可決され、平成13年3月30日付けで厚生労働省より指定校として認定された。

臨床工学技士の教育開始に当たっては専用の教室、実習室を設け、実習に必要な機器のうち高価な機器については天理よろづ相談所病院のご好意で調達する事ができた。また電気、機械等の工学系の科目については近隣の工学系の大学より講師を派遣していただける事となった。

2. カリキュラム（講義・実習）実施概要

専攻科は3年かけて教育が行われるところを、1年間で実施するため教育もハードであるとともに、受験資格についても次頁の表に示すように多くの科目の既習が必要であった。また専攻科では1年間に4期間に分割して、集中的な教育を実施した。

第1期（4～6月）は、応用数学、材料工学、電気電子工学、医用工学概論、医用機器学概論、医用機器安全管理学、生体機能代行技術学（血液浄化）、医用治療機器学の基礎工学および専門科目の講義を実施した。

第2期（7～9月）は、臨床実習（病院実習）と臨床実習に必要な学内実習（生体機能代行技術学実習、医用治療機器学実習）が行われた。夏期休暇もお盆前後の2週間となり、本校の特徴でもある実践力、即戦力を養う教育を実施した。

第3期（10～12月）は、医用物性工学、機械工学、医用計測工学、電気電子工学、電子工学実習の基礎工学科目と生体機能代行技術学（循環器、呼吸器）、医用機器安全管理学実習が行われている。この期間のもう一つの大切な科目群は、治療を中心とした臨床医学系の講義である。内科学概論、循環器系、呼吸器系、腎泌尿器系、外科学概論、麻酔科学、集中治療医学、手術部医学等の講義が約10名の「憩の家」現役医師によって集中的に実施した。

第4期（1～2月）は、国家試験のための補習と模擬試験を頻繁に行い、合格のための猛勉強の毎日となった。



表 臨床工学専攻科の受験資格（履修条件）

①人文科学のうち 2科目以上	②社会科学のうち 2科目以上
③自然科学のうち 2科目以上	④外国語
⑥以下の科目のうち 8科目以上	⑤保健体育

公衆衛生学、解剖学、生理学、病理学、生化学、免疫学、看護学概論、保健技術学、応用数学、医用工学概論、システム工学、情報処理工学、電気工学、電子工学、物性工学、機械工学、材料工学、計測工学、放射線工学概論、臨床医学概論および内科診断学

3. ダブルライセンス

臨床工学専攻科の開設当初は4年間で2つの国家資格をとる事（ダブルライセンス）が可能であるということで出発し、実際には2つ国家資格を取得できない学生もいた。2つの国家資格を取得できなかった学生の全ては臨床検査技師国家試験の不合格であった。

この問題を解決するため、平成19年度より一般入学選考試験に加え本校臨床検査学科からの内部推薦入学選考試験を実施し、臨床検査学科の成績が優秀な学生を入学させる制度を設けた。この結果として、臨床工学専攻科は開校以来13年間、国家試験の合格率は毎年100%を維持した。また臨床検査学科についても本校入学当初よりダブルライセンスを目標とするなど国家試験合格の意欲がより高まり、平成19年より臨床検査技師国家試験においても8年間100%の合格率を示した。

臨床工学専攻科の設立は国家試験だけではなく多くの面でも良い影響を与えた。1年制の教育は先輩、後輩がないのが普通であるが、本校臨床工学専攻科の学生は臨床検査学科の卒業生が多く、臨床検査学科の学生にとっては最上級生のような感がある。朝の参拝、講義、実習の出席率が100%に近く、夏休みも短く、ハードなカリキュラムをこなす臨床工学専攻科の学生は臨床検査学科の学生に対して学習面においても生活面においても模範となり励みとなった。



臨床実習



生体機能代行技術学実習



第4節 天理医学技術学校閉校

1. 閉校までの経過

18歳人口は平成3年頃より減少の一途をたどり、進学希望者および保護者の大学指向はますます強くなる傾向が認められ、専修学校への希望者の減少傾向が加速してきた。現に平成10年13校程度であった大学が平成20年には40校を超えるようになり、専修学校の大学への移行は増加してきた。さらに医療の進歩に伴い、学習内容は増加すると共に高度化し、医療分野への貢献を高めるためには、大学に移行し、より優秀な学生を集め高度な教育をする必要が生じてきた。

この見解に基づき天理よろづ相談所において天理医学技術学校と天理看護学院を統合し、大学として教育することが検討された。平成22年11月2日の理事会において、天理看護学院および天理医学技術学校は資質向上の視点から、平成24年開学予定の天理医療大学に教育を移行し、平成26年3月をもって閉校とする事が決定された。

天理医療大学の設置申請、開学に伴い、本校においては校舎を共に使用する事の申請ならびに学生募集の停止等の閉校に向けての手続きを開始し、平成26年3月31日付けで近畿厚生局より「学校廃止認可」通知を受け、同日をもって閉校となった。

閉校等に伴う手続き

平成22年12月 「臨床検査学科の募集中止届」を近畿厚生局長に提出

平成23年12月 「校舎の各室の用途及び面積の変更承認申請」を近畿厚生局長に提出

平成24年 2月 「校地変更（減少）届」を奈良県知事に提出

平成24年 9月 「臨床工学専攻科の募集中止届」を近畿厚生局長に提出

平成25年 1月 「校地変更（減少）届」を奈良県知事に提出

平成25年 9月 「臨床検査学科・臨床工学専攻科の指定取消申請」を近畿厚生局長に提出

平成26年 1月 「学校廃止認可申請」を奈良県知事に提出

2. 閉校式典

平成26年3月22日午前10時より真柱様ならびに山澤廣昭内統領ご臨席のもと、天理医学技術学校閉校式が挙行された。閉校式には真柱様を始め招待者83名、同窓生167名の合計250名が出席した。曾山奉教専任教員の司会で、上野治彦天理医療大学事務局長の開式の辞に始まり、教会本部遙拝、よろづよ八首奉唱、19名の物故者への黙祷を行い、引き続き真柱様よりお言葉（本誌巻頭掲載）を頂戴した。その後、横山一郎理事長挨拶、奥村秀弘学校長式辞、来賓挨拶として内統領山澤廣昭先生、天理医療大学学長吉田修先生よりご挨拶をいただいた。最後に同窓生全員で仰げば尊し、蛍の光を斉唱して約1時間で滞りなく閉校式が終了した。



真柱様 お言葉



山澤廣昭 内統領挨拶



横山一郎理事長は挨拶で天理医学技術学校の国家試験合格率の高さや、皆勤賞受賞する学生の多さなどの実績を踏まえ、歴代学校教職員に対し、労いの言葉をかけられた。そして教育について、教育とは教えて育てることであり、教えることは自分の持っている知識、技術を学生に伝えることでそんなに難しいことではないが、信条教育を基に人を本当に育てる事の難しさを説かれた。信条教育において天理教教義を説くのは容易だが、それを通して学生を本当に育てることが大切である。本校の実績は朝の参拝などを通して信条教育が実践された結果であると述べられた。また、「人に尽くすことを自らの喜びとする」を建学の精神とする天理医療大学にもこの信条教育の伝統が引き継がれていくことを確信していると述べられた。知識、技術に加え、信条教育を通し人格を陶冶し、「おたすけの心」で周囲への心遣いをするのが大切であると締めくくられた。



横山一郎 理事長挨拶



奥村秀弘 学校長式辞

奥村秀弘学校長は式辞で恩師の古畑積善先生に教えて頂いた言葉である「全終」、終わりを全うすべし、すなわち最後まで立派に成し遂げるとい言葉の意味の大切さについて述べられた。平成9年に高橋前学校長の後を引き継ぎ、本校の伝統の継承と更なる発展のために必要なことを考えたときに、設立の理念をしっかりと心に納め、科学的な知識、技術を学ぶだけでなく宗教的な温かい豊かな心を身につける学校であるべきと考え、そのために特に信条教育に力を注いだと述べられた。信条教育の一つとして朝の昇殿参拝を励行することに力を入れた。その結果、平成11年には皆勤賞を受ける学生が出て、その後、卒業生の半数以上が皆勤賞を受賞するようになり、同時に臨床検査学科の国家試験の合格率も8年連続で100%となった。これらは昇殿参拝から始まる規則正しい生活がもたらした成果であり、平成13年に設立された臨床工学専攻科についても13年連続国家試験合格率100%を維持できたのも同様であると述べられた。

本校は教会本部のご指導のもと、学生も教職員も一体となり、我が国で例のない天理医学技術学校の素晴らしい伝統と歴史を築いてきた。お陰様で立派に終わりを全うすることができたと考えております、願わくば天理医療大学臨床検査学科に天理医学技術学校のすばらしい伝統と歴史を受け継いでいただけるようお願いしたいと締めくくられた。



吉田修 天理医療大学学長挨拶



仰げば尊し・蛍の光斉唱



閉校式終了後、真柱様のご臨席のもと、来賓、招待者を対象とする閉校記念パーティーが5階食堂にて開催された。閉校記念パーティーは上野治彦天理医療大学事務局長の司会で始まり、上田純治世話部長および高橋浩前学校長に挨拶をいただき、引き続き市村義輝同窓会会長の音頭で乾杯し、開宴となった。会場は日本民謡協会、津軽三味線家元内田實社中の津軽三味線、民謡が披露される中、終始、和やかな雰囲気にも包まれていた。最後に奥村秀弘学校長よりお礼の言葉が述べられ、約1時間20分の宴がお開きとなった。

一方で、同窓生については看護学院棟3階の大教室C、D、Eにて仕出し弁当を食べながら、在学時のアルバムを見たり、学友と在学時の思い出話に、楽しい時間を過ごした。また、途中から高橋浩前学校長ほか、恩師の教員も交え和やかな時間が流れた。



上田純治 世話部長挨拶



高橋 浩 前学校長挨拶



市村輝義 同窓会会長による乾杯



内田 實 社中による津軽三味線演奏



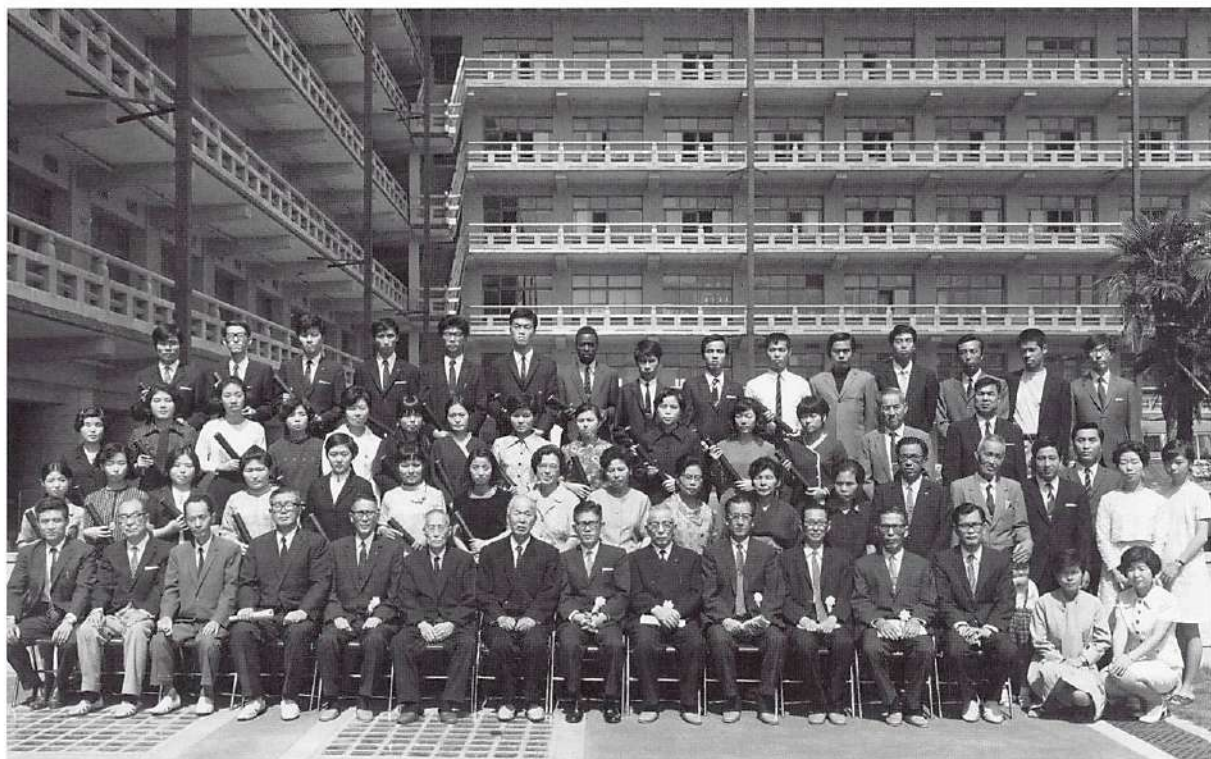
高橋 浩 前学校長を囲んで



同窓生との歓談

第2章 各期の卒業生 (卒業記念写真・卒業生氏名・メッセージ)





臨床検査学科（天理衛生検査技師学校） 第1期生（昭和44年9月20日卒業）

Graduates

小倉 津由子	加藤 晃	谷口 泰則	橋本 志津香	マユーマ アントワン
榎田 正	神田 道代	筒井 誠	平井 清子	南本 正篤
大川 良子	木原 廣子	中尾 礼子	平山 好美	村上 治
岡 静子	小木 幸人	中崎 利彦	藤本 佳永	森田 敏子
大崎 和恵	杉原 宏美	中村 操	前川 芳明	山口 太
岡本 光生	高嶋 克子	西尾 育子	町田 勢津子	山本 眞理子
梶間 清隆	立花 ヨシエ	野田 慶徳	松田 隆	

Message

入学後、最初の実習は荷解き

前年に病院が開院。大変な時期に先生方は開校に向けての準備作業に大わらわ。でも、そんなことは勿論知らない私たち。最初の実習は荷解き。本当に手作りの学校って感じでした。

若い時の苦労は青春の味

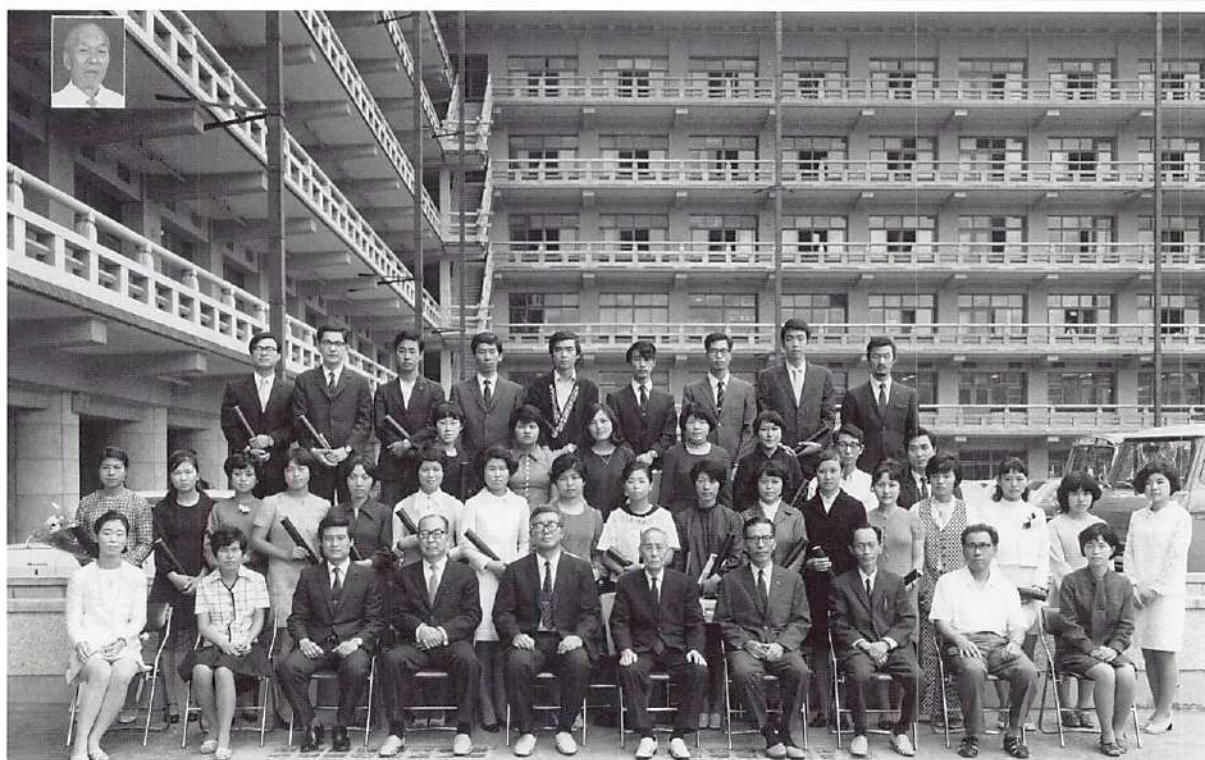
昼間は病院でのお手伝い。夜間は勉強。講師であるドクターは私たちに情熱をもって講義してくださいました。それが今でも強く心に残っています。「大変だったね」と思われるかわかりませんが、いま振り返ると、楽しかったなあ～ということしか思い出せません。この時期に学んだことが、臨床検査技師としての基礎となったことには間違いありません。

ふらすこ 1969

今、手元に卒業記念文集“ふらすこ”があります。現在も“ふらすこ”は続いているのでしょうか。「一期生におくる」。これは高橋浩先生のお言葉。慣れない天理に赴任、開校準備、初めての卒業生を送り出す。この大役を果たされた思いが痛いほど伝わってきます。

母校は天理医療大学へと発展。1期生としてこれ程晴れがましくもあり、ありがたいことはありません。益々の発展を祈念いたします。

（前川 芳明 記）



臨床検査学科（天理衛生検査技師学校） 第2期生（昭和45年9月22日卒業）

Graduates

青木 健治	岡田 雅幸	酒井 ふみ代	中林 ふでみ	松本 逸枝
阿式 一恵	小野 喜雄	阪木 佐和子	西 栄子	宮西 節子
有馬 幸子	川村 節子	瀬川 義朗	原田 敦喜	
市村 輝義	木田 光雄	竹内 文世	春名 桃江	
梅田 保子	木寅 千恵子	竹内 裕子	樋口 やう子	
大河内 卓士	切戸 美子	出口 正子	増井 ひさ子	
大柳 礼子	阪井 照子	中里 幸恵	増田 喜一	

Message

【第2期生から思い出の一言】

- ・ 神様に ひきよせられて 今日の幸
- ・ 伝統校 続いてほしい 我が母校
- ・ 「臨床病理部分室」（仕事・教育の原点）
- ・ ウサギからの採血、床に溢した水銀拾い
- ・ 職人の腕を競ったサンズとミニペット
- ・ アラいやだ「上手に採って」と言う自分
- ・ 動物舎 餌を求めて ピクニック
- ・ 実習後の夜の講義、すべての声の子守唄
- ・ 講義は部長クラス よかった 休講多くて
- ・ 世界遺産登録？冷（冬）暖（夏）完備の我が校舎
- ・ 懐かしい古い校舎、仲間・先輩、しみじみ感謝
- ・ 軽やかに 社交ダンスの 天中講堂
- ・ 記憶に残るは 食べて喋って笑った 寮生活
- ・ 別荘 屋根の上で フトン干す
- ・ ストープに当たりながら聴いた世界の名曲、
- ・ そこは教室の延長となった深夜の職員室
- ・ 病院実習、夜間授業、寮生活、戸惑いと感激のひとつときでした
- ・ 勉強しなかったか。悪友ほど真剣に生きている
- ・ 逃避行 ラッパ吹きや 夢の中
- ・ 月日は百代の過客にして…の心境、青春の一部
- ・ 学校には私の全てを作ってもらったと言っても過言ではありません。
- ・ 若く充実の日々、颯爽と遊び（学びは不足）
- ・ はじめてのバイト、ゴルフキャディ、寿司屋、中華料理とチャーハンの本格料理、習い覚え、寮で夜腕をふるう
- ・ 実は酒豪だったと判明
- ・ 貧乏でもはち切れそうな丸い顔、人生の分岐点
- ・ 貧乏ひまなしです （編集：木田 光雄）



臨床検査学科（天理衛生検査技師学校） 第3期生（昭和46年3月24日卒業）

Graduates

有持 益江	加納 ゆり	重田 裕司	足田 裕子	八原 敏子
石川 多美恵	川澄 禮子	柴崎 定男	増田 徳代	和田 安美
石出 麗子	川端 淑恵	滝沢 清	松本 育子	大橋 功
石原 明	桑野 美千代	谷澤 道子	三根 たまよ	片山 博正
板場 信子	近藤 満理子	永田 容子	森直伸	森岡 義守
井村 朱視	阪本 節代	中村 眞知子	森本 正代	
小田 唱子	佐藤 秀子	中山 泰行	柳瀬 公香	

Message

入学生は大半天理教関係の人達で、現役生と少し年齢の離れた人が約半々、女子が少し多かった。ちなみに上田先生も一緒に入られ担任であった。

一年生の授業で驚いたのは、基礎科目にドイツ語があること、当時はまだドイツ語の医学文献が支流でその文献を読むための授業だそう、イッヒリベン…わからない。もう一つは、剖検の見学があること、授業中突然〇〇さん病院の剖検室に見学に行ってください、アア心の準備が…剖検室では患者さんが横たえられ剖検が始まる、医師、先輩達がてきぱきと肝臓・肺・心臓・腸など取り出している、私達はただ固まったまま身動きも出来ず見ているだけ、途中で気分が悪くなり出て行った人もある、子供の剖検の時は、なぜか涙が止まらなかった。夏、合同のキャンプ1・2期生の都

合上一泊だが、キャンプファイヤーでの歌・各期の出し物・ホークダンスなどアルコールが入るのでヒートアップ夜遅くまではしゃぎまわった。文化祭、会合は1・2期生が昼病院夜学校で夜八時ごろから始まる、文化祭前一週間ぐらいは帰るのは12時をまわっていた。メインは2日目のダンスパーティ、天理アルスジャズバンドを入れて行ったため大盛況、接待で忙しくダンスまで手が回らない。

二年生病院実習、朝から夜遅くまで病院にいた、化学検査、血液検査はその日のルーチン検査が終わってから実習、生理検査はほとんどルーチン検査の手伝い、心電図はポータブル心電計をもって病棟に、脳波検査は患者さんの脳波を検査、その為勉強もした。

（石原明 記）



臨床検査学科（天理衛生検査技師学校） 第4期生（昭和47年3月21日卒業）

Graduates

荒川 小百合	栗栖 千里	高丸 元代	藤木 久夫	山本 慶和
上野 秀雄	黒木 英子	竹上 恵	文沢 幸子	吉田 四男美
内田 有紀	古場 峰明	巽 義美	堀 一江	渡辺 包子
宇都宮 築子	小宮山 節子	田辺 恵三子	松井 三枝子	
小川 みの江	薦田 芳子	寺脇 成子	松阪 淳	
木原 福女	佐野 麗子	長谷川 妙子	松本 秀子	
金城 佐登志	角 和子	畠中 美文	山本 みや子	

Message

4期は学校創立4年目、まだ病院も真新しく、職員も20代ばかりの勢いのある黎明期とも言える時代でした。学校もまだ手探りで、それ故に挑戦と思える授業があり、私達に強烈な印象を残しています。入学時に渡された血液学、血清学、免疫学、の「ト」が「ー」の英語原書が教科書であり、これを訳して説明、と言うのが初日からの授業でした。解説に明け暮れ、将来解ると言う先生の言葉を信じるには基礎知識も無い私達には、単語を追いかける日々、午前9分×3の270分の時間は長かった。松田先生の強烈な個性と熱意、なにより凄かったあの高度で迫力ある講義内容は今でも集まれば必ず4期生の話題に上り同期の宝となっています。英語だけでも？なのに、なんとドイツ語までも！今では、男性名詞と女性名詞があ

ることくらいしか頭に残っていません。午後からの基礎実習は定時に終れず、結果を出すのに夜遅くまで必死でした。4期のチークはここからきたものだと思います。今では出来ない動物実験に関わることができたのもあの時代だったからでしょう。これらの授業は学校の内容充実への挑戦ではなかったかと思えます。卒業時は4期生だけしか経験していない事がありました。当時、衛生検査技師から臨床検査技師に移行する年でしたので合宿しながら、天下の京大で補習講義を、京大生？として受講することができたのです。授業外の思い出は大人の1、2期生につられてダンスパーティーやコンパ、夏のキャンプ、文化祭、卒業旅行と盛りだくさんで活動的で充実した学生時代が今でも良き思い出になっています。（藤野 吉田 記）



臨床検査学科（天理衛生検査技師学校）第5期生（昭和48年3月20日卒業）

Graduates

秋山 裕子	江嶋 祐美	笹田 健好	中村 和子	恵 正子
石津 徹幸	大城 恵子	島津 美恵子	西 健裕	森田 淳子
五十川 静男	楯ヶ瀬 孝	杉山 淳子	西岡 旬子	山口 京子
乾 あけみ	鎌松 千鶴	立川 元枝	西川 博之	山谷 和子
猪口 直子	小池 里恵	谷口 恵美子	橋口 由紀子	山本 歌子
岩井 誠	小芝 百合子	戸崎 みき	三浦 久吉	吉岡 竜子
上柿 初代	佐久間 美也子	中島 たつみ	村上 みき	和田 ふさ子

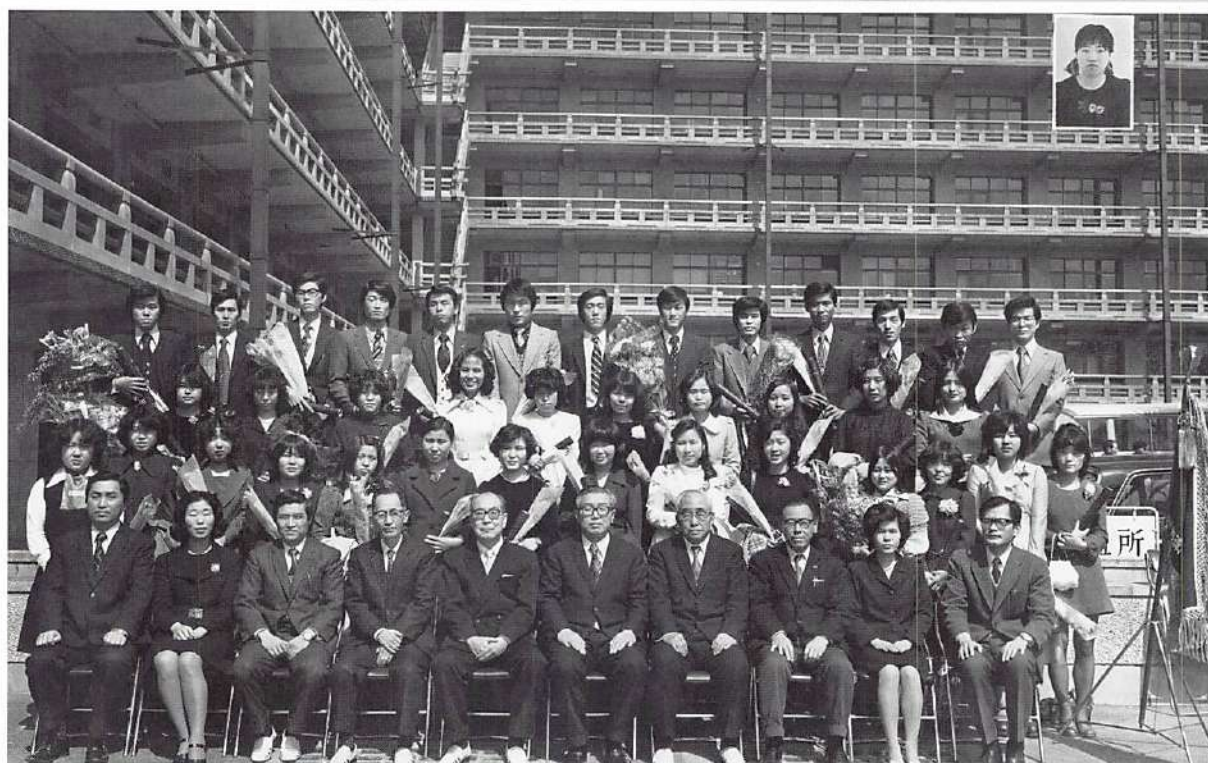
Message

5期生同窓の想い出

5期生のポジションを確認しよう。団塊の世代の次、デザインキャラクター世代、縛られない自由な発想、個人の尊重が特徴。父親世代は何らかの形で戦争経験、検査技師学校時代は、高度成長期の余勢をかって明るく派手な消費時代、医療技術的には、セミオートの爛熟期、ITへの変換への揺籃期、まだ検査項目は、病態の影を追っていた時代。名人的テクニシャンが存在して、華麗な職人芸、職人氣質がひとつの目標であった時代。臨床検査をまとまった学問の領域まで高めるといふ高邁な学校運営集団者の意志。そういった時代背景の中で、よりによってほぼ全員がまじめ人間、善良なる魂の持主、前向きな姿勢、といったグループ性格がはまりにはまって、優秀で堅実なまさに

検査技師にうってつけの人材を輩出したようである。男性は8名、理科系の冷静で芯の強い女性が多かった。学生時代はレポート・レポートで追いまくられ、つかの間のコンパが息抜き、人間としての素養を深める他のジャンルの読書、スポーツなどに時間をさく余裕のない、検査づけの時代であった。瓦、木、廊下の校舎と時代背景が実になつかしい。ちょうどこの寄稿が寄せられる今年が定年を迎える5期でもある。昭和はその前半は暗く後半は明るくのびやかであった。父親世代から暗さも語り伝えられながらも、正午に向かう元気な時代に、人間性を保てながら、青春時代と検査技師を堪能した幸せな期である。

（松田 誠（旧姓：岩井） 記）



臨床検査学科（天理衛生検査技師学校）第6期生（昭和49年3月20日卒業）

Graduates

青山 信昭	大西 とよ	清水 貞俊	谷 満理子	中西 智恵子	芳野 克久
安部 なみよ	奥沢 松枝	上木 正成	田村 まち子	中村 洋子	米田 和子
新井 早百合	奥村 勇	鈴木 一枝	知花 千鶴子	東岡 利枝	
岩崎 恵美子	笠倉 和之	鈴木 朋子	鶴田 昌子	前 実世子	
岩谷 一雄	北川 ふく	高橋 のぶこ	渡具知 稔	村上 公江	
上原 明彦	久保田 理彦	田中 恵子	中上 道治	森 道広	
大峠 和彦	佐野 孝子	田中 みのり	中岡 節子	横内 芳子	

Message

ご他聞にもれず、我が6期生も全国各地から来ており、卒業した37人（男：13、女：24）の出身地を列記すると、東北、北海道：4、関東：2、中部：9、近畿：10、中四国：6、九州沖縄：6人、と津々浦々といった感じでした。ちなみに私は岐阜出身です。在学同時の先生方の事は今も折に触れ思い起こされます。担任の喜多村昭子先生にはいろいろとお世話になりました。北陸方面の研修旅行もご一緒いただき、金沢大学中央検査室の見学をメインに、冬の荒れた日本海と東尋坊、兼六園の散策など、はじめて訪れた北陸の地はすばらしい思い出として残っています。教務主任の松田信義先生、教授目標のみにとらわれることなく、脱線ありきといった独特な授業は印象的で講義時間が早く感じられたものです。

また実はやさしい先生でしたが、当時はこわ〜い感じだった岡村先生や、見るからに温和で明るい桐林先生など、入学した直後から始まったハードなオリエンテーション実習、学内実習や講義、病院実習では素晴らしい講師の先生や先輩技師の方々にたいへんお世話になりました。2013年の今年には6期の多くの方が60才の還暦を迎えられます。私もこの4月に迎え定年退職いたしました。（まだまだ…）、（これからが青春…）ではありませんが、健康管理にはより一層の注意を払っていきたいものです。同期の方々は元気で暮らしの事と聞いておりますが、天理医学技術学校同窓会員の皆様方の益々のご健康とご多幸を祈念しつつ在学時の思い出のページといたします。

（岩谷 一雄 記）



臨床検査学科 第7期生（昭和51年3月19日卒業）

Graduates

石川 和子	大河内 睦子	高橋 陽子	松田 徳子
稲葉 康則	太田 隆	田崎 昭夫	松宮 千恵
今村 理喜代	大野 幸子	田中 宏幸	松村 和彦
岩室 ちさと	奥矢 万里子	千歳 とも	向井 照美
上西 薫	熊谷 寿代	露口 好江	安田 正利
上西 久美子	小林 育代	中田 茂	湯川 弘子
上野 真由美	瀬良 和子	林 ひとみ	渡辺 明美

Message

7期の我々が入学した年は、臨床検査技師を養成するべく従来の2年制の天理衛生検査技師学校を天理医学技術学校に改称し、新たに3年制として出発した時期でした。我々は天理医学技術学校としては第1期生になります。

天理教校ゆかりの木造校舎を使用し多くの検査学を学んでいました。記憶にあるのは、化学実習ではデータ集計で計算が必要なとき、現在のように電卓が発達していなかったため、紙に計算式を書いてみたり、ソロバンを使ったり、計算尺を使ったりと工夫して結果を出していました。また、学校には大容量の蒸留水製造装置がなかったためか、実習中に蒸留水タンクを自転車の後に積んで、本院の7階中央材料室へ蒸留水を貰いに行った記憶があります。このように苦勞して実習を行って

いたのだなあと思い返されます。

自治会活動も自由闊達で、新しいキャンプ場（洞川）での学生同士のコミュニケーションや学校内の広い講堂で臨床病理部と合同のダンスパーティーを行ったりと楽しいひとときを過ごせたことも良き思い出となっています。

28名が卒業し、天理よろづ相談所病院をはじめ各地の医療現場で、病める人たちの一助になればと現在まで頑張ってきました。その我々も定年を迎える時期が間近となり、定年後は検査技師として継続する者もあり、また第二の人生を謳歌する者もあるでしょう。天理医学技術学校が閉校になることは実に寂しい限りですが、当時の学生生活の良き思い出は、それぞれの胸の中に永遠に残るものと思っています。（安田 正利 記）



臨床検査学科 第8期生（昭和52年3月19日卒業）

Graduates

芦田 公子	小山 富子	富沢 雅治	西原 えり子	森井 紀里
石原 弓子	佐々木 さと	土居 忠文	原 まゆみ	藪田 邦子
上西 千鶴	下地 朝子	堂浦 俊美	原 都	山本 隆子
岡山 幸成	砂原 佳代子	西久保 敦子	東中 千鶴子	吉村 房子
桑野 法子	竹下 洋子	西蘭 真木子	藤田 恵子	渡部 智恵子
郷内 るみ子	竹中 裕子	西田 和代	藤田 憲治	
小原 喜志子	寺脇 邦子	西野 千代	前田 啓子	

Message

8期生思い出話ベスト5

その① 上田先生が「この実習室に入ってはいけません」と言われた。入ってはいけませんと言われると入りたくなるもので、なんだろうと入ったら、机と床に白い埃の様なものが付いていて、ダニの大量発生だった。ギャー！！その② その当時パソコンどころか電卓さえ無い時代で、実習後の変動係数や、標準偏差を出すのに、紙に書いてソロバンや計算尺で計算したので、夜中の2～3時頃までかかった。しんどかった。その③ 2013年の今年、風疹が流行しているが、思い起こせば、私達が学生の頃も大流行した。なんと、修学旅行に行く船中で、GさんとNさんが発熱！結局彼女達は、ホテルで寝ていることに、さらにK先生も倒れ、旅行から帰ってからも次々と感染し、

クラスの大半が風疹にかかってしまった。

その④ 1年生の時、文化祭でダンスパーティが開かれた。ワルツ、ルンバ、ジルバ…しかも生演奏付き、病院の他部署の方、外国の方、先輩方々も来られ、超満員で大盛況だった。その⑤ 学生だった30数年前の洗浄液は硫酸に二クロム酸カリを加えたクロム硫酸というものを使用していた。このクロム硫酸、つけた覚えがないのに、ジーンパン、ストッキング、Tシャツに穴をあけてしまう恐ろしい洗浄液だった。作り替えた直後は発熱するため、固いピペット洗浄そうのプラスチックがぐにゃぐにゃになって筒状のものが変形し、このままだとあの恐ろしいクロム硫酸が流れだすんじゃないかとドキドキした。

（岡山、奥村、池内、久保 記）



臨床検査学科 第9期生（昭和53年3月18日卒業）

Graduates

新井 緑	岡本 幸子	鴻池 資啓	高松 良樹	松下 博文
池田 正子	小川 匡之	佐藤 政一	田口 紀久代	三鬼 ひでみ
井上 多恵子	鐵原 拓雄	篠原 茂子	中原文子	溝畠 裕美
井上 信代	川岸 直子	芝田 陽子	東岡 定子	谷口 和歌子
榎本 道子	北浦 啓子	下地 朝夫	藤本 幸代	山田 祐一
岡田 典子	北川 教子	末吉 範行	増田 郁子	横地 正勝
岡本 陽	木寺 英明	関谷 真理	松尾 京子	

Message

検査科9期生の特徴と思い出

9期生34名の出身地は、北は北海道から南は沖縄県宮古島まで全国各地から縁あって集まった仲間たちでした。卒業後も遠く離れた同窓生に久しぶりに会いに行く名目で9期生同窓会は継続され、卒業して30年以上経っても十数名が集まる仲の良い仲間たちです。

卒業後に作成した9期生卒業アルバム「ああ青春」を開くと、一気に学生時代にタイムスリップできます。学生当時の34人の写真と紹介コメントを見ていると思わず微笑んでしまいます。このコメントも才能の1つです。当時は歌といえばフォークソングで、自分でギターを弾いて学校でも寮でもよく歌を歌っていたS君の影響は大きく、放課後旧校舎の学生ホールに集まってはよく

歌った記憶が蘇ってきます。他に、病院職員の野球チームのレギュラーになった人、本校の10周年記念パーティーで得意のバトンを披露してくれた人など、持ち前の才能を色々な所で発揮するユニークな仲間たちでもありました。

3年間担任をして頂いた市村先生には、成人式の前日の宴会で新築された家どころ構わず吐く者もいて、大変ご迷惑をおかけしました。若気の至りといえ、今となっては事の重大さを痛感しています。

思い出が多い天理医学技術学校が閉校になることはこの上なく寂しいことですが、今の自分があるのは学校や恩師や先輩方のおかげであると思うと感謝の気持ちでいっぱいです。

（木寺 英明 記）



臨床検査学科 第10期生（昭和54年3月20日卒業）

Graduates

今井 教嗣	河野 潤子	富崎 緑	藤井 ひとみ
大久保 徹	佐藤 三千代	中川 宜子	南 義弘
大河内 淑恵	杉浦 紀子	中村 恵子	村田 初恵
片岡 良子	高橋 秀一	野田 純代	李田 眞知子
片山 美都子	瀧本 順三郎	萩原 長子	山下 純子
北得 維子	竹下 貴子	橋本 匡子	山梨 三代子
小池 ちおり	辰己 勝代	萬砂 秀雄	横道 富喜子

Message

開校から、半世紀が経過した。感慨深く、10期生の足跡を辿る。

昭和51年3月の二次試験合格者は42名（男9）、4月の入学時では34名（男8）、卒業時は28名（男6）で、近年の傾向（入学者と卒業者数および男女比率はほぼ同じ）とは、かなり違っていた。

10期生の特徴！元OL、作家、大学志望（医学部他）、昔でいう「防人」だった人など、個性溢れる集団であった。思い出話のベスト5！①開校初の国家試験合格100%達成 ②木田先生を交えての宴会の多さ ③仙台、東京方面の研修旅行④臨検祭での演劇 ⑤教室外授業 以上は同窓会でも必出話題である。それぞれのミニ詳細！「松ぼっくりの会」と称する国試対策勉強会グループ

の発足と活動における苦労話。入学2週間後のT君（今、教職）企画の宴会を皮切りに、木田先生ご結婚の祝宴会など、3年間の宴会数は、実に十数回！おかげで深い絆が誕生！2年次の東北、北里、および東海大学病院の見学と、東京での最後の夜、学会帰りの高橋校長が合流され、たっぷりと激論の反省会！1年次の臨検祭の後夜祭で、なんとクラス全員で演劇実演！シナリオは今や心エコー学会重鎮であるT君が、2日間で書き上げたもの。基礎生理でのソフトボール、微生物での花見、医学英語でのレコードによるクリスマスソングの鑑賞、など。忘れえぬ感動の3年間！忘れえぬ言葉！「人を大切にする人は人の理を与えられる」（宗教の授業にて）

教職員先生方に熱く感謝！！（南義弘 記）



臨床検査学科 第11期生（昭和55年3月19日卒業）

Graduates

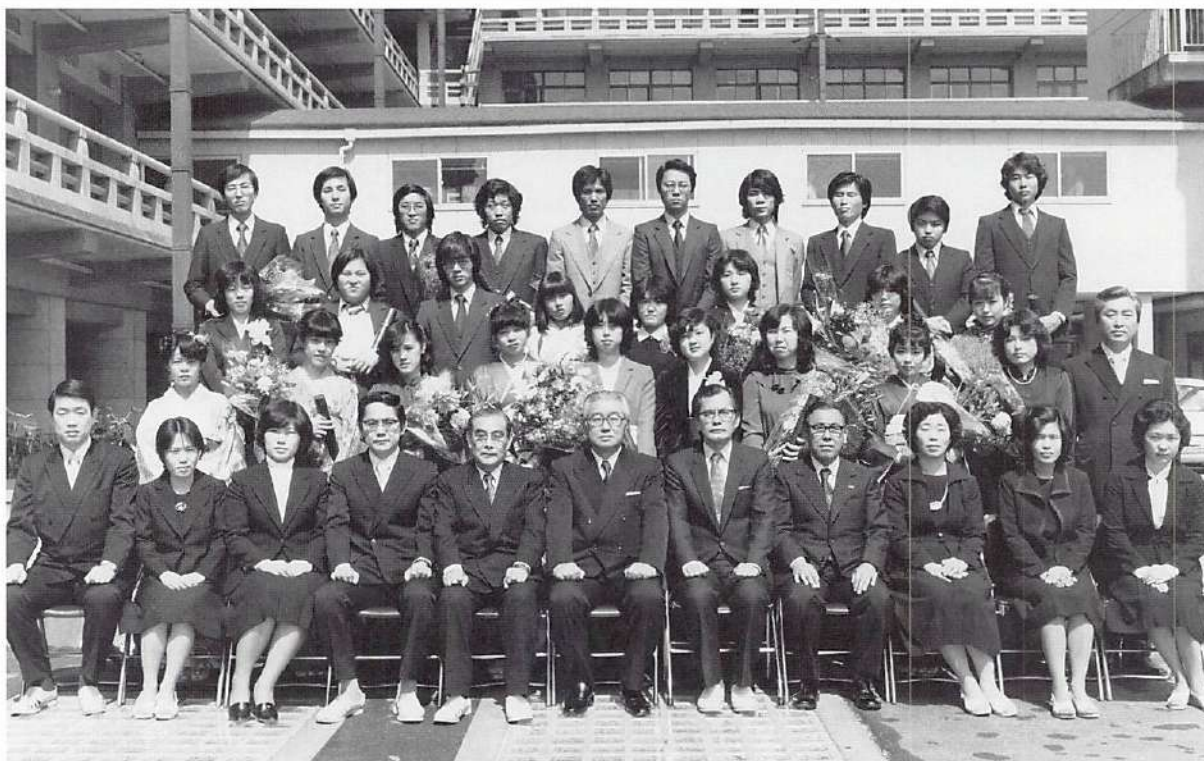
石川 明美	奥田 里美	河野 久	問本 佳予子	藤原 美智子	村松 啓江
石川 真由美	角田 道久	在長 和廣	都所 きみ子	北条 恵美子	村松 宗子
石神 陽子	蒲池 和恵	酒井 美智子	永坂 ユキ	堀川 明美	守谷 みゆき
石田 順子	亀江 なおみ	坂本 律子	西江 紀美子	巻幡 信広	渡辺 加代子
猪田 猛久	唐木 幹次	杉本 佳世子	納口 英次	正木 修一	渡辺 由佳里
内野 知子	木本 柄津子	田上 美鈴	福貴 和雄	松井 英子	
大東 礼子	神津 厚子	塚本 敦子	福田 弘美	松田 玲子	

Message

11期生は40名で最も多い期でした。そのため上の写真を他の期と比較すると一人ひとりが小さく写っており損した気分です。しかし、人が多くは良いことです。前回平成24年の同窓会では旧姓三根先生も同席して下さり13名の参加で他の期よりも多かったと思います。同窓会では出席番号1番から40番まで順にハガキに書かれた近況報告、何処にいるのか、連絡はとれたかなど確認し合い盛り上がりました。どうやら全員達者でいることが分かり何よりでした。住所では北は北海道から南は広島県、愛媛県までの人がいて、九州、沖縄にはいないようです。また幸い東北地方太平洋沖地震では、その地域に住んでいる人はおらず、被災した人もいないようで安心しました。

学生時代の思い出を書くように依頼されましたが、既に30年以上たっており思い出すことは僅かなこと。そこで本当に久しぶりに当時作製したアルバム開いてみました。びっくりしたのは若さと躍動感のある写真が多いことです。当時1枚撮るのもお金が必要で今のように気軽には撮れない時代です。撮られた写真が傑作なものが多いのはそのためかもしれません。プリントもお金がなかったので白黒写真が混じっていますが、かえって落ち着いた感じが出され、躍動感のあるカラー写真のとのコントラストがあり、面白く編集されています。私がどうこう言うよりアルバムを久しぶりに見てみて楽しかった学生時代を思い出してください。

(河野久 記)



臨床検査学科 第12期生（昭和56年3月20日卒業）

Graduates

阿部 浩	大眉 あけみ	津田 淳	春永 育子
伊藤 康彦	片岡 こず江	豊田 充宏	藤本 一満
稲森 茂美	杉岡 玉恵	中川 真澄	松井 正之
上岡 政重	鈴木 昭雄	中嶋 千恵子	丸谷 佐代美
上田 多恵子	砂田 広子	中村 克也	森實 和代
浦 穂波	田中 教雄	名田 久恵	藪内 博史
大谷 敦	谷口 和代	原田 譲	

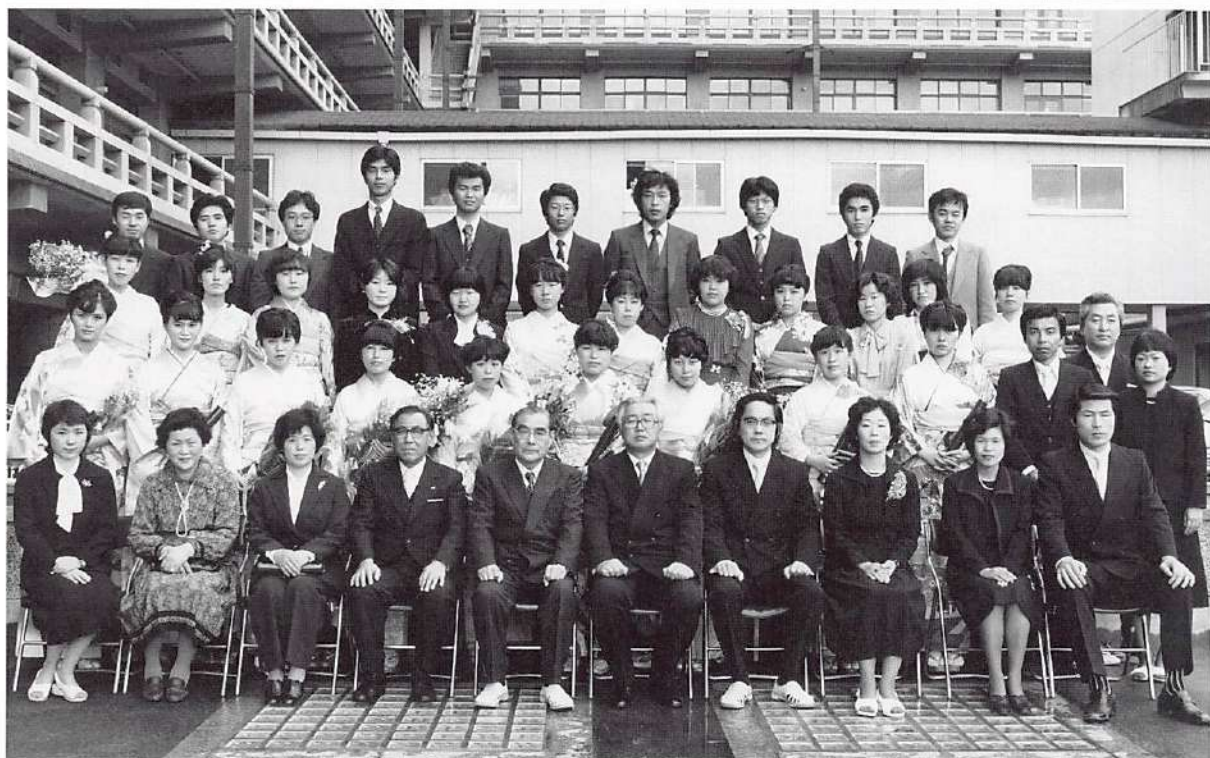
Message

12期生の思い出

私が天理医学技術学校へ入学したのは1978年で、古びた校舎を見てこれが学校か？と驚いた。当時は臨床検査技師がどのような職業なのかを知らないまま入学し、初めての採血実習では、緊張して手が震えた記憶がある。12期生は市村先生が担任で、非常に個性のある学生が多かった。市村先生の言葉で覚えているのは「どうにかなると思っても、どうにもならん」という言葉で、確かにテスト勉強もろくにせず、テストに臨んだときは、そのとおりだと思ったものである。一年時の学生のキャンプは先発隊から参加し、草刈りや場所づくりに汗を流した。夏のおちぼがえりのひのきしんでは駐車場で車の誘導を行った。2年の病院実習では、いつの間にか迫ってくるレポート

の提出期限を気にしながら、なるべく期限内に提出しようと頑張った。3年の研究実習ではなかなか思うような結果がでず、指導していただいた技師の方々には大変お世話になった。国家試験の時は緊張した。12期は残念ながら100%合格ではなかったが、皆頑張っていた。当時は病院のサッカークラブに学生も参加していた。私はサッカーなどやったことがなかったが、若さだけでやっていた。不思議なことに、憩の家に就職した今もまだ続けている。もうすぐ天理医学技術学校はなくなり、これからは天理医療大学が技師の養成を行っていくことになる。さびしい気もするが、これからは大学卒の技師の活躍にも期待したい。

（豊田 充宏 記）



臨床検査学科 第13期生（昭和57年3月20日卒業）

Graduates

伊藤 起久子	高岡 幸代	仁垣 美香	藤本 伸泰	山口 博子
宇野 眞弓美	田村 幸子	西岡 正彦	藤原 郁子	山本 眞代
岡崎 寿美子	中尾 真紀	野村 和子	栴井 千鶴	吉田 秀人
勝山 政彦	長田 高子	長谷川 正行	松田 雅美	
可畑 眞美	中島 康仁	原 和子	松本 京子	
小瀬 古領	永島 裕之	肥後 覚子	三笠 正則	
園田 直樹	中山 みどり	福塚 勝弘	矢島 良子	

Message

同級生が集まれば必ず話題に上るオリエンテーション、注射器を手にしたこともない者がいきなり他人の静脈へ針を刺す恐怖、忘れもしない動脈噴水事件。毎日繰り広げられる器具争奪戦。忙しい技師さんたちのおっかけをしないと終われない病院実習。火傷しそうなほど熱い先生方、友達という言葉でいつくせない同志たち。学校名は消えても私の血や肉になっています。

by 宇野 真由美

天理医学技術学校の授業や実習を担当していることもあり閉校になることの実感が湧きません。この30年、学生を指導すると共に私自身も大変勉強させていただきました。自分の為でなく患者さんのために、つまり、患者中心の医療こそ天理医学技術学校の基本だと思っています。これが私

の財産となっています。天理医学技術学校は閉校しますが、天理医療大学へその精神を引き継いでもらえるように、我々卒業生は今後もより一層、患者さんの為に医療技術者として精進しなければならないと考えます。

by 吉田 秀人

就職して30年余り、天理医学技術学校で、先生方・仲間と共に大変ハードな3年間を、乗り越えたことを誇りに、頑張ってくる事ができました。皆さんとの出会いに、心より感謝しています。そして、天理医学技術学校は、心の灯台となり、いつまでも皆さんを素晴らしい人生に導いてくれることでしょう。

by 福塚 勝弘



臨床検査学科 第14期生(昭和58年3月19日卒業)

Graduates

井藤 則子	岸森 千幸	田中 聡子	橋本 儀一	森下 恵美子
宇城 千穂	近藤 敏枝	土屋 直道	畑中 徳子	渡辺 真美
梅景 知美	芝山 美和子	中河 須美代	平井 利彦	
岡本 久	城 正志	中村 たまき	船内 和美	
尾山 多恵子	杉邑 芳樹	二重 さゆり	古谷 浩子	
菊山 美貴子	高田 章美	西尾 久明	松本 雅子	
岸本 ひとみ	伊達 祥子	西久保 みち子	丸谷 みゆき	

Message

14期生の特徴と在学中の思い出

14期生は天医校を卒業して31年目になります。平成25年4月1日憩の家永年勤続30年を5人が迎えることができました。同期生各自も各地でベテランとして活躍していることと思います。

14期生の特徴はこれと言ってありませんが、敢えて表現すれば「平均的でおとなしい」でしょうか。個性が強かった12期、13期、15期の間に挟まれていたこともその一因と考えます。

今ではパソコンやスマートフォンで何でもできる時代ですが、当時はテレビを持っている人も少数で、唯一の文明の利器と言えば、親から買ってもらった関数演算ができる電卓でした。2年生時は8ヶ月に渡り病院実習で各部署を回り、レポー

トに追われる日々を過ごしました。3年生時は発表まで5ヶ月程度費やして研究実習を行いました。研究実習の抄録は手書きか一部の人が植字型のタイプライターを用いておりました。スライドもブルースライドであったため撮影から現像まで丸一日掛かり、失敗すれば一からやり直しの繰り返しでした。

当時から天医校卒業生は、国家試験の合格率が高く日本各地で即戦力になる人材であると重宝がられておりました。現在もその校風は着実に受け継がれております。天医校が閉校し天理医療大学に移行しても、その伝統を是非とも引き継いでもらいたいものです。

(土屋直道 記)



臨床検査学科 第15期生（昭和59年3月19日卒業）

Graduates

赤瀬 丈二	柏屋 美貴子	佐藤 洋	松下 由美
今中 ひとみ	加藤 美千代	重久 宜子	宗岡 悦子
岩月 豊盛	菊地 雅彦	草加 英子	森田 加津美
麻植 芳郎	岸 正幸	高橋 一美	山下 瑞穂
大石 典子	小崎 節子	田中 裕子	山下 宗人
大西 博之	小寺 謙一	中嶋 貴代	吉井 孝依
大林 準	小林 良充	仁井 忠	

Message

15期生の思い出

かれこれ30年！前に、15期生は、天理医学技術学校に居りました。

自分たちで言っているいいものかどうかわかりませんが、ひとことで言うと、「ユニークで最高に楽しい15期」だったと、いまでも思っています。とにかく、“学校の授業以外のことをするとき”は、とても団結できた、私たちにとっては、すばらしい15期でした。お酒の飲めない私が、卒業式の夜は、人生初の四次会を経験できたのも、この仲間だからこそと思っています。ただ、次の日から、職場のオリエンテーションが始まり、同期の男性全員が講義中に一番後ろの席で爆睡してしまい、ひんしゅくを買ってしまいました。今考えると、なんていう奴らだったんだろうと反省して

います。

また、教務の先生方には、ご迷惑ばかりかけていた15期だったと思います。ほんとうに申し訳ございませんでした。そして、暖かく見守っていただき、ありがとうございました。

卒業して30年になりますが、今出会っても、時間を飛び越して、心を開いて話の出来る、かけがいのない仲間たちを作らせていただいた、天理医学技術学校に感謝しています。

（大林 準 記）



臨床検査学科 第16期生（昭和60年3月20日卒業）

Graduates

阿比留仁	北川和成	杉本由美子	前川眞吾
荒尾正	久保克美	関口きよみ	松下陽子
大串和弘	小出泰志	高田和子	宮本文
大西規陽子	斉藤永実	大東律子	藪内りか
大矢敬子	澤井章子	服部玉緒	山口尊子
尾崎俊也	島川宏一	濱石理恵	琉健二
角みふく	末永千津子	林田明子	

Message

在学時の思い出

この3年間はとても濃く、険しい道のりでした。振り返ると、◆校舎◆旧校舎は、横からも下からも、すきま風だらけだったこと。◆朝礼◆朝礼でのスピーチはとても緊張したこと。◆キャンプ◆先発隊を結成し、草むらを伐採することから始める、何もかもが本格的なサバイバルキャンプだったこと。◆ひのきしん◆今も昔も変わりませんが、炎天下の中でのおちばがえりひのきしんは、とても暑く、肌が真っ黒になるまで働いたこと。◆臨地実習・研究実習◆諸先輩方には、厳しくかつ、優しく指導していただいたこと。現場の先輩の仕事に対する情熱やプロとしてのプライドの高さに大きく影響を受けたこと。当時の発表スライドは手造りで、夜遅くまでかかりとても大変

だったこと。そして、1つ1つの思い出のそばには、いつも笑顔の友達があったこと、などを思い出しました。◆教務◆最後に、私は個人的に本校には、学生として、教員として2度お世話になりました。諸先生方のご苦勞を知るとともに、学生を育てながら、私自身も成長させていただきました。誇りに思うことは、この学校の精神は、脈々と後輩へ受け継がれていること、多くの卒業生が国内外問わず、活躍されていることです。今、多くの思いを胸に、天理医学技術学校の閉校を受け止めるとともに、お世話になった多くの人々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

（後藤 きよみ（旧姓：関口） 記）



臨床検査学科 第17期生(昭和61年3月15日卒業)

Graduates

阿部 聖美	川本 佳代	田中 秀子	西田 幸代	山本 祥代
阿部 洋士	木村 よう子	田中 みつる	藤田 桂子	
出田 也寸志	小松 正志	藤 愼二	藤原 しのぶ	
井上 雅章	滝本 春美	虎井 由紀子	細野 香	
上坂 册子	竹内 文江	中島 博子	真下 照子	
浦西 さよみ	武田 真由美	中山 恵美子	松田 美由紀	
大迫 昌代	田島 幹子	那須 幸博	御前 均	

Message

卒業から早20数年、45期生の卒業をもって閉校となると知り少々寂しい気持ちであります。さて学校での最初の思い出は入試日の事。待合室となっていたホールの扉が受験生側に倒れるというアクシデント！扉が外れる？平屋の外観といい、重要文化財並の木造校舎に衝撃を受けました。学校生活が始まると朝は参拝からスタートで自宅生にとっては朝早く通学するのは大変だったと思います。実習は夜の8時を過ぎることもありましたが…。実習・レポートに追われる毎日でしたが、キャンプや臨検祭、研修旅行、体育授業のスキーやスケートといろんな経験もできました。ちょうど卒業の年が教祖百年祭の年でひのきしんをしながら国家試験の勉強をしたことも思い出されます。ただなによりも重要なのは17期として

私達が出会ったこと。医技校に来た理由、天理教の信者だから…国試の合格率が高いから…学費が安いから…それぞれに理由があったと思いますが私達は出会いました。そして別れもありました。在学中にひとり、30歳を前にまたひとり友人を亡くしました。命について、生きること・生かされていることについてより強く考えさせられた期だったようにも感じます。木造校舎が近代的な建物に変わり天理医学技術学校は閉校となっても、確かに私達は出会い、学び、巣立ちました。天理の地でまた皆さんと再会できることを楽しみにしております。

(坂本 よう子 (旧姓: 木村) 記)



臨床検査学科 第18期生（昭和62年3月20日卒業）

Graduates

有澤 由美子	小林 靖雄	城内 美香	横田 洋
石本 真弓	坂井 よし	鈴木 健	和田 光代
乾 佐知子	崎 幸代	西尾 陽子	
岡崎 哲也	崎田 光人	西川 昌伸	
梶木 三佳	笹谷 育代	平野 智美	
皮田 順美	佐藤 順子	村井 明子	
幸田 晴康	佐藤 裕司	森井 睦美	

Message

18期の特徴というか、自慢できるところは、男女関係なく学生時代から、現在までみんなの仲が良いことです。仲が良すぎて、同期同士で結婚して今もラブラブな関係を維持しているS夫妻は特別ですが、何年ぶりかであっても、一瞬で打ち解けて飲んで騒げる仲間がいることは人生において幸せなことだと思います。私だけかもしれませんが、クラスの中には一人ぐらい話しくいとかが、ちょっと苦手なタイプの人がいるのが普通だと思いますが、18期の中にはそんな人は一人もいません。

18期の同窓会は5年毎の同窓会総会前夜に行う事が恒例ですが、今年はGWに同窓会をしました。昼に集合して、みんなで奈良公園を歩いて、茶粥とわらび餅食べて、ゼーゼー言いながら若草

山に登って終わりという、超健康的な内容で行いました。その間、ゲームや余興があるわけではなく、だらだらしゃべっているだけですが、それでも結構楽しく感じるし、来てよかったと思えます。その仲間の一人が今年の冬に結婚するというビッグニュースがあり、お祝いパーティーを盛大に行う予定です。

近頃老眼が進行し、白髪も増加し全身の衰えを感じざるを得ない年代で、あと5年もすれば爺ちゃん、婆ちゃんになっている人もいるでしょうが、まだまだ元気で仲良く集まってわいわい騒ぎたいと思っています。

学校が閉校する事は寂しく感じますが、こんな良き仲間と出会えた天理医学技術学校に感謝申し上げます。
(小林 靖雄 記)



臨床検査学科 第19期生 (昭和63年3月19日卒業)

Graduates

伊禮 みどり	清水 俊宏	田村 玲子	細田 薫
大嶋 剛史	下原 洋子	二重 実	村上 珠美
神田 典尚	千崎 香	西村 康司	元廣 暢子
窪 真理	高嶋 徹	西羅 睦子	森嶋 良一
倉橋 雅	高田 みづき	原嶋 一幸	米田 由美子
小島 君子	高橋 由佳	日野 睦	渡辺 周吾
酒向 治恵	竹岡 加陽	別所 直子	

Message

入学から卒業までの私の記憶を辿ってみました。1985年(昭和60年)に30名が入学。1年次は冬には雪が振り込む旧校舎での講義、学内実習、2年次は病院での臨床実習で怖い先輩方から愛情と厳しさの詰まった指導を受け、レポートの期限に追いまくられ、3年次には研究実習、国試対策とあつという間の3年間でした。厳しいスケジュールではありましたが、鍛えられた分みんないい子に育ちました(笑)。3年間の最大イベントはやはり国家試験でした。「国試落ちればただの人」、「めざせ合格率100%連続記録更新」を胸に国家試験を受験(近畿大学にて)しました。丁度、男子9名であったため野球のユニホームを着て挑みました。女子においてははっぴ着てる人、首や頭にレイをしてる人もいたでしょうか?そん

な事をして受験拒否のされないいい時代でした(笑)。全員合格の知らせに達成感を感じ、1988年(昭和63年、昭和末期?の年、バブル全盛期だったよな!)に27名が卒業しました。卒業して26年になり改めて本校で教えて頂いたことを省みると①問題意識を持ち、②解決のため努力を惜しまず耐え、③その先には達成感があることであるとではないかと思います。私事ですが現在、管理職と社内教育に従事しています。教えて頂いた思想、理念を伝えることが私の責務と思っております。高橋校長先生、市村先生、喜多村先生、上田先生、平山先生、岩谷先生、木寺先生、松井さん、田村さん、柘植さん本当にお世話になりありがとうございました。

(原嶋一幸、南 睦、竹岡加陽 記)



臨床検査学科 第20期生（平成元年3月20日卒業）

Graduates

今西 えみ子	黒濟 和代	萩原 裕子	矢野 智仁
大谷 正伸	古山 真由美	東 美子	
落合 由佳子	坂本 真一	藤田 美晴	
岸本 明子	澤 喜代美	前田 朋代	
北浦 朋子	塚谷 百子	前田 美和	
北野 康子	鳥飼 己容子	松林 光代	
久保 典子	中村 智子	宮本 厚子	

Message

早くも卒業してから、四半世紀がたちました。わくわくした気持ちを持ち、それぞれの思い・大きな夢を描いて、旧天理医学技術学校を訪ね、縁あってともに学ぶ仲間になりました。あの木造の校舎を見つめ、門の前で決意を新たに足を踏み入れたこの世界…。一致団結とはほど遠い、ばらばらの自分勝手な個人の集まりでした。

憧れの白衣は、いつも青く、すぐに始まった洗浄実習ではびしょびしょになり、毎日が手書きレポートに追われ、なんとも長く感じた日々でした。気がつけば、食後の食器までも40回洗浄をしてしまうほど身につけていました。学内実習では、割れていない器具の取り合い・二人組みのうさぎ心臓採血・写実実習…わいわいがやがやうるさい学生達でした。研究実習では、日本酒をコッ

プ1杯飲んで1升瓶を前に酔っ払いがぐだぐだ2時間、採血と検尿のために閉じこもっていただけね。「歯医者に行く」と車の運転免許をとりに行ったり、代返に憧れ授業を抜け出したり…長続きするはずがない、そんな印象をみんなが持っていたはずなのに、結局、どっぷりとはまってしまったのです。

「新人類」と呼ばれていたことから、諸先輩方とは少しずつ変化し始めた時代だったのでしょう。

これからもマイペースでわたしたちらしく、前へ進んでいきましょう。

（桑野（旧姓：黒濟） 記）



臨床検査学科 第21期生（平成2年3月20日卒業）

Graduates

青塚 文枝	北川 孝道	中井 実美	宮本 和子
池澤 令子	桜井 佳子	永谷 道一	森口 優子
井谷 香奈子	更谷 佳容	林 りつ	安野 真美
岩本 通子	塩津 直美	福田 有里	
樫根 則子	嶋田 昌司	前川 ふみよ	
片岡 麻衣子	田原 綾	宮内 尚子	
河合 和美	富山 まどか	宮村 和江	

Message

21期生は、男子3名、女子21名と男子の少ない期でした。私たちが2年生のときには学校全体で男子が10名という状態で、野球チームも結成が難しく、このまま天医校も女子校へと変わっていくのではないかと危機感さえ感じていました。私たち21期生は、今から思えば非常にまとまったクラスであったように思います。女子は男子を立て、男子は女子を引っ張るという感じでした。3年間、一緒に学校生活を送っていると最後は男子も女子も訳がわからない感じでしたが…。

上の写真を見ても分かるように、卒業式にはみんな同じ服装で参加しました。白いシャツに同じネクタイ、近鉄百貨店に24本のネクタイを買いに行ったのを覚えています。卒業式の朝にはみんなネクタイを結び合い、ネクタイが長すぎて、

制服の下からはみ出していた人もいましたが、スカートやズボンの中に入れて隠してました。女子は、なんとも様にならない格好でしたが、こうして振り返るといい思い出の一つです。また、バレンタインデーの日には、培地に見立てたチョコレートを男子に作ってくれました。自宅生は寮に泊まり作ってくれたようでした。そのチョコレートは見事で、さまざまな色の、なんともリアルなコロニーにたべるのがもったいないというより、腹が痛くならないかと心配になるくらいでした。このように誰も発想しないような事を、なんとも簡単にこなせる明るく、楽しいクラスであったと思います。

（北川 孝道 記）



臨床検査学科 第22期生（平成33年3月19日卒業）

Graduates

太田 奈津子	河野 京	天白 奈里	松井 恵美
岡前 文子	佐々木 雅美	豊田 一宏	安岡 宏子
岡本 純子	島崎 雅美	中山 美保	安田 明子
片畑 まゆみ	嶋田 史子	羽重田 さおり	山本 由佳子
菊池 まつよ	田中 敬一郎	日置 貴美子	
久保 和代	田村 訓子	部谷 晃子	
桑野 彩	手嶋 敏裕	町田 みち子	

Message

卒業後、12年余り勤めた検査センターを退職して以来、臨床検査からも天理からも離れた生活を送っています。今回、天医校が閉校と聞き、寂しく、そして卒業からずいぶん時間が過ぎてしまったのだなと感慨を覚えています。そして記念文集のために、天医校の思い出を寄せるようにと言われてきました。が、同窓会の度に、他の同級生たちが、学生時代のことをよく覚えているのに驚くばかりだったので、かなり不安です。それでも忘れられないのが、何時に終わるかわからない実習です。生徒もげんなりですが、つきあってくださった先生方の忍耐に頭が上がらない思いです。自分が努力しても終業時間の見えない残業、わが身に置き換えたら、愚痴ばかり言いそうです。その節は本当にお世話をおかけしました。

そして次に挙げるのは、大好きだった木造校舎です。もう、現物を見たことのない卒業生も多くなったのでしょうか。医療系の学校にはとても見えない和風木造平屋建てでした。夏はホールに涼しい風が吹き、廊下はギシギシ鳴り、床板の隙間からは地面が見える所もありました。そんなレトロな環境と学んでいる内容のギャップが素敵でした。あの校舎が更地になったのを見たときは、「母校」がなくなってしまったという思いで、かつて門のあった場所でしばらく呆然としていました。今回の閉校は、大学制への移行に伴うもので、歴史は続いていきます。旧校舎のなくなった時のような悲しみはありません。今後のさらなる発展をお祈りして、駄文をし締めくくりたいと思います。

（加藤 さおり（旧姓：羽重田） 記）



臨床検査学科 第23期生（平成4年3月19日卒業）

Graduates

伊藤 むつみ	北野 宏	中傳 博子	吉川 綾子
植田 隆史	小松 方	夏秋 知佳	吉田 薫
大谷 有美	後藤 公恵	野口 由貴	吉村 国晃
小野 多加子	染谷 絹子	福井 由美	
河合 真紀	田中 千晶	藤原 仙子	
川副 しのぶ	辻 敦美	松浦 久美	
神田 京美	筒井 孝一	横内 睦	

Message

私たち23期生は平成元年に入学し、青春(?)の3年間を今は懐かしの旧校舎ですごしました。廊下の隙間から見える雑草の緑、夏は暑くて冬は寒い教室、薄暗いトイレ、暗い実習室の片隅に置かれた人体模型、などなど、校舎は古くてこわ〜い感じでしたが、明るく楽しい学生生活を送っていたように思います。

さて、23期生の思い出と言えばやはり卒業旅行です。卒業旅行では国試が終わった開放感からか、“賑やかな夜”になったことは言うまでもありません。トイレの鍵を閉め忘れ、「お尻見られた〜!!」と叫ぶ女子、枕と便器を間違えて抱え込んで寝ていた女子、などなど今思えば若かりし頃のよき思い出です。また、23期生は人材豊富でしたが、中でも忘れてはいけないのが Mr. 小

松の存在です。3年生の時は学生ホールで“小松塾”なるものを開き、お世話になった生徒は数知れず…。お陰で23期生は全員無事国家試験に合格することができました。

卒業後は、臨床検査技師を続けている人（中には副技師長になった人も）、主婦してる人、なぜかどこぞの接骨院で受付をしている人、子育て真っ最中の人、独身を謳歌してる人…23期生男子5人、女子19人、合わせて24人。今はそれぞれ別の道を歩いていますが、みんな頑張っています。

“輝かしい青春の3年間”、実習とレポートと試験に追われ苦楽を共に過ごした同期生のみなさん!! 母校は無くなってもいつでも“第2の故郷”天理に帰ってきてください。（木下真紀 記）



臨床検査学科 第24期生（平成5年3月16日卒業）

Graduates

大谷 敦子	豊田 由美	前田 保
上林 里佳	中川 美穂	宮崎 和子
久保 美由紀	中西 幸子	柳田 裕起
桑木 康子	中野 佐多子	
佐藤 直美	中堅 雅世	
田中 淑恵	西田 美佳	
富岡 万里	平井 真由美	

Message

在学時の思い出

24期生は、入学時21名、卒業時17名という、少数精鋭(?)の個性派(強者)ぞろいでした。

少人数であったがゆえ、教室での一人当たりの占有面積は広く、1人でも風邪で休もうものなら2~3人休んでいるかのような印象を与え、実習では使用する器具や機器は一人一人余裕を持って使用することができ、途中でサボろうものなら誰がサボっているかも一目瞭然、臨床実習(今の臨地実習)も各部署にはほとんど一人ずつ行かせていただきマンツーマンで熱血指導(あまりのできの悪さに『帰れ!!!』と何度叱られたことか)、キャンプや臨検祭は一人一人がパワー全開(?)で大はしゃぎ、一人でも落ちようものなら合格率は95%を切ってしまうというプレッシャーの中

での国家試験みごと全員合格…。

医技校での思い出は本当にたくさんあります。人数が少ない分、一人一人の個性が強調され、ぶつかり合うこともしばしば(結構?)ありましたが、卒業して約20年経った今、たったの3年間でしたが、先生方や職員の方、たくさんの先輩方や後輩達のおかげで本当に充実した学生生活を送ることができたなあとしみじみ感じております。

(中野 佐多子 記)



臨床検査学科 第25期生（平成6年3月15日卒業）

Graduates

飯田 雅美	荻野 真弓	堤 笑子	星加 智子	吉井 園美
井田 淳	奥 清寿子	中村 恵	望月 弥生	
井原 敦子	小倉 登	長坂 陽子	本山 知春	
岩切 早苗	佐々木 綾美	永野 綾子	諸井 万季	
浦見 陽子	下元 勝喜	廣田 貴代	山崎 善夫	
遠藤 佐夫	鈴木 聖子	廣中 義之	山田 ちとせ	
大須賀 直美	竹内 良枝	藤枝 さおり	山本 周一	

Message

学校を卒業してずいぶん経ちますが、今でもみんなで集まると学生時代の話で盛り上がります。学生生活は大変でしたが、それ以上に楽しかった日々が記憶に刻み込まれているのでしょう。

学生時代の思い出のNo. 1は、私たち25期で臨検祭を一度無くしてしまったことです。理由はなんとなく忘れてしまいましたが、誰もリーダーになりたがらなかったからでしょうか？私たちは団結力はあるけど面倒臭がり屋という、やる気があるのか無いのかよくわからない期でした（今の臨検祭があるのは、次の年に頑張って復活させた26期のおかげですね）。

次に思い出すのは、国家試験です。天理駅でのお見送りや、後輩のみなさんがお弁当とハチマキとタスキを一人一人に用意してくれたことが、と

ても力強く感じました。でも少し目立ったみたいで、試験官に午後からはハチマキとタスキは外すようにアナウンスされた時、天医校生らしさに笑いました。

あとは、終電がなくなりそうな程遅くまでした学内実習。ひたすら暗記した試験勉強。レポートに追われた臨床実習。ギリギリまで頑張った研究実習。隠し事なんてありえないほど打ち解けた寮生活…など挙げればキリがありません。

25期生のみなさんと出会えた事に感謝します。先生方が親身になって教えて下さったから、今の私たちがいます。本当にありがとうございました。学校がなくなっても、私たちは忘れません。

（廣田 貴代 記）



臨床検査学科 第26期生（平成7年3月15日卒業）

Graduates

浅沼 舞子	近藤 恭世	中西 昇	藤原 宗典	山本 容子
阿曾 基子	下田 まどか	名倉 理教	細澤 美恵	和田 江身子
阿部 貴子	下村 大樹	鉦橋 聖美	松田 奈奈	和田 昌巳
伊藤 朋行	鷹取 三和	橋本 武昌	宮武 千春	
加藤 佳代子	滝川 晶子	橋本 ゆみ	宮本 多美子	
木多 有香	豊嶋 麻美子	藤岡 博美	村松 裕子	
木村 さつき	中島 政司	藤谷 尚代	森本 めぐみ	

Message

在学時の思い出

天理医学技術学校を卒業して20年近くがたちます。26期同窓会を幾度か行いましたが、一家を養っているお父さん、仕事しながら子育て中のお母さん、検査技師から離れている人、それぞれの環境は現在さまざまですが、思い出話、近況報告などに話がつきることがないくらい楽しい時間を持つことができます。それというのも、あの医技校の3年間、共に頑張ってきた仲間だからだと思います。

26期の特徴をあげるとすれば、『まとまっていなかったようでまとまっていた』といったところでしょうか。一人一人は自他とも認める個性派ぞろい。一見まとまりようがないクラスでしたが、キャンパス中に行われた運動会では、力を合わせ3年連

続優勝、臨検祭は2年次に一度なくなったものを話し合いを重ね、3年次に中心となって復活させました。また就職では、ほとんど求人情報がない超氷河期だったため、夏休みに手分けして多くの病院などに自ら電話をし、就職がないかを問い合わせ就職試験先を開拓しました。国試対策では、それぞれの科目で得意な人が講師となり、放課後勉強会や、模擬試験の答え合わせなどを行いました。このようにクラス全員が一つとなり乗り越えたり、成し遂げたりしたことは、26期の誇れる思い出です。

思い出の基礎となる天理医学技術学校は閉校してしまっていますが、これからも良き仲間、それぞれが年齢を重ねていく姿をみていけたらいいと思います。（松田江身子（旧姓：和田）記）



臨床検査学科 第27期生（平成8年3月15日卒業）

Graduates

安藤 忍	合田 三樹子	中島 明美	南 祐三	山本 光美
上野 浩司	佐藤 浩司	中島 美千代	宮本 恵理子	
上村 香穂里	澤井 みちよ	名原 佐織	村上 忍	
大谷 直美	園 須美子	野村 優子	森本 有香	
勝本 早苗	空岡 千明	濱田 幸子	保田 智絵	
加藤 順子	谷口 由美	林 裕子	山田 道代	
小林 昌弘	中尾 秀代	日浦 和美	山本 智恵美	

Message

早いもので私達27期生が卒業して17年の歳月が過ぎました。私達が学んだ旧校舎、そして生活した男子寮、女子寮は跡形もなくなりました。意外と少ないスペースで勉強し、生活していたのかと改めて感じます。27期生の特徴はとにかく宴会好きでありました。事あるごとに理由をつけよく宴会をしていました。宴会の為にクラス費を使い込み、クラス費が底をつきそうになったこと、スキー実習ではなぜかお酒の思い出ばかりが残っていることなど、宴会にまつわるエピソードはこれ以外にもいっぱい残っています。もう一つの特徴は29名中男子がたったの4名と非常に少なかったことです。たとえば実習などでクラスを4グループに分けるとその中に男子は一人だけになってしまいます。そのため男子の肩身

は狭く、あらゆる物事の決定権はすべて女子にあったように思います。

こんな27期生であります全員が国家試験を合格することができました。今では仕事をバリバリやっている人、仕事を辞め家庭に入った人、仕事と家庭を両立している人、様々です。そして昔のようにみんなで集まって宴会をすることもなくなりました。天理医学技術学校の閉校ということでこの文章を書いています、書きながら少しさみしいような、とても懐かしいような気分になっています。またみんなで集まって思い出話や今の状況などについて話が出る機会があればと思います。

（小林 昌弘 記）



臨床検査学科 第28期生（平成9年3月15日卒業）

Graduates

井口 りえ	北爪 玲子	中村 文	松川 裕一
石上 純悦	久保 愛子	西川 重輝	三重野 和恵
江川 友美	篠田 和子	福田 砂織	三島 範子
奥田 浩司	柴田 正慶	藤野 充普	森 隆之
小倉 美和	巽 壮生	古川 雅也	山本 将毅
小田切 隆貢	豊川 道代	前本 奈保子	和井元 篤美
川畑 麻乃	中埜 伸二	町田 正代	

Message

寄稿文の依頼をうけ卒業から10年以上すぎた学校生活3年間を振り返り印象に残った事、どんな28期であったか改めて考えてみた。

28期生は入学時、2、3年の先輩は女子が多くなかで男女割合が均等で目立った学年であった。学生もオリエンテーションが終わる頃に退学を決意した者、基礎実習が終わるまでに退学を決意した者、留年したもの、留年してきた者、新たな将来をめざし退学したもの等々卒業するころにはメンバーがかなり変化していた。今から思うと将来がぼんやりしていた高校生から技師として働けるまでの学力と経験と精神面を3年間で学ぶカリキュラムは自分にあった仕事であるか真剣に考えさせられる場にもなっていた。その中で新しい方向（将来）を決断できる若者が多かったからこそ

退学者も多かったのだと思う。

3年間を「しんどかった」と誰もが納得する。もう一度やり直す？と聞かれたら私は即座に“NO”と答えるだろう。では違う学校がよかったか？と問われるとこれも“NO”である。3年間同じクラスで早朝から夜遅くまで生活（苦楽）を共にした時間は、小学校から始まった学生生活で最も多くのクラスメイトときずなが築けた大切な3年間でもあったからだ。

社会人となった今でも同じ目標に向かって進んでいる仲間たちとは学会先や仕事の相談などで関わる機会も多い。これからもつながりを大切にしていきたい。

（福田 砂織 記）



臨床検査学科 第29期生（平成10年3月14日卒業）

Graduates

家重 純子	櫻井 妙子	平 清美	仲野 隆一	細谷 順子	森本 有喜
石塚 ゆかり	柴田 あかね	高橋 弓枝	永松 道代	前田 裕美	山脇 知美
出雲 正昭	清水 真由美	武井 哲也	西尾 美知子	松尾 愛	
植田 香	下田 智子	田中 順子	濱岡 美春	松本 有香子	
大川 洋毅	杉野 泉	辻 裕美子	林 寛子	三上 和代	
越智 光恵	杉本 佳世	土橋 洋子	久永 悠子	三島 裕美	
木村 素実	杉山 佳代	中尾 百合	細井 優作	森 奈津恵	

Message

29期生の思い出

私達29期生は、旧校舎・新校舎それぞれの学び舎で同じ時間ずつ過ごした学年です。入学時には「これが学校…？」という思いを誰もが抱くほど古い木造校舎で、歩けばぎしぎしと軋む廊下に、夏は暑く冬は隙間風の寒さに耐えながら学ぶ教室。中でも夏の唯一の涼であった天井からの大型扇風機は回すと屋根がギンギンと軋み落下してくるのではないかという恐怖感を感じながら授業を受けていたことが懐かしく思い出されます。そんな校舎とも一年半でお別れし夏休みには冷暖房完備の新しい校舎へと引っ越し作業。クラス全員で実習の器具や教材など諸先輩方が旧校舎で築き上げてこられた数々の思い出を梱包しながら積みあがっていく段ボールの多さに、この医技校の歴

史を感じる貴重な経験をさせて頂きました。また、29期生は女子の多い学年でした。しかも女らしさの中にも個々をしっかりと持ち何事にも前向きなたくましい女子が多く、唯一5人の男子には肩身の狭い思いを多々させていたかもしれません。教室には全国各地色々な方言が飛び交っており「～じゃけん」、「～じゃろ」などの広島弁が響いていたのが印象的です。そんな仲間達も技師になって早16年目に突入しました。検査業務の他各認定資格取得への挑戦やMRIや内視鏡検査などに多岐に渡って活躍している者もいれば、専業主婦として頑張っている仲間も沢山います。これからも医技校卒であること誇りに思いそれぞれの人生歩んで生きていきたいですね。

（北田佳世（旧姓：杉山）記）



臨床検査学科 第30期生（平成11年3月13日卒業）

Graduates

伊藤 修司	河野 さよ	辻澤里依	林田 幸治	森山 朋子
氏家 あかね	小松 由明	出口 真太郎	平山 忍	矢野 史子
大西 旬美子	佐々木 新介	栗栖 美妃	藤井 直樹	山下 朋子
岡田 潤平	佐野 あゆみ	中川 真由美	藤田 知寿	山田 憲幸
軽賀 満	杉本 浩世	永松 美由紀	本田 太一	横川 美加
川野 久美子	曾山 奉教	野田 和江	森倉 義成	
熊澤 巳和	武田 朋美	橋本 聡子	森本 友規	

Message

30期生は旧校舎を知る最後の学年です。軋む木製の廊下、全然涼しくならない天井のプロペラ、休み時間になると煙で真っ白になる学生ホールなど、入学当初は驚きの連続でした。夏休みに入り高校の同級生達がアルバイトに明け暮れながらもキャンパスライフを楽しんでいる姿を横目に、何故自分達は新校舎への引越しを手伝っているのが不満に思ったこともありました。しかし、新校舎に移り快適な環境で殆どの学生生活を過ごしたにもかかわらず、旧校舎の様子は今でも脳裏に焼きついています。それだけ旧校舎には言葉では言い表せない歴史が詰まっていたのだと思います。旧校舎で過ごした4ヶ月間は本当に良き思い出です。

さて、どの学年にも言えることですが、

30期生にはそれぞれに役割分担があったように思います。キャンプになると天才的な能力を発揮する者、存在だけで周囲を癒してくれる者、母親のように温かく相談に乗ってくれる者など、それぞれに個性がありながらも頼りになる仲間達でした。中には卒業してから一度も会っていない友もいますが、風の噂で元気になっている様子を聞くとそれだけで嬉しくなるのは、苦楽を共にした仲間だからなのだと思います。天理医学技術学校は閉校しても縁あって巡り合った同級生はこれからもお互いに大切な存在です。

30期生のみなさん、今後ともよろしくお願ひします。また会いましょう。

（曾山 奉教 記）



臨床検査学科 第31期生（平成12年3月13日卒業）

Graduates

秋田 博之	笠松 千代	坂口 明德	佃 笑美	山口 真知子
明穂 一広	勝井 由紀	坂口 徹	寺岡 洋美	山下 恵美
市場 恵利子	加藤 文明	迫田 理恵	中村 知恵	横山 可奈子
岩根 文男	兼安 優子	杉村 宗典	中森 隆志	
宇井 孝爾	北川 愛子	高橋 裕治	永井 直治	
大西 小百合	児玉 綾子	滝 祐子	西田 真由美	
小野 敦子	小林 史孝	武山 佳代	松村 充子	

Message

31期生の思い出

31期生は天理医学技術学校が新校舎になってから初めての入学生でした。一見、濃い人間の多い集団のように思われがちでしたが、実は常にリーダー的な存在であった小林さんを中心に（当時6歳上になるとこんなに大人なんだ～と思ってとても頼りにしていました）、よくまとまったいい学年だったと思います。その団結力で新しい取り組みもたくさん行いました。臨検祭では、一般の方に対して初めて実習（病理の染色や化学の分析等）を取り入れ、皆さんにより臨床検査を身近に感じてもらうことに成功しましたし、他校の方を招待し情報交換会を行い、当時天理医学技術学校しか知らない自分たちにとってとてもいい刺激を受けることができました。また、藤本一満先

生を中心にバレーボール部を結成し、天理よろづ相談所病院院内バレーボール大会で優勝を飾ったのもいい思い出となりました。勉強面でも団結力が発揮され、上位数人が1人で突っ走っていくのではなく、試験前になると下の面倒をよく見てくれましたし（お世話になりました）、臨床実習も週末には情報交換会（宴会？）を行い、その週がよく分からなかったこと、失敗談を聞いてもらいアドバイスしてもらっていたからこそ乗り越えられたんだと思っています。改めて振り返ると、いい思い出ばかりではなかったのですが、お互い支えつついい関係だったと思います。

（永井 直治 記）



臨床検査学科 第32期生（平成13年3月13日卒業）

Graduates

阿部 教行	大久保 彰繕	佐々木 理沙	西尾 隆史	村上 智裕
有川 正和	亀井 紀子	瀧上 仁美	橋本 陽子	森澤 陽子
有田 久美子	河野 佑一	竹内 彰浩	花尻 康人	山下 貴哉
伊豫田 龍治	木村 光絵	竹内 和美	廣長 良実	横田 文
上西 知幸	小島 和美	鳥豆 英子	藤村 美幸	
宇野 沙弥佳	小堀 小百合	中澤 務	藤原 名緒子	
大上 知子	齊部 千恵子	中西 まこ	正山 量子	

Message

平成10年4月、私たちは32期生として天理医学技術学校門をくぐり、長い3年間がスタートした。そういえば、「制服」の情報が錯綜していたのを思い出す。ちょうど上下制服への移行期であり、入学前の情報では入手しきれていなかった者がほとんどであり、これはいつ着るのか？まさか、毎日？いやいや先輩はそうでもないぞ。と、高校を卒業したにも関わらず、引き続き制服生活になるとは思っていなかった者たちが嘆いていた。私も含め。そのような学生の意識改革に教務の先生方は苦勞されていたのは分かっては、いた。今思えば本当に小さいこと。

在学中の3年間は、各々が目標や夢、日々の課題をクリアするために精一杯頑張った。その中の思い出や印象はまちまちで、これを機に思い

返してみることも、楽しいと思える時期に差し掛かっている年齢ではないかと思う。少なくとも、みんな3年間で、少～しだけ大人に近づけさせてもらったのではないかと思う。

卒業時、超就職氷河期であり、そんな中でも夢が叶った者、思うように就職が決まらない者、とりあえずの就職になった者、進学した者、様々だった。そしてこの十数年、おそらくみんな自分のことでいっぱいだったのではないかと思う。

医技校が閉校となった今、改めてみんなのこと、在学中のことを立ち止まって思い出し、何か行動に移したくなる人がいればいいと思う。私はいつも天理で待っています。

（高橋 千恵子（旧姓：齊部） 記）



臨床検査学科 第33期生（平成14年3月13日卒業）

Graduates

生嶋 兼治	倉村 英二	寺田 純代	松本 瞳	横田 浩明
石橋 優紀	胡内 恵利奈	西田 知秀	眞鍋 嘉子	脇本 理栄子
井手 大輔	小澤 悟	服部 一希	向井 真理子	
乾 光一郎	齋藤 芳子	福谷 和也	藪内 優子	
植西 美由貴	佐々木 亮介	藤田 千陽	山上 祐果	
奥田 陽子	田口 貴子	細川 知子	山下 絵美	
木村 優友	都竹 亜紀子	松房 むつみ	山中 あいか	

Message

時が経つのは早いもので天理医学技術学校33期生が卒業して11年になります。つい最近まで学生だったような気がします、それがいつのまにか「天理医学技術学校47年の歩み」での各期の卒業生代表として在学中の思い出を書くという立場になっています。こうして今、在学中の思い出を振り返ると思い出すのはやはり臨床実習や研究実習そしてレポート、試験など勉強関連のことが多いように思います。1年生では高校までの勉強内容とは全く変わり臨床検査技師という医療専門職の重要性や大切さ、難しさを痛感し、2年生では臨床実習で毎週レポートや予習などで病院に行くのが嫌だったことを思い出します。3年生では研究実習と国家試験の勉強とで在学3年間は勉強づくめだったような気がします。しかし、そ

の勉強の思い出よりも印象に強く、楽しかったのはもちろん遊びの思い出です。卓球や野球、ボーリングなどで仲間と明け暮れた日々が僕の一番の思い出です。授業や実習の後に暗くなるまで野球や卓球をして帰りにコンビニによってカップ麺を食べて家に帰る。3年間、ほぼこの繰り返しでしたが今、思い出すとすごく懐かしく楽しかったことを思い出します。33期生のほとんどの人達とは現在、会っていない状態ですが勉強会や学会で見かけたときにはぜひ声をかけてくださいね。同窓会をやりたいといつも思っていますがなかなかできていない現状です。いつかやりますのでこれを読まれた方はぜひご参加よろしく願います。

（倉村 英二 記）



臨床検査学科 第34期生（平成15年3月13日卒業）

Graduates

石渡 真紗子	小野寺 真由	篠原 夕佳	早瀬 綾子
今出 麗菜	柏木 理沙	瀬口 陽子	藤川 彰子
印藤 翔一	加地 大樹	中島 里絵	宮尾 ひとみ
上村 日登美	川 直子	中村 彰宏	山口 寿子
上村 理沙	小林 沙由里	二階堂 まゆみ	湯谷 真弘
大本 かおり	今野 和治	西山 由里子	若井 英恵
鬼村 道子	塩田 輝美	林 真理子	

Message

第34期生

天理医学技術学校第34期生は男5名、女22名、計27名のとても男が少ない期で女性陣の力が強力な期でしたが、本当にこの期は男女隔たり無く大変仲が良いクラスで、また先生とも仲良くさせて頂きました。担任の木寺先生とは男子寮で秘密会議をし、副担任の喜多村先生とはプライベートなことまでいろいろ相談に乗って頂きました。クラス一丸となり開催にこぎ着けたキャンプや臨検祭もいい思い出です。

卒業後も何度も集まろうと企画をしてきましたが、結局企画が成功したのはたったの1回（BBQしました）…、同窓会計画委員として大変惨めな実績で申し訳ございません。今後は心を入れ替えて企画しますので何卒皆様のやる気を私にぶつけ

て奮い立たせて頂けると幸甚に存じます。今後も引き続き同窓会活動にご尽力の程よろしくお願ひ致します。

（中村 彰宏 記）



臨床検査学科 第35期生（平成16年3月8日卒業）

Graduates

今久保 佳美	杉本 浩士	友野 悦見	松田 浩明
大上 卓也	鈴木 陽介	中井 理絵	三島 拓士
金田 智美	武田 侑子	中村 智美	山沖 亜衣
川中 瑠衣	辻本 貴美	東良 憲	吉田 光萌
近藤 万奈美	角田 真弓	廣居 睦美	吉田 睦
榊原 弘光	津山 和由	藤原 基誠	吉野 未佐子
白土 慎一郎	富田 江里子	松岡 梨栄	

Message

早いもので卒業して10年経ち、現在研究実習にきている学生さんが45期生ということもあり、時の流れを感じずにはられません。しかし、在学時の思い出は今でも色褪せることなく心に残っています。

私たち35期生は男性10名、女性17名、計27名のクラスでした。普段はそこまで仲良しクラスではありませんでしたが、臨検祭やキャンプ等のイベントになると一致団結できていたと思います。3年時の大雨でのキャンプ決行や、卒業旅行のディズニーランドで強風でアトラクションもパレードも中止になってしまったことも、今となればいい思い出です。

中でも特に記憶に残っているのは、国家試験前には各科目に教育担当者を決め、放課後に国試対

策講座を開き、国試合格100%を目指したことです。今でも当時作った「国試対策ゴロ合わせ」は忘れられません。そして無事に全員合格できたことが1番の思い出です。

最近はなかなか同窓会を開くこともできていませんが、学会誌等で同期生の名前をみる機会もふえ、皆の活躍を嬉しく思っています。医技校の閉校は残念ですが、天理医療大学の後輩達にも今までの47年の志を引き継いでいていただきたいです。今では天理よろづ相談所病院に残る35期生は最後の1人となってしまいましたが、これからは学生時代のフレッシュな気持ちを忘れずがんばっていきたいと思っています。

（阿部 梨栄（旧姓：松岡） 記）



臨床検査学科 第36期生（平成17年3月10日卒業）

Graduates

秋山 美香	木村 真実	千枝 貴幸	藤田 宏	吉田 舞
井ノ上 哲智	久保 直美	近本 かずみ	藤原 知佳子	
井上 加奈子	小林 史宜	中川 恵美	船津 忠年	
岡田 明菜	坂口 悟	中川 沙織	細川 舞	
神谷 真知子	澤井 千佳	藤井 恵理	前野 舞	
亀井 良恵	隆藤 千沙	藤川 麻由美	森田 弘道	
神田 明子	竹田 直美	藤北 堯彦	森本 隆行	

Message

在学時の思い出を綴らせて頂くにあたり、兎にも角にも先ずは同期の皆に謝罪させて頂きたいと思います。寄稿するのが私なんだ。ごめんね。

私たち36期生の最大の特徴と言えば、大学を卒業してから本校に入学した方が3人もいた事ではないでしょうか。3人とも年齢差を感じさせない気安さで接してくれつつも、教員や実習先の先輩技師とはまた違う立場で高校出たての私たちを導いて下さったように思います。逆に先生方におかれましては、規律が厳しい校風に対して斜に構えがちな私達に手を焼かれたものと思います。

次に36期生と言えば、元気でうるさかった事でしょうか。36期生は、北は北海道から南は九州までの幅広い出身者で構成され、天理で3年間を過ごしても決して標準語や関西弁に染まる事

が無かったツワモノが多数在籍しておりました。そのツワモノ達は皆一様に喋ること喋ること。毎日にぎやかに過ごしていました。そのおかげか今振り返ってみると、実習にレポート、テストにイベントと忙しい毎日でしたが、つらく厳しい日々といった印象は無く、不思議とあの頃に戻りたいと思ってしまいます。とは言え、問題が無かったわけではないし、ややこしい事も多分にありましたが、それでも国家試験には全員合格するなど締めるところは締める。そんな集まりだったように思います。

多少美化されている上、大雑把ではありますが、以上が36期生として過ごした私の思い出になります。

（藤北 堯彦 記）



臨床検査学科 第37期生（平成18年3月10日卒業）

Graduates

泉 美香	遠藤 裕美	田中 由美	山口 真生
井上 沙津紀	大郷 義也	田部 純子	山崎 貴之
今村 あい	小川 聡	萩田 丸美	横川 純子
岩崎 美樹	亀澤 雄佑	八田 康晴	和田 哲
梅田 耕太郎	北寺 千紗	藤本 義造	和田 匠平
浦 安美	黒田 哲平	星野 道明	
江川 慶子	近藤 拓也	松谷 勇人	

Message

私たち37期生は、天理医学技術学校の開校以来はじめて男子生徒が女子生徒よりも多い学年でした。その為か、担任の前川先生（現在医学研究所に勤務）には容赦なくしごかれた事をよく覚えています。天理医学技術学校で過ごした3年間は、みんなで頭の上に??を並べた講義から、グループ単位で練りあいながら進めた実習、制服のまま汗だくになってバスケットをした昼休みまでとても充実した日々でした。また、講義実習以外にも臨検際やキャンプなどの自治会行事では、同じ学年同士だけでなく3学年が協力し合って進めていき、そこから一体感や達成感を味わうことが出来ました。これも医学技術学校の良さだったと思います。当時、2年連続国家試験100%合格したあとの3年目に100%を逃すというサイク

ルを数回繰り返しており、私たちはその「3年目のジンクス」にあたる年に入学してしまいました。国家試験に向けては、なんとか全員で合格を目指し取り組みましたが、結果的にはジンクスとおおり100%を達成する事が出来ませんでした。しかし、その反動があったおかげで、37期以降、現在に至るまで一度も国家試験合格率100%を逃すことなくこれているものと自負しております。

天理医学技術学校で学んだ知識やそこで築かれた人とのつながりはこれからも絶えることはありません。これからも卒業生である誇りを持って仕事や学術活動に取り組んでいきたいと思ひます。

（松谷 勇人 記）



臨床検査学科 第38期生 (平成19年3月10日卒業)

Graduates

石川 幸佳	田中 芳恵	平山 博子	村井 洋子
井上 小百合	寺田 弥生	深田 万紀子	諸井 ひろみ
今村 亮太	長岡 俊治	藤井 孝晃	山本 成紀
大月 昭人	馬場 智弓	本庄 一壮	吉岡 明治
苅田 健	林 将生	本田 香織	
久保寺 一徳	早瀬 勇貴	松井 優	
潮崎 裕也	飛田 香織	三代 洋宣	

Message

私が天理医学技術学校38期生として入学してから、早いもので10年が経ちました。入学時は親元を離れての慣れない生活や医学という未知の領域への不安など、様々な思いの中での学生生活のスタートでしたが、38期生は25名と少人数であり、すぐに全員と仲良くなり不安もなくなったのを覚えています。天理医学技術学校の良いところは、全員が同じ講義・実習や病院実習を受ける事ができ、不安や悩みをみんなで共有することができたことです。38期生はみんな真面目で仲が良かったため、お互いに協力し合うことで乗り越えていけました。国家試験勉強もグループ学習などに取り組み、無事に全員合格することができました。学業面でも非常に充実しており、教員から病院での指導者まで全員が学校の先輩であり、

3年間技師の手で技師に必要な知識や技術を習得させてもらったことは大きな財産となりました。そして就職して次は自分が後輩の指導者となることで、技師としても成長させてもらうことができ、天理医学技術学校の教育は学生のみならず技師になってからも多くことを学ばせてもらいました。

天理医学技術学校は閉校となってしまいますが、このような素晴らしい環境で学習できたことに感謝し、卒業生としての誇りをもってこれからも日々精進していこうと思います。

(吉岡 明治 記)



臨床検査学科 第43期生（平成24年3月9日卒業）

Graduates

伊勢 奈々子	佐賀 洋子	武田 祐美	正岡 理子
植松 耕平	佐藤 栄次郎	武野 建吾	南 博蔵
大門 由輝	澤井 舜仁	谷口 恒輝	八原 史乃
大谷 祐哉	住 奈帆子	外嶋 彩香	山本 早希
梶谷 美咲	高嶋 亜衣	中村 はる香	山本 祐己
川口 直也	高瀬 早紀	中村 優貴	横山 周
小林 彩乃	高橋 里香	白島 大地	若林 真央

Message

三年間の思い出

43期生は相当にラブ&キッシュな連中であり、いい意味で個性のある人間が集まっていたので、個人的にはこの3年間楽しませてもらった。学校の先生方、病院の技師さんもこのクラスはおとなしいという評判だったが、授業が終わればにぎやかになってたのを良く覚えている。

そんな医技校の一番の思い出は、やっぱり3年の臨検祭。国家試験が迫ってくる中、部門の準備、そしてダンスの練習など忙しい時期だったが、43期生の気持ちがついに1つとなって、ダンスでは誕生日サプライズで『一人の乙女?』を嬉し泣きさせることも出来て、忙しかったけど一番のいい思い出だった。

専修学校の最後の試練である国家試験では、

43期生の一部は僕も含めてあまり勤勉とは言えず、全員合格を先生方に心配される程であったが、土壇場での底力はあったようで無事に全員合格することが出来た。また僕たちの期は医技校初の6連覇という期であったが、先生方曰く『奇跡』や『夢』の域だったようである（笑）。

現在では僕も勤務しており、日々の業務と先輩方の技術を吸収しようとする事で精一杯ですが、これからも立派な技師になるべく頑張っていきます。

（谷口 恒輝 記）



臨床検査学科 第44期生（平成25年3月7日卒業）

Graduates

穂山 正弥	木下 奈穂	田中 富之	松岡 直子
磯脇 志舞	日下 史葉	田淵 磨美	松本 力三
井手 理彦	楠本 奈央	中野 雄太	山崎 宏之
大野 裕貴	七条 有里紗	中本 樹	琉 隼人
岡崎 瑞	清水 貞則	成田 真奈美	
小川 真実	上木 元次	平川 弥寿与	
北川 歩	武内 ゆり	松尾 はる花	

Message

今思えば私たち44期生は個性が強いというか、マイペースな人が多かったです。悪く言ったらまとまりがないようにも見えました。担任の瀧本先生はたくさんご苦労されたと思います。ですが、44期生がどこにも負けないくらいクラスのまとまりを発揮することもありました。それはキャンプや天医祭などのイベントごとの時です。キャンプは皆を楽しませようってダンスの練習をしたり、初となった天理医療大学との合同の天医祭は展示や出しもので気合入れたり、それぞれが工夫して合格点を超えようと国家試験に向けて勉強会をがんばったり、そのおかげで当日の国家試験は危なげもなく全員が合格できました。先生たちも大喜びでした。他にも九州に行った手作りの卒業旅行や謝恩会の出しものなどなど、44期生の皆

といっしょにがんばったり楽しんだりした日々はいい思い出です。

私は年上組で入学したので、年下の現役組との接し方もわからず当初は友人との交流はあきらめていた学生生活。それがこんなに楽しい3年間を過ごすことができたのは他ならぬ44期生の皆のおかげでした。今は立場違えど、それぞれが充実して健康的な日々が送れるものになるよう、この場をお借りして44期生の皆のご多幸を願います。

この記念原稿を書くことが決まり、学生生活の3年間を振り返った時、真っ先に思い浮かんだことは岡崎さんのマツコDXな上木でした。ありがとうございました。

（上木 元次 記）



臨床検査学科 第45期生（平成26年3月7日卒業）

Graduates

阿野 真奈	川 健司	杉谷 美香	原田 孝馬
伊藤 直之	河内 彩美	高田 旬生	土方 一輝
植田 慶喜	黒田 教太	高橋 陸	森口 鈴香
岡田 紗矢香	後藤 光希	田上 剛史	柳原 みのり
岡谷 萌	小林 真悟	手島 裕治	
岡本 朋子	佐藤 めぐみ	野口 延由	
梶田 二愛	菅 沙央里	馬場 創汰	

Message

最後の卒業生として

天理医学技術学校の最後の学生として入学してから3年が経ちました。私達の次年度からは天理医療大学となり、もう天理医学技術学校の生徒として後輩は入学してきません。今まで全学年で行っていた行事も毎年1学年ずつ減っていき、伝統がなくなっていく寂しさを感じました。しかし、最後の学生であるからこそ経験できたこともたくさんあります。まず1つは、天理医学技術学校、天理看護学院、天理医療大学の三校合同で行った天医祭です。その際大学生は、学校が違っていても私達を“先輩”と慕ってくれ、嬉しい反面、同じ天理医学技術学校の生徒として後輩を迎えたかったという気持ちも強くありました。もう1つは、医技校生同士の絆が深まったことです。

“国家試験8年連続全員合格を達成し、有終の美を飾ってほしい”という言葉にプレッシャーや不安を感じることもありましたが、“自分達が最後ののだ”という意識があったからこそ手を取り合って頑張れたのだと思います。そして何より伝統を貫いてきた先輩方の頼もしい背中を追いかけてきたからこそ、ここまで成長することが出来ました。

個性が強く、上手くまとまらなかったことも多々あった45期生ですが、最後まで諦めず、時には暖かく時には厳しく三年間ご指導くださいました先生方、技師の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（伊藤直之、岡谷萌 記）



臨床工学専攻科 第1期生（平成14年3月13日卒業）

Graduates

河野 佑一
光永 龍一

後藤 和大

齊部 千恵子

曾山 奉教

西尾 隆史

Message

1期生は、医技校検査学科卒の4名、他校卒の2名の計6名でした。他校卒の私は、「ここに馴染めるだろうか？」という不安でいっぱいでしたが、その不安は1週間も経たないうちに消え去りました。あ！天理のあちらこちらに「ようこそおかえり！」の文字が…。自分自身を「よそ者」と位置付けていた事を恥ずかしく思った記憶があります。

専攻科での1年は、私にとって大きな財産です。勉強はもちろんですが、天理で過ごした全ての時間が今の私を形成しています。

彼女と同棲(その後めでたくご結婚されました)しているのに毎晩21時には寝る健全な人、に対して何故か意味もなく毎日寝不足な不健全な人、彩○ラーメンのバイトと麻雀に明け暮れる苦学生

なのか何なのかよく分からない人、呼んでもないのに毎朝参拝前に押し掛けてくる迷惑な人、キャンプで泥酔し暴れて泣き出す人、そんな個性的な人たちを紅一点で母親のように世話するこれまた個性的な人。6人全員で協力し合い、時には喧嘩になるんじゃないかと思える位の熱い激論を交わし、その後はみんな笑顔で熱い彩○ラーメンをすすする、そんな日々でした。生涯の戦友達です。また、そんな私達を、温かく、時に厳しく指導して頂いた先生方、特に杉邑先生、田崎先生には感謝の言葉しか出てきません。

最後に、医技校は閉校してしまいますが、(少々臭い言い回しとなりますが) 医技校魂は閉ざす事無く、日々精進して行きます。

(後藤 和大 記)



臨床工学専攻科 第2期生 (平成15年3月13日卒業)

Graduates

市村 理
向井 真理子

岡田 奈三

奥田 陽子

木村 優友

佐藤 秀男

Message

在学時の思い出

卒業から10年が過ぎましたが、今でも鮮明に覚えているのは臨床実習です。臨床の現場を見ることは本当に大事だと改めて思います。私が専攻科を希望したのも、検査科の時の見学がきっかけでした。臨床実習では、開胸した心臓を覗かせてもらったり、止まった心臓が動き出すのをハラハラしながら見学したり、心外の松山先生が人工血管の切れ端を投げてくださいたり、木村くんがうっかり手術室の電気を消して真っ暗になってしまったり、患者さんと話をしながらのペースメーカーの植え込み術や当時では症例数も少なかった腹腔鏡の手術など何もかもが新鮮で、将来の技士像を思い浮かべて非常に励みになりました。今も恒例となって続いている臨床実習前の懇親会ですが、岡

田さんが自慢の達筆で「果たし状」を作って、学校と病院の対抗でボーリング大会をしました。非常に和気あいあいと、時に厳しく育てていただきました。今では、病院の技士も20人近くになりましたが、当時は10人足らずで短い実習期間にも関わらず、研究発表までよく指導してもらえたなど、自分が指導する立場になって改めて感じます。また、数学や電子工学が非常に苦手な落ちこぼれだった私には、ほとんどマンツーマンの授業のようでした。数学の田端先生は、じっと私の解答を観察していて、うんうんと首を縦に振ってくれるまで何度も消しては考えたものでした。杉邑先生、田崎先生をはじめ、多くの熱意ある教師陣のおかげで、全員が無事合格卒業できたと思っています。(長岡 真理子 (旧姓：向井) 記)



臨床工学専攻科 第3期生（平成16年3月8日卒業）

Graduates

石渡 真紗子
高橋 清香今出 麗菜
中島 里絵大本 かおり
二階堂 まゆみ神森 美紗
早瀬 綾子

塩野目 万代

Message

私は臨床工学専攻科3期生でした。3期生の大きな特徴は全員が女子ということです。前例にない男女比のバランスの悪さに担任の先生が困惑し、やや曇り顔で挨拶されていたのを今でも覚えています。そんな担任の先生のもとで、私の専攻科生活はスタートを切りました。

3ヶ月ほど臨床工学技士というものを大ざっぱに学んだ後、病院実習に入りました。その病院実習も終わるころにはレポートや研究発表に追われながらも、具体的な就職を考える時期になっていました。9人の就職が決まるころにはもうすぐ国家試験という時期になっていました。忙しくあっという間の一年でしたが臨床工学技士というものの基礎をしっかりと学ばせて頂きました。特に病院実習では大きな影響を与られました。初めて見

るものや感じるものがたくさんあり、学校での授業とは大きくかけ離れたものでした。また臨床工学技士の方々に忙しいなか、直接指導して頂いた時間はとても有意義なもので忘れてはいけないものだと思います。こんな技士になりたい！！と自分の目標を持てたのもこの頃でした。

卒業後、私は天理よろづ相談所に約8年勤めました。今では別の病院に勤めますが、天理の工学技士の良さをヒシヒシと感じています。天理医学技術学校に入学していなかったら今の私もなかったと思います。

天理医学技術学校 臨床工学専攻科がなくなってしまうのはとても残念ですが、いつまでも私の工学技士のスタート地点としてありつづけます。

(高橋 清香 記)



臨床検査学科 第39期生（平成20年3月10日卒業）

Graduates

新井 恭平	川崎 卓弥	長倉 秀城	八百 絵里子
石川 豊	菊地 可恵	萩原 理未	安田 健治
石谷 彩	近藤 日路子	羽田 憲司	山本 あい美
井上 卓哉	四宮 千恵	本江 英公子	横田 隼一郎
岡 佑一郎	辰巳 智香	前田 博史	
尾崎 みち子	田中 亜耶乃	松下 隆史	
川井 久実	田中 敬子	武藤 淳平	

Message

39期生 在学時の思い出

39期生の在学時を振り返るとやはり『変化』に富んだ期ではなかったかと思います。入学当初、男16人、女14人の30人でスタートしたのですが、気がつくや卒業時には25人に減っていました。また担任の先生も途中で変わったり各教科を教えていただく担当の技師さんもいろいろと変わってしまったりで3年間退屈な時間などなく刺激的な毎日を送っていた記憶があります。その中でも特に印象に残っているのは3年次の臨検祭で行った出し物（大塚愛のCHU-LIP）と国家試験です。臨検祭の出し物の時は忙しい合間を縫ってみんなでダンスの練習をしたり、当日は本物のダンサー達に似せるために女装っぽいことをしたりで大変だったのですが、当日ほかの誰よりも大

きな声で曾山先生が笑ってくださっていたことが本当に嬉しくとても印象に残っています。国家試験の時は全員で合格するという目標を達成するためにみんながそれぞれの立場で助け合って頑張っていたので、全員合格がわかった瞬間は本当に嬉しかったのを覚えています。そして国家試験前日に男子寮でみんなでワイワイ騒いってしまったことも本当にいい思い出です。また同窓会でみんなといるんな思い出話ができる日を楽しみにしています。

（安田 健治 記）



臨床検査学科 第40期生（平成21年3月10日卒業）

Graduates

池田 真里絵	木村 舞	玉置 祥明	八木 美智子
今西 達也	佐藤 大樹	永関 真司	山本 利二郎
上田 裕一	篠前 宏樹	野見山 典子	吉田 諭
柿本 将秀	砂田 明日香	福武 学	
川崎 洋高	高木 優充	藤原 英将	
川邊 晴樹	高橋 明德	松本 愛子	
菊地 マナミ	武村 文香	宮田 乃理子	

Message

天理医学技術学校40期生の思い出

40期生はとにかく個性豊かなクラスで、リーダーシップをとり引っ張っていくタイプの学生がいなかったのも正直初めはあまりまとまりのいいクラスとは言えなかったと思います。しかし、スキー実習や研修旅行、臨検祭など学校行事を重ねるごとに徐々にクラスとしてまとまりが生まれました。3年次には国試三連覇を目標にかかげ、それを達成するためにみな一丸となって努力し、互いに協力し合いながら勉強することで、みごと国家試験全員合格を果たすことができました。今では年に一度同窓会を開き、卒業後も互いに親睦を深めあっています。

3年間の学生生活では、実習のレポート作成、テスト勉強などにより臨床検査技師としての知識

と技術を勉強させて頂きました。しかし、それだけでなく寮生活や学校行事、毎日の朝づとめ参拝をはじめとする天理教の信条教育を通して、人間性についてもたくさん勉強させて頂きました。この部分が他の学校にはない特色であり、医療従事者として患者さんと接する中で、知識と技術では補うことのできない最も大切な部分であると思います。

どうか40期生の皆様が臨床検査技師、臨床工学技士として今後でも活躍されることをお祈りいたしております。最後になりましたが、3年間勉強面に加え生活面においても熱心にご指導頂きました瀧本先生、木寺先生、本当にありがとうございました。

（川邊 晴樹 記）



臨床検査学科 第41期生（平成22年3月10日卒業）

Graduates

石田 篤正	神田 知佳	津田 優子	水口 奈津美
稲垣 元美	菊田 健太	常本 晋平	水野 志保
稲田 友衣奈	菊池 彩花	中山 知重	見並 佳苗
岡田 直也	小林 佳奈	橋本 恵理子	村山 宏之
柿沼 響香	佐藤 勝紀	長谷川 真弓	吉澤 潤
梶川 宣郎	高橋 未和	濱田 由香里	龍神 翔太
勝田 唯	高山 啓子	櫃割 まさ代	

Message

みなさんこんにちは。41期生、学籍番号27番、龍神です。これから、41期生の特徴や在学中の思い出話などを書きます。

まず、41期の特徴としては、とにかく女性陣が強かった。というのも、この期は男子が9人に対し、女子は18人。クラスの3分の2が女子ということもあり、男子の意見は常に少数派でした。クラスのキャラクターも村山君を筆頭に個性的な方が多かったように思います。

続いて思い出話。入学してすぐに自己紹介があったと思いますが、その時佐藤君（お父やん）が“33歳です”と言っていました。色んな意味で忘れないです。あとは、7月頃から、吉澤君の“お腹痛”が始まって、1ヶ月くらい入院しちゃいました。あの時はどうなることかと思いましたが、

今では好きなものを食べられるようになっていて、ホッとしています。あと、スキーは楽しかったです。

2年目はやっぱり臨地実習の思い出が強いです。先輩からいろいろなことを聞いていましたが、まっキツかったです。週1で提出するレポートをいかに早く終わらせて遊びに行くか、そんなことばかりに頭を使っていました。

3年目は研究実習がキツかったです。病院のことや、先輩技師さんのことが色々わかりました。

3年間を通して、天医校では人生の中で1番勉強した3年間でした。あの時頑張れたから今も頑張れているんだなと思います。またいつか、クラス会でみんな集まれたらいいなと思います。

ありがとうございました。（龍神 翔太 記）



臨床検査学科 第42期生（平成23年3月10日卒業）

Graduates

青木 仁美	上林 亨	田代 成潤	干場 美里
荒井 優佳	衣笠 佑基	堂山 真由	南 佳世
石田 真誠	小林 昂	中村 あゆみ	宮林 知誉
伊吹 拓人	小林 覚	原 貴久	吉村 葵
今西 佑季	澤井 崇	東谷 あかり	
大内 さちえ	清水 一茂	福田 礼	
柿本 苗世	杉山 晴彦	福本 愛記	

Message

思い返せば私たち42期生は、特別キャラの濃い人ばかりであったように思います。その強烈な個性は互いに化学反応を起こし、時に波乱を巻き起こすこともありました。ですが、何か一つの物事に取り組もうとした時にはなぜか個々の歯車ががっしりとかみ合い、絶大なエネルギーが発揮される、そんな不思議なパワーを秘めたすばらしい期であったように思います。そして、私たち42期生を見事にまとめ、その熱き魂と底知れぬ情熱をもって私たちを国試合格へと導いて下さったのが、我らが担任、曾山先生です。この方なくして42期生を語ることはできません。先生は私たちが入学した直後から3年後の国試をしっかりと見据えておられて、“3年間などあつという間だ、今やらないでいつやるんだっ！”と、最初からエ

ンジン全開で私たちに接し、常に明確な vision を提示し続けてくださいました。始めのうちはただただ圧倒されるだけの私たちでしたが、国試が近づくにつれ、先生の熱意に共鳴するが如く皆の意思が一つになっていき、見事、全員合格を果たすことができました。また先生は、御自宅に42期生全員を招いて宴会を開いて下さるなど、豪快で粹な方でもありました。現在でも先生より同窓会の招集が掛かるとほぼ全員が曾山先生宅に集結します。この団結力は先生あってこそのものであり、42期生の絆の現れだと思えます。これから先、何年経ってもこうして皆で集まり、大宴会を開きたいです。42期生に乾杯！曾山先生に乾杯！そして、こんな素敵仲間たちに巡り会わせてくれた天理医学技術学校に乾杯！（宮林 知誉 記）



臨床工学専攻科 第4期生（平成17年3月10日卒業）

Graduates

植西 美由貴

大上 卓也

杉本 浩士

松田 考浩

三島 拓士

Message

専攻科4期生は、A型男子4人とO型紅一点のわずか5人。A型4人はそれぞれ個性的で、①とっても真面目！、②独創的！？、③軽い！…じゃなかった、明るい！、④自由奔放～♪、でありながら、揃いも揃って4人とも意外と細かい…。そんな4人を、おおらかなO型レディーがまとめている（…というか仕切っている！？）、そんなクラスでした。

在学中は、毎日講義に実習にと、専攻科はカリキュラムがぎっしり。でも、5人しかいないので、講義中は3人寝ると過半数を超えてしまい、先生方にはバレバレ。常習者が2名もいたので、残り3人はいつもなんとか頑張っていました…先生方、ゴメンナサイ。

でも、みんな（ほぼみんな？）何故か賢かつ

たので、ME 2種も国試も余裕。応用数学では、ちょっぴり理系の苦手なO型女子をみんなでサポートしてくれ、まさかの92点！みんなに自慢しようと思ったら、他のメンバーは97～100点で、「一体何を間違ったん！？」と、逆に怒られる始末…。でも応用数学の先生には「この学年は素晴らしい！！」と、とっても褒めていただきました♪これも担任の杉邑先生のご指導の賜物です（←杉邑先生ファン）

そんな4期生、なんやかんやで仲も良く、在学中も卒業後も、何度かみんなで食事にも行きました。最近はなかなか会う機会もないですが、また会う日まで、天理医学技術学校専攻科4期生であったことを誇りに、それぞれの道を進んでいきたいと思います。（松田 美由貴（旧姓 植西） 記）



臨床工学専攻科 第5期生（平成18年3月10日卒業）

Graduates

井ノ上 哲智
森本 達也

神谷 真知子

久保 直美

西畠 良記

藤北 堯彦

Message

専攻科5期生は男性4名、女性2名の計6名で構成されていました。他の分類で申しますとボケ4.5名に対しツッコミ1.5名と圧倒的にツッコミが足りていない状況でありました。ちなみに猫派4名、犬派2名でした。更に詳しくマニアックに申し上げるならば、戦士、戦士、武道家、魔法使い、魔法使い、遊び人といった、回復なんて気にしない超攻撃的なパーティーだったと自負しております。

そんなアンバランスな5期生ですが、たった1年間にたくさんの事がありました。球技大会のオープニングにウィングラスでシャンパンタワーを作ったり、研修旅行の富士登山の際、限られた時間で頂上手前まで行ったり、味噌カツが食べたいと言い出し、名古屋まで車で往復したり、国家

試験前だというのに雪山まで滑りに行ったりしていました。ええ、全部某遊び人の事なんですけども。また、臨床実習中に数学のテスト勉強をしていた事についてお叱りをいただいたこともありました。あの時は本当に申し訳ありませんでした。何せ超攻撃的パーティーの5期生です。勉強も、それ以外も全力でした。特に6人が同じ目標に向かって努力した時のエネルギーはすごいものでした。6人全員が無遅刻無欠席で1年間を乗り切りました。何よりもそのように指導してくださった田崎先生、杉邑先生のおかげで6名全員で国家試験に合格できたのだと思います。

以上、美化されても色あせない、専攻科の思い出でした。

（藤北 堯彦 記）



臨床工学専攻科 第6期生（平成19年3月10日卒業）

Graduates

小川 聡

亀澤 雄佑

杉村 宗典

東 宏美

藤本 義造

Message

専攻科6期生を代表し、クラス委員の杉村より思い出を述べさせていただきます。入学して驚いたことに、まず誰も参拝を休みません（参拝前に決まった場所に全員で一度集合してから神殿に行っていた）。先生の誕生日にはプレゼントをあげます（東さんは手作りケーキを焼いていた）。自分たちでもお互いにプレゼントします（僕は加藤ローサの写真集などをもらった）。授業は誰も寝ません（わからないところや過去問などをみんなで共有した）。休み時間は常に大富豪をします。（さとしとよしぞうは東さんに、カードを「はよ出せよ」とか「なんでそれ出すねんゴルフ」と暴言を吐きまくっていたため東さんに「言葉の暴力団」に指定されていた。）一方、カメは真面目でマイペースな優しいやつでした（試験前夜しっか

りノートをまとめた亀澤のノートを朝の参拝中に「カメ、貸してみ」といって流し読みしたさとしがカメより点が良かった）。テルモ見学&富士山も楽しかったです。（夜はみんなで集まり、やはり大富豪をしていた。翌日も快晴で5人中3人が山頂を制覇した。）やがてみんなきっちり就職先を決めました。もちろん国家試験は全員合格。私はみんなより年上で病院勤務経験もありましたが、みんなびっくりするほど本真面目で優秀でした。専攻科にいた1年は私にとって大切な思い出です。卒業して早6年の年月が流れました。一度5人で集まって大富豪しましょう。

（杉村 宗典 記）



臨床工学専攻科 第7期生（平成20年3月10日卒業）

Graduates

今村 亮太
深田 万紀子

江口 延宏
藤井 孝晃

田中 芳恵
本田 香織

長岡 俊治

平山 博子

Message

閉校記念誌に掲載する原稿の依頼を頂き、僭越ではありますが専攻科7期生の代表として筆を執らせて頂くことになりました。

我々専攻科7期生は男性4名、女性4名の計8名の個性派ぞろい、というより少人数な分、一人一人の特徴が際立っていたとでもいいでしょうか、そのおかげで非常に印象深い一年間だったと思います。最初は検査学科と同じ顔触れが多い中、臨床の場で数年間業務経験のある男性看護師がやってくると聞いた時には皆揃って少々緊張したりしたのですが、まったくの杞憂に終わりましたね。全員すぐに打ち解けて、いつも笑いの絶えない和気藹々とした雰囲気のある教室はとても居心地の良いものでした。

学業では熱心な先生方のユーモア溢れる授業が

あり、実習では現場に立つ先輩方の暖かい指導があって、楽しく興味を持って学ぶことができました。また、それ以外のところで専攻科7期生は何かとイベントが多かったように記憶しています。ボーリングをはじめ、バーベキュー、ソフトボールにバドミントン、本当に色々ありました。もちろんそれらが終われば打ち上げがあって、先生やCEの先輩方と酒を酌み交わしながら交流が持てる場というのは当時の我々にとって、将来像を考えるのに良い刺激になったと思います。

共に勉学に励み、遊び、誰かが悩んでいればそっと手を差し伸べられるそんな思いやり溢れる仲間たちに出会い、成長できた天理医学技術学校に深く感謝し、筆を置きます。

（今村 亮太 記）



臨床工学専攻科 第8期生（平成21年3月10日卒業）

Graduates

石谷 彩
武藤 淳平

井上 卓哉
安田 健治

岡 佑一郎

菊地 可恵

萩原 理未

Message

私が在籍していた臨床工学専攻科8期生は、7名全員が臨床検査学科からの内部進学生でした。専攻科に入学した当初は、7名の教室は閑散とし、教室が広く感じましたが、検査科で3年間一緒に過ごした気心が知れた仲間だったので安心感もありました。先生には8期生はおとなしいとよく言われましたが…。でも、バレーボール大会では無敗を貫き、結束力は強いと証明できたと思います。専攻科では、1年間という短い期間で、講義で必要な知識を学びつつ、学内実習や臨床実習、課題発表会があり、慌ただしくも充実した日々でした。また、恒例の先生 vs 学生のボウリング大会、パーベキュー、病院の技師の方との飲み会などのイベントも盛りだくさんで、学校生活以外でも一緒に過ごす時間が多く、検査科の学生の時よりも、先

生や技士の方との距離が近いことも、専攻科に入学しないと得られない貴重な経験だったと思います。

私は、働き始めて5年目になります。今の私があるのは、親身になって指導してくださった学校の諸先生方、患者さんへの熱い思いを語ってくださった技士の方々、そして、励ましあった同期のみんな、本当にたくさんの人たちのおかげだと実感しています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような恵まれた環境で学ぶことができ、多くの素敵な人と出会うことができた天理医学技術学校で4年間過ごせて、本当に良かったです。

（石谷 彩 記）



臨床工学専攻科 第9期生（平成22年3月10日卒業）

Graduates

今西 達也 柿本 将秀 菊地 マナミ 木村 舞 佐藤 大樹
 高橋 和也 山本 利二郎 吉田 諭

Message

専攻科第9期生は、臨床検査学科40期生7名（私を含む）と高知学園短期大学医療検査専攻科からやってきた高橋和也の計8名で構成されています。9期生の特徴としては、真面目で勉強熱心な子が集まり、授業や実習には真剣に取り組み互いに高め合って、成績優秀であったと自負しております。「一年間遅刻をしない」という目標を自分たちで立て、さらに、検査学科の学生の手本となるように、朝の参拝を毎日本来の集合時間の30分以上前に自分たちで集まり、参拝させていただきました。このような理想的な充実した学校生活をおくることができたのも、偏に田崎先生、瀧本先生、杉邑先生、曾山先生、その他諸先生方のご教示の賜物であったと考えます。

専攻科の一年間の思い出の中で、私が最も印象

に残っていることは、5月の初めに先生方と学生でボーリング対決をし、そのあと、曾山先生のお宅で食事会をさせて頂いたことです。ボーリングでは先生方に敗れたものの、専攻科に入学してから初めてチームワークが芽生えた瞬間であったと思います。また、先生方と初めてお酒を酌み交わし、これからの学校生活について自分たちの意見を交わし合い、また先生方のお話もたくさん聞かせて頂きました。この会のおかげで、学生同士、また先生方との距離も縮まり充実した学校生活を送ることができたと感じます。

以上、簡単ではありますが、専攻科第9期生の紹介とさせていただきます。

（山本 利二郎 記）



臨床工学専攻科 第10期生（平成23年3月10日卒業）

Graduates

梶川 宣郎	佐藤 勝紀	常本 晋平	鳥井 昭男	野見山 典子
櫃割 まさ代	見並 佳苗	向井 菜津実	吉澤 潤	

Message

我々専攻科10期生は本校検査科41期の卒業生6名及び外部からの入学生3名の計9名が在籍していました。全員が寮生であったこともあり、同期とは学校内に関わらず常に一緒に過ごしていたような気がします。10期生として過ごした1年間はかなり濃密でした。そして幾度となく壁にぶちあたった大荒れの1年だったような気がします。（あくまで自分の主観ですが…）常に渦の中心にいたのは我々検査科卒業生組であり、問題が生じる度に先生方には多大な御苦勞をお掛けしてしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。そんな我々ではありましたが、1年という過程を無事乗り越えられた背景には、しっかりしている外部組の存在がありました。皆年上であったということもあるが、明らかに落

ち着きぶりと姿勢が我々検査科組と違っていました。彼らの姿に刺激され、自分を見つめ直すことが何度もあったような気がします。また、学習面や精神面で悩んでいるときは一緒になって解決策を考えてくれる頼もしい存在でもありました。この1年は色々ありましたが同期でワイワイした時間はどれも楽しくかけがえのないものであり、苦樂を共にできた素晴らしい仲間に出会えたことは本当によかったと思っています。そして我々と正面から向き合い導いて下さった先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

（吉澤潤 記）



臨床工学専攻科 第11期生（平成24年3月9日卒業）

Graduates

石田 真誠
清水 一茂

柿本 苗世
杉山 晴彦

上林 亨
田代 成潤

衣笠 佑基
干場 美里

澤井 崇

Message

私たち専攻科11期生は男子7人、女子2人の計9人。皆が検査科からの友であった。室長を努めるは柿本苗世、福岡出身のおとなしい性格でありながら四方八方を向く残り8人をがっちりとまとめてくれた。石田真誠、根っからの関西人でありいつも周囲を明るくした。大喜利という舞台では力が発揮できないらしい。上林亨、少し変わった北海道人であり漫画・アニメの知識は非常に豊富、料理も良くできたのではなかろうか。衣笠佑基、これまた関西人であり元気君という言葉がよく似合った。時折熱くなりすぎることもあり、一触即発の場面も何度か垣間見た。澤井崇、本当に頭が良い人とはこの人のことを言うのだと…違う意味で皆が知らない世界を教えてくれた。杉山晴彦、鳥取出身の男前である。顔だけではなく何

をするにも男前だから驚きだ。田代成潤、マイペース…今ここに万人が認めるマイペースを連れて来いと言われたら皆が彼を連れて行くだろう。干場美里、いつも笑顔で男臭い教室に花を咲かせていた？と思う。そのへろへろ顔とは打って変わって大事な場面では非常にしっかりしていた。そしてこの原稿を務めているのが、私、清水一茂である。また11期の担任を務めるは田崎昭夫氏。教科書には書かれていない病院の実際、人としてあるべき姿など熱のこもった講義の数々は忘れられない。私たちは人間として、医療従事者としてお世話になった方々が胸を張って自慢できる臨床工学技士になります。

（清水一茂 記）



臨床工学専攻科 第12期生（平成25年3月7日卒業）

Graduates

大門 由輝
外嶋 彩香

川口 直也
八原 史乃

佐藤 栄次郎
山本 早希

澤井 舜仁

武田 祐美

Message

臨床工学専攻科12期生は外部入学者はおらず、全員が臨床検査学科43期生からの内部入学者で、とても仲の良いクラスでした。しかし、入学当初は検査科から存在する、女子が強いという固定観念、男女間の小さな壁に悩まされ、それを取り払うべく、4月から花見やカラオケ、食事など全員で出かける機会を設けたり、放課後には学校の閉まる20時までトランプやゲームなどをしたり毎日のように遊んでいました。そうしているうちに、最初にあった壁はいつの間にか無くなりました。基本的に遊ぶのが大好きなクラスで、しかも遊ぶときは常に全力で、時には後輩も巻き込んで遊んだり、キャンプでは1番上の学年にも関わらず、専攻科が最もはしゃいでいました。もちろん、遊んでばかりではなく、真面目なところは

真面目で、毎日の朝の参拝は全員がどの学年よりも早く到着し、健康管理もしっかりとして、全員が参拝・授業ともに皆勤となりました。また、就職活動も全員が第1希望の病院に1発採用を果たしました。成績自体は決して優秀な方ではありませんでしたが、皆で支えあいながらなんとか国家試験も全員で合格することができ、現在は各地で臨床工学技士として精一杯働いています。卒業してからも、全員で温泉旅行に行ったり、天理に集まって遊んだり、連絡を取り合ったりしています。これからもずっと仲の良い同期として居続けたいと思います。

（山本 早希 記）



臨床工学専攻科 第13期生（平成26年3月7日卒業）

Graduates

穂山 正弥
清水 貞則

井手 理彦
田中 富之

木下 奈穂
中野 雄太

楠本 奈央
中本 樹

七条 有里紗

Message

在学時の思い出

臨床工学専攻科第13期生全員は、患者さんを救いたい一心で臨床工学技士を目指しています。クラスの中には、検査科時代に学校参拝遅刻常習の穂山正弥がいましたが、入学以降は別人の様に心を入れ替えて頑張り、現在は毎朝全員揃って昇殿しています。またその他の学生も患者さんを救うために、勉学・人間性・社会性を含めてこの1年間成長して、立派な臨床工学技士になるための第一歩を踏み出したところです。

担任の田崎昭夫先生には、90分授業の大半を臨床工学技士として、人間としての指導、悩み相談にあてて頂きました。私達が知識、技術を学んでいく上で、土台となる患者さんのために努力を積み重ねること、何事もやり遂げるという心構え

を教えて下さったのは、間違いなく担任の田崎昭夫先生です。また田崎先生だけでなく、我が子のようにかわいがってくださる他の先生方にも心から感謝しています。先生方の期待が私達の努力の糧になっています。

閉校記念誌の原稿を書いている今、私はまだ学生ですが、この閉校記念誌が手元に届いた時、「最後の学年にふさわしい医技校生」として有終の美を飾り、卒業後、医療よふぼくとして新たな道が開くこと、また天理医学技術学校の先生方や歴代の先輩方のみなさんが喜んで閉校を迎えていればと思います。

（清水 貞則 記）

第3章 学生自治会と学生寮



学生広場に集う学生



第1節 学生自治会の変遷

1. 自治会活動

本校の学生自治会の始まりは、学校創立直後の昭和42年6月に天理衛生検査技師学校学生自治会として発足している。その中から自治会役員を選出し、学生達は崇高な理想を掲げて討論を重ねながら、自治会会則作成のための準備をすすめていった。昼間は病院実習、夜間は学校で9時まで講義という状況の中で、自治会会則の内容には本校の学生としての自覚と、校風を打ち立てようという、当時の学生の意気込みがうかがえる。

その一部をここに紹介すると、会則前文には「天理衛生検査技師学校学生自治会は、会員が医療ならびに医学の進展に貢献しうる有能な人材となることを目指し、合わせて信条教育、真理の探究を通して豊かな感性を身につけ、また会員相互の親睦を図ることを目的とする。我々はこの目的達成のために手を取り合い、自主的な活動を行うべくここにこの会則を確立する。」とうたわれており、本校の自治会会則として最後まで原文のまま引き継がれている。さらに、機関・運営についても自治会会則第二章に、

第4条 本会目的達成のために次の機関をおく。

1. 総会
2. 自治会役員会
3. クラブ部長会
4. ホームルーム
5. 選挙管理委員会
6. 会計監査

第5条 総会は、全会員によって構成される最高の議決機関である。

第6条 本会役員会は、本会における最高執行機関である。

となっている。

毎年、前期と後期に自治会役員選挙が行われ、会長1名、副会長2名、書記2名、会計2名、会計監査1名の計8名が選出される。これらの役員を中心に自治会が運営され、キャンプと文化祭(衛検祭・臨検祭・天医祭)と卒業文集「フラスコ」や卒業新聞「～Time's～」に関しては、別に実行委員や編集委員を選出して具体的な活動が行われてきた。

自治会活動の活発な時期と不活発な時期があったが、選ばれた役員は学生相互の親睦を図るために、一生懸命に頑張ってきた。

2. キャンプ

学生自治会行事のひとつとしてキャンプが行われるようになったのは、天理衛生検査技師学校が開校して3年目の昭和44年7月からである。第1回キャンプは滋賀県の桐生で行われた。学校としても初めての試みということで、学生代表だけでなく教員も天理教少年会中級キャンプ研修会に参加して、キャンプ技術や運営方法を修得して行ったということである。初回にもかかわらず、天理教少年会の協力を得て大道具なども準備され、ハイキング、肝だめし、キャンプファイヤーなどの行事が行われ、学生達の心の奥に強烈な印象を残したキャンプとなった。

キャンプ場として奈良県の洞川が昭和49年に新たに加えられ、昭和60年まで桐生と洞川で交互に実施するようになった。キャンプに必要なテントや寝袋、ナベ、ナタ、スコップなどの道具は少年会から借用していたが、11期、12期、13期、17期の卒業記念品としてキャンプ用テントと集合テ



ントが学校に寄贈され、学校名の入ったテントでキャンプができるようになった。

桐生はキャンプ地としてはよかったが、よく雨に泣かされたり、色々と災難が続いたため、別のキャンプ場を探し、昭和61年から奈良県の東吉野キャンプ場が新たにキャンプ地として加わった。東吉野へは天理から車で約1時間と近く、水はけがよい所で雨によるテントの浸水の心配がなかったため、3年連続して東吉野キャンプ場で行われた。キャンプも学生自治会の行事として定着していたが、お風呂に入れないことやテントで寝た経験がない学生が多くなって見直しを余儀なくされた。平成19年からは奈良県御杖村にある「みつえ青少年旅行村」でバンガローに宿泊し、近くの温泉でお風呂に入れるキャンプとなって継続されている（下表）。

このように昭和44年から続いてきたキャンプでは、台風や雨のため中止することもあったが、大きな事故もなく行うことができたことは、準備の段階から色々と努力してきた実行委員の人達の苦勞があったことを忘れてはならない。キャンプでは日頃接触の少ない先輩、後輩が一堂に会して同じ釜の飯を食べ、寝起きを共にすることにより、親睦を図る機会はまたとないものであった。本校卒業生の多くの方は、3年間の学生生活のよき思い出として心に残る行事であったことと思う。

表 キャンプ開催地の変遷

昭和44年	桐生キャンプ場	昭和59年	桐生キャンプ場	平成11年	信楽キャンプ場
昭和45年	日野大教会	昭和60年	洞川キャンプ場	平成12年	洞川キャンプ場
昭和46年	桐生キャンプ場	昭和61年	東吉野キャンプ場	平成13年	東吉野キャンプ場
昭和47年	都祁村青少年活動センター	昭和62年	東吉野キャンプ場	平成14年	洞川キャンプ場
昭和48年	桐生キャンプ場	昭和63年	東吉野キャンプ場	平成15年	洞川キャンプ場
昭和49年	洞川キャンプ場	平成元年	洞川キャンプ場	平成16年	学生自治会行事中止
昭和50年	桐生キャンプ場	平成2年	青山高原保健休養地	平成17年	洞川ハイキング
昭和51年	洞川キャンプ場	平成3年	東吉野キャンプ場	平成18年	悪天候のため中止
昭和52年	都祁村青少年活動センター	平成4年	洞川キャンプ場	平成19年	みつえ青少年旅行村
昭和53年	桐生キャンプ場	平成5年	洞川キャンプ場	平成20年	みつえ青少年旅行村
昭和54年	洞川キャンプ場	平成6年	洞川キャンプ場	平成21年	みつえ青少年旅行村
昭和55年	桐生キャンプ場	平成7年	洞川キャンプ場	平成22年	みつえ青少年旅行村
昭和56年	洞川キャンプ場	平成8年	洞川キャンプ場	平成23年	悪天候のため中止
昭和57年	桐生キャンプ場	平成9年	天川村キャンプ場	平成24年	みつえ青少年旅行村
昭和58年	洞川キャンプ場	平成10年	東吉野キャンプ場	平成25年	みつえ青少年旅行村



キャンプを楽しむ学生



キャンプを楽しむ学生



天医校最後のキャンプ（奈良県御杖村）

3. 文化祭（衛検祭・臨検祭・天医祭）

学生自治会主催で文化祭を行うことになったのは、開校2年目の昭和43年秋のことである。この行事は学校が設定したのではなく、学生自治会からの要望を聞き入れた形で始まった。天理衛生検査技師学校の初期は夜間制であり、月曜日から金曜日は朝8時30分より夜9時まで実習・講義がびっしりと詰まっていた。このカリキュラムの中で、病院と学校を休んで行わなければならないので、病院の関連部所の了解を得て、学校とも幾度も折衝した末に、ようやく準備も含めて2日間の日程が許可された。開催に向けての準備は夜9時以降の放課後に行われるというハードスケジュールの中、1人2役、3役受け持ち、全員で力を合わせた結果、第1回文化祭は外部からも多数の参加者を得て盛況であったということである。その内容は、1日目は学術的、2日目は娯楽的要素のある組み合わせであった。また、クラブや有志による、うどん、たこ焼き、カレーなどの模擬店も軒を並べ、お祭気分も十分味わえるものであった。

本校の文化祭はこのようにして始められたのである。高校までの文化祭とは異なり、学生自身が自主的な勉強の発表の場を求め、自分を表現する場を求める気持ちを結集して、その場所と時間を勝ち取ったのである。その精神は今も語り継がれ、これからも受け継いでいってもらいたい。

第2回以降は衛生検査技師の名前を対外的にアピールすることを目標に、「衛検コーナー」を設け



旧校舎での臨検祭



新校舎での臨検祭



三校合同の天医祭

ていろいろと趣向を凝らし、一般の方々にも知ってもらおうとする努力が払われた。また日程としては、第2回までは準備も含めて2日間であったが、第3回から3日間、第4回では体育祭を含めて4日間と増え、第5回から7日間と大幅に増え、学生週間という名称で、ゆとりある日程で当分の間定着していた。

天理医学技術学校への移行に伴い、それまで「衛検祭」と呼ばれていた文化祭は「臨検祭」と銘うたれるようになった。「臨検祭」は衛検祭の伝統を受け継ぎ、毎年統一テーマを掲げ、部門ごとの展示発表が中心として行われてきた。この部門別発表は1年生から3年生が希望する部門に入り、あるテーマについて勉強してきたことをまとめて展示発表するものである。最初1年生は予備知識を持たないので、2年生、3年生が講義する形で始められる。これが割と教育的効果が高く、教える方も教わる方もよい勉強となり、得意科目となるケースが多かった。学校としても臨検祭の部門別発表で、テーマの着眼点がいよ部門やかなりの努力の跡がみられる部門、わかりやすい発表を心掛けた部門に対して、表彰状と記念品の贈呈を行った。これは第14回（昭和56年）から第25回（平成4年）までの12年間行われた。

新校舎となって展示やバザーに使えるスペースが広くなり、色々と趣向を凝らした結果を学生たちの家族や天理高校の後輩達が見学に来ることが多くなり、にぎやかなものとなった。また、天理看護



学院と合同で開催したこともあり、来校者の数は以前と比べると多くなった。平成24年には天理医療大学の1年生も加わり、三校合同で行うため「天医祭」と名称を変更して継続されている。

4. 卒業文集「フラスコ」と卒業新聞「～Time's～」

「フラスコ」と「～Time's～」に関しては2年生が中心となり編集から校正まで行っている。「フラスコ」編集委員は学校長をはじめ教職員、講義・実習でお世話になった先生方、寮でお世話になった方々などに卒業生への饒の言葉をお願いし、卒業生には3年間の思い出を振りかえってもらう文章と研究実習でお世話になった指導者と共に映った写真を掲載し、在校生の送る言葉を入れて構成している。卒業生にとってもこの「フラスコ」が学生時代のよき思い出となっている。毎年欠かさずに発行されている文集であるが、自治会役員および編集委員は、この発行を卒業式の日までに間に合わせるために並々ならぬ苦勞をしている。編集委員となった学生は、学年末試験やレポート提出で忙しい時期にもかかわらず原稿の回収や文章の校正に追われ、一生懸命、卒業生に喜んでもらえる文集作りに努力しているのである。



新入生歓迎会（バレーボール大会）



国家試験見送り（在校生と必勝だるま）



国家試験見送り（受験生と必勝だるま）



第2節 学生寮の変遷

1. 男子寮

男子寮は天理市田井庄町にあった憩の家職員男子寮である（旧）おやさと一号館の一部を、昭和44年度より使用させていただいた。しかし、老朽化に伴い平成15年8月28日、天理市富堂町に（新）おやさと一号館が建築された。

（新）おやさと一号館は2790.15㎡の敷地に建築面積807.66㎡（延床面積1338.16㎡、鉄筋造り2階建て）となっており50室の居室、ホール（食堂）、管理人室、浴室、洗濯室、簡単な厨房などが設備されている。また、ホールには神棚もあり、礼拝場としても利用される。外には駐輪場・バイク置場（80㎡）と27台分の駐車スペースもある。1、2階とも25室の居室があり、各室約14㎡（約9帖）でクローゼットや洗面台があり、学生のみ簡易ベッドも置かれている。主に1階を天理医学技術学校と天理看護学院の男子学生が使用させていただいていたが、平成19年度より全館が本校と看護学院学生のための学生専用寮となり、平成24年度からは天理医療大学男子学生も使用させていただいている。また、食事に関しては、平成22年度までは教会本部炊事場から希望に応じ配食されていたが、平成23年度以降は自炊となっている。



旧おやさと一号館（男子寮）



おやさと一号館（男子寮）



旧おやさと一号館（男子寮）寮生



おやさと一号館（男子寮）寮生



2. 女子寮

女子寮は平成19年まで憩の家女子職員寮である別所荘新館を使用させていただいたが、老朽化および憩の家入院棟建設のため、平成19年3月をもって閉寮されることとなった。それに伴い本校の女子寮は別所荘新館に隣接する「よろこび寮」に移転することになった。「よろこび寮」は以前より天理看護学院の女子学生寮に使用されていたが、その一部を改造の上、「天理医学技術学校女子学生寮」と称し、平成19年4月7日より独自の寮として開寮した。

憩の家入院棟建設がよろこび寮の敷地を含めることになり、平成21年9月をもって「よろこび寮」が閉寮されることになった。それに伴い天理医学技術学校および天理看護学院共通の女子学生寮として「別所よろこび寮」が学校に隣接して建設され、平成21年9月「別所よろこび寮」が開寮した。

「別所よろこび寮」は総数229室の6階建てで、多目的ホール（参拝場）、事務所、大浴場などが設備されており、調理室とトイレが2階～6階ではそれぞれ2ヶ所、1階にはそれぞれ1ヶ所、洗濯室が各階に1か所設備されている。外には駐輪場もある。居室は1階に13室、2階に46室、3階～6階にはそれぞれ42室ある。各居室約12㎡（3.6坪）で洗面台、クローゼット、エアコン、ベッド、机、椅子が設置されている。また、インターネット接続口も各部屋にあり、希望すれば有料でネット接続ができる。天理医学技術学校の学生と平成24年4月に開校した天理医療大学の検査学科の女子寮生は全員2階を使用している。

なお、両寮共、世話部の管轄下で運営されている。



別所荘新館（旧女子寮）



別所よろこび寮（女子寮）



別所荘新館（旧女子寮）寮生と先生



天理医学技術学校女子学生寮新入寮生歓迎会



3. 各期の入寮者数

本校の授業は朝早くから始まり、実習などで終了も遅くなる事が多く、下表に示すよう多くの学生(検査学科 66.3%・専攻科 55.8%)が寮を利用させて頂いた。寮生活は学校の学習が円滑に進む原動力になると共に、学生にとっては忘れられない多くの思い出を作る場所となった。

表 期別入寮者数と入寮率
臨床検査学科

期 (男子数・女子数)	男子寮 (人)	女子寮 (人)	合計 (人)	入寮率 (%)
1期 (15・19)	7	13	20	58.8
2期 (9・21)	8	17	25	83.3
3期 (9・24)	8	21	29	87.9
4期 (10・21)	7	17	24	77.4
5期 (8・27)	8	17	25	71.4
6期 (13・24)	9	20	29	78.4
7期 (7・21)	6	17	23	82.1
8期 (4・29)	4	22	26	78.8
9期 (11・23)	11	17	28	82.4
10期 (6・22)	4	16	20	71.4
11期 (9・31)	9	20	29	72.5
12期 (11・16)	7	12	19	70.4
13期 (10・21)	5	15	20	64.5
14期 (7・23)	5	13	18	60.0
15期 (12・15)	4	8	12	44.4
16期 (10・17)	7	7	14	51.9
17期 (7・22)	5	18	23	79.3
18期 (8・15)	6	8	14	60.9
19期 (9・12)	6	10	16	59.3
20期 (3・19)	3	12	15	68.2
21期 (3・21)	3	16	19	79.2
22期 (3・22)	2	15	17	68.0
23期 (5・19)	3	15	18	75.0
24期 (2・15)	1	8	9	52.9
25期 (7・22)	5	13	18	62.1
26期 (8・23)	5	12	17	54.8
27期 (4・25)	3	16	19	65.5
28期 (12・15)	6	6	12	44.4
29期 (5・32)	3	17	20	54.1
30期 (12・21)	6	12	18	54.5
31期 (12・19)	6	12	18	58.1
32期 (11・21)	6	15	21	65.6

臨床検査学科

期 (男子数・女子数)	男子寮 (人)	女子寮 (人)	合計 (人)	入寮率 (%)
33期 (10・20)	5	10	15	50.0
34期 (5・22)	3	12	15	55.6
35期 (10・17)	7	9	16	59.3
36期 (9・20)	3	12	15	51.7
37期 (14・12)	7	9	16	61.5
38期 (13・12)	5	7	12	48.0
39期 (12・13)	9	9	18	72.0
40期 (15・9)	7	7	14	58.3
41期 (9・18)	5	11	16	59.3
42期 (12・13)	9	11	20	80.0
43期 (13・15)	11	10	21	75.0
44期 (10・15)	9	13	22	88.0
45期 (13・12)	11	8	19	76.0
平均入寮率 (%)	66.1	66.5	66.3	66.3

臨床工学専攻科

期 (男子数・女子数)	男子寮 (人)	女子寮 (人)	合計 (人)	入寮率 (%)
1期 (5・1)	1	0	1	16.7
2期 (3・3)	0	5	5	83.3
3期 (0・9)	0	4	4	44.4
4期 (4・1)	2	1	3	60.0
5期 (4・2)	0	1	1	16.7
6期 (4・1)	2	1	3	60.0
7期 (4・4)	1	0	1	12.5
8期 (4・3)	4	0	4	57.1
9期 (6・2)	5	0	5	62.5
10期 (5・4)	5	4	9	100
11期 (7・2)	6	2	8	88.9
12期 (4・4)	4	0	4	50.0
13期 (5・4)	4	1	5	55.6
平均入寮率 (%)	61.8	47.5	55.8	55.8

資料集



校章の正六角形はちばかんろだいを示すと共に、化学の代表的な記号であるベンゼン核を表している。中に図案化されている顕微鏡の鏡筒レボルバ部は太陽（日）を、鏡体部分は月をデザインし、親里で学ぶ医療ようぼく技師の使命を象徴化したものである。MTは medical technology（臨床検査学）の略である。

1. 歴任教職員一覧

職名	氏名	在職期間
学校長	山本 俊平	昭和42年 4月～昭和45年 12月
	高橋 浩	昭和46年 1月～平成9年 8月
	奥村 秀弘	平成9年 9月～閉校
副学校長	市村 輝義	平成10年 4月～平成20年 3月
	上田 慶子	平成20年 4月～閉校
教務主任	高橋 浩	昭和42年 4月～昭和45年 12月
	松田 信義	昭和46年 1月～昭和56年 3月
	高橋 浩	昭和56年 4月～平成5年 3月
	市村 輝義	平成6年 4月～平成10年 3月
	喜多村 昭子	平成10年 4月～平成16年 5月
	上田 慶子	平成16年 6月～平成20年 3月
	木寺 英明	平成20年 4月～閉校
	杉邑 芳樹	平成20年 4月～閉校
専任教員	喜多村 昭子	昭和44年 4月～平成10年 3月
	竹田 妙子	昭和43年 4月～昭和43年 9月
	上田 慶子	昭和44年 4月～平成16年 5月
	島本 雅子	昭和45年 4月～昭和49年 3月
	市村 輝義	昭和49年 4月～平成5年 3月
	木田 光雄	昭和49年 4月～昭和56年 4月
	三根たまよ	昭和51年 6月～昭和56年 3月
	芝田 陽子	昭和53年 4月～昭和56年 3月
	平山 好美	昭和56年 5月～平成8年 5月
	岩谷 一雄	昭和56年 5月～昭和62年 10月
	木寺 英明	昭和56年 5月～平成20年 3月
	杉邑 芳樹	平成8年 6月～平成20年 3月
	樫葉 周三	平成8年 9月～平成9年 3月
	藤本 一満	平成9年 4月～平成17年 9月
	亘 弘	平成10年 8月～平成19年 1月
	田崎 昭夫	平成13年 3月～閉校
	前川ふみよ	平成13年 4月～平成24年 3月
	後藤きよみ	平成16年 7月～閉校
	瀧本順三郎	平成17年 10月～閉校
	曾山 奉教	平成18年 4月～閉校
	松田 治和	平成19年 9月～平成21年 12月
	諸井ひろみ	平成21年 4月～閉校
上田 勝彦	平成22年 4月～閉校	

職名	氏名	在職期間
事務係長	福井 清三	平成10年 4月～平成13年 3月
	志茂 嘉美	平成23年 7月～平成24年 3月
		平成24年 4月～天理医療大学
事務主任	佐治 隆則	昭和57年 5月～昭和59年 3月
	志茂 嘉美	平成13年 4月～平成23年 6月
事務員	佐治 隆則	昭和42年 4月～昭和50年 3月
	茅原 都子	昭和42年 4月～昭和43年 3月
	柘植 恭平	昭和43年 4月～昭和57年 4月
	今西久仁子	昭和43年 4月～昭和44年 9月
	藤本 秀子	昭和44年 9月～昭和47年 5月
	松村 幸枝	昭和47年 6月～昭和49年 6月
	武谷 典子	昭和49年 6月～昭和51年 9月
	松本 洋子	昭和51年 10月～昭和60年 3月
	松井 博子	昭和59年 4月～平成24年 3月
		平成24年 4月～天理医療大学
	田村 靖也	昭和60年 4月～平成5年 4月
	志茂 嘉美	平成5年 5月～平成13年 3月
	用務員	柘植 恭平 (兼務)
柘植 佳子		昭和50年 4月～平成8年 8月
水谷 篤 (技能員)		平成8年 7月～平成24年 3月
水谷八千代		平成24年 4月～天理医療大学 平成8年 9月～平成13年 2月
ひのきしん生	大鋸 功子	昭和44年 4月～昭和48年 2月
	増田みやこ	昭和48年 4月～昭和50年 2月
	鶴田真理子	昭和50年 1月～昭和54年 2月
	旭 郁恵	昭和54年 4月～昭和58年 2月
	森田 良子	昭和58年 4月～昭和62年 2月
	石村 佳枝	昭和62年 4月～平成3年 2月
	江口 美和	平成3年 4月～平成7年 2月
	田中真那美	平成7年 4月～平成11年 2月
	三大寺道恵	平成11年 4月～平成15年 2月
	小林まさよ	平成15年 4月～平成15年 5月
	竹内 真美	平成15年 6月～平成16年 7月
三浦 愛実	平成16年 4月～平成19年 8月	
日下部一恵	平成20年 4月～平成20年 10月	



閉校時教職員

2. カリキュラム変遷

1) 天理衛生検査技師学校 (第1～6期生)

教育内容と履修単位表

科目	指定規則			本校学則			備考	
	講義	実習	計	講義	実習	計		
基礎科目	数 学	30	-	30	30		30	
	物理学	45	45	90	45	45	90	
	化 学	75	60	135				
	有機化学				30	60	135	
	無機化学				30			
	物理化学				15			
	生物学	30	-	30	30		30	
	外国語	120	-	120				
	英語				100		100	
	ドイツ語				20		20	
	小計	300	105	405	300	105	405	
専門科目	医学概論	15		15	20		20	
	公衆衛生概論	60	60	120	60	60	120	
	臨床病理学総論	60		60	60		60	
	衛生検査総論	60	90	150	60	90	150	
	解剖組織学	45	30	75	45	90	135	
	生理学	60	90	150	60	90	150	
	病理学	60	135	195	60	135	195	
	生化学	90	255	345	90	255	345	
	血液学	45	180	225	45	180	225	
	微生物学	90	225	315	120	230	350	
	血清学	60	165	225	60	165	225	
	医動物学	30	15	45	60	15	75	
	実験用動物学	15		15	15		15	
	小計	690	1245	1935	755	1310	2065	
総計	990	1350	2340	1055	1415	2470		

数字は時間数

2) 天理医学技術学校 (第7～12期生)

教育内容と履修単位表

科目	指定規則 S45.4.1 ~ S61.3.31			本校学則 (天理医学技術学校)			備考	
	講義	実習	計	講義	実習	計		
基礎科目	人文科学	30	-	30	30	-	30	@印：臨床実習を含む科目
	社会科学	30	-	30	30	-	30	
	自然科学	255	120	375	420	210	630	
	(数学)	60	-	60	100	-	100	
	(物理学)	60	45	105	80	80	160	
	(化学)	75	75	150	150	130	280	
	(生物学)	45	-	45	60	-	60	
	(情報科学概論)	15	-	15	30	-	30	
	外国語	120	-	120	230	-	230	
	保健体育	15	30	45	30	90	120	
	天理教教義学	-	-	-	110	100	210	
	小計	450	150	600	850	400	1250	
専門科目	医学概論	15	-	15	20	-	20	
	公衆衛生概論	60	60	120	60	60	120	
	臨床病理学総論	75	-	75	80	-	80	
	臨床検査総論Ⅰ	60	@90	150	70	120	190	
	臨床検査総論Ⅱ	15	@30	45	20	30	50	
	解剖組織学	45	30	75	70	50	120	
	基礎生理学	45	-	45	60	-	60	
	臨床生理学	75	@105	180	90	300	390	
	病理学	60	@135	195	100	250	350	
	生化学	60	-	60	60	-	60	
	臨床化学	60	@255	315	60	310	370	
	血液学	60	@180	240	70	200	270	
	微生物学	90	@240	330	130	280	410	
	血清学	60	@180	240	70	190	260	
	医動物学	30	15	45	50	60	110	
	実験用動物学	15	-	15	20	-	20	
	放射性同位元素 臨床検査技術	15	-	15	50	40	90	
	医用電子工学概論	30	15	45	70	80	150	
関係法規	15	-	15	40	-	40		
小計	885	1335	2220	1190	1970	3160		
合計	1335	1485	2820	2040	2370	4410		
選択科目 (学校指定)	300		300	—	—	—		
総計	3120			4410				

数字は時間数

3) 天理医学技術学校 (第13～20期生)

教育内容と履修単位表

科目 (@: 臨床実習を含む)	指定規則 S45.4.1～S61.3.31			本校学則(天理医学技術学校)			備考	
	講義	実習	計	講義	実習	計		
基礎科目	人文科学	30	-	30	35	-	35	@印: 臨床実習を含む科目
	社会科学	30	-	30	35	-	35	
	自然科学	255	120	375	297	252	549	
	(数学(統計学))	60	-	60	60	-	60	
	(物理学)	60	45	105	60	80	140	
	(化学)	75	75	150	96	80	176	
	(生物学)	45	-	45	48	24	72	
	(情報科学概論)	15	-	15	33	68	101	
	外国語	120	-	120	120	-	120	
	保健体育	15	30	45	15	33	48	
	天理教教義学	-	-	-	96	72	168	
小計	450	150	600	598	357	955		
専門科目	医学概論	15	-	15	15	-	15	
	公衆衛生概論	60	60	120	60	60	120	
	臨床病理学総論	75	-	75	75	68	143	
	臨床検査総論Ⅰ	60	@90	150	60	150	210	
	臨床検査総論Ⅱ	15	@30	45	15	30	45	
	解剖組織学	45	30	75	45	30	75	
	基礎生理学	45	-	45	45	-	45	
	臨床生理学	75	@105	180	75	234	309	
	病理学	60	@135	195	70	250	320	
	生化学	60	-	60	72	120	192	
	臨床化学	60	@255	315	72	330	402	
	血液学	60	@180	240	60	240	300	
	微生物学	90	@240	330	90	300	390	
	血清学	60	@180	240	72	240	312	
	医動物学	30	15	45	30	36	66	
	実験用動物学	15	-	15	15	-	15	
	放射性同位元素 臨床検査技術	15	-	15	20	76	96	
	医用電子工学概論	30	15	45	48	124	172	
関係法規	15	-	15	15	-	15		
小計	885	1335	2220	954	2288	3242		
合計	1335	1485	2820	1552	2645	4197		
選択科目(学校指定)	300		300	-	-	-		
総計	3120			4197				

数字は時間数

4) 天理医学技術学校 (第21~33期生)

教育内容と履修単位表

科目 (@: 臨床実習を含む)	指定規則			本校学則			
	講義	実習	計	講義	学内実習	臨床実習	計
基礎科目	人文科学	30	-	30	75		75
	社会科学	30	-	30	30		30
	自然科学	150	-	150	150	60	210
	化学				60	30	90
	物理学				45	30	75
	統計学				30		30
	生物学				15		15
	外国語	120	-	120	120		120
	英語				90		90
	独語				30		30
	保健体育	15	45	60	15	45	60
	天理教教義学						
	小計	345	45	390	390	105	495
基礎専門科目	医学概論	15	-	15	30		30
	解剖学	45	30	75	45	30	75
	生理学	45	45	90	60	45	105
	病理学	60	45	105	60	45	105
	生化学	60	45	105	75	45	120
	微生物学	45	45	90	45	45	90
	医動物学	30	15	45	30	30	60
	情報科学概論	30	-	30	45	30	75
	検査機器総論	45	-	45	45		45
	医用工学概論	30	30	60	45	45	90
	小計	405	255	660	480	315	795
臨床専門科目	公衆衛生学	60	45	105	60	45	105
	臨床医学総論	45	-	45	45		45
	臨床病理学総論	60	-	60	60		60
	臨床検査総論	60	@90	150	75	45	180
	検査管理総論	45	-	45	45		45
	病理組織細胞学	30	@135	165	60	75	195
	臨床生理学	90	@135	225	120	30	285
	臨床化学	60	@180	240	75	135	270
	臨床血液学	60	@135	195	75	90	210
	臨床微生物学	45	@135	180	60	60	210
	臨床免疫学	90	@180	270	105	135	285
	放射性同位元素検査技術学	30	15	45	30		60
	関係法規	15	-	15	30		30
選択	研究実習				225		225
	演習				90		90
小計	690	1050	1740	840	705	750	2295
合計	1440	1350	2790	1710	1125	750	3585
選択科目	330		330				
総計	3120			3585			

数字は時間数

5) 天理医学技術学校 (第34~37期生)

臨床検査学科 教育内容と履修単位数表

指定規則		単位数	学期				合計	
			科目	科目単位数				
教育内容				講義	実習	合計		
			基礎分野	科学的思考の基礎	14	自然科学		化学
物理学	1 (15)						1 (15)	
生物学	1 (15)						1 (15)	
人間と生活	人文科学	天理教教義学		2 (30)		1 (30)	3 (60)	
		心理学、哲学 より1科目		1 (15)			1 (15)	
	社会科学 (社会学、文化人類学、 人権教育論等より2科目)	2 (30)				2 (30)		
	外国語	3 (45)				3 (45)		
	保健体育	1 (15)		1 (30)		2 (45)		
選択科目 (芸術等)		1 (30)	1 (30)					
専門基礎分野	人体の構造と機能	7	人体解剖学	2 (60)		2 (60)	7 (210)	
			人体生理学	2 (60)		2 (60)		
			生化学	2 (60)	1 (30)	3 (90)		
	医学検査の基礎と その疾病との関連	5	臨床検査学総論	1 (30)	1 (30)	2 (60)	5 (150)	
			病理学	2 (60)		2 (60)		
			薬理学	1 (30)		1 (30)		
	保健医療福祉と 医学検査	4	公衆衛生学	2 (60)	1 (30)	3 (90)	4 (120)	
			看護学 (又は医療福祉概論)	1 (30)		1 (30)		
	医療工学及び 情報科学	4	医用生体工学概論	1 (30)		1 (30)	5 (150)	
			医用工学概論	1 (30)	1 (30)	2 (60)		
情報科学概論			1 (30)	1 (30)	2 (60)			
専門分野	臨床病態学	6	臨床病理学	2 (60)	1 (30)	3 (90)	6 (180)	
			臨床医学概論	1 (30)		1 (30)		
			臨床医学各論	2 (60)		2 (60)		
	形態検査学	9	病理組織検査学	1 (30)	1 (45)	2 (75)	9 (330)	
			血液検査学	1 (30)		1 (30)		
			医動物検査学	1 (30)		1 (30)		
			顕微鏡検査学		3 (135)	3 (135)		
			画像診断検査学	1 (30)	1 (30)	2 (60)		
	生物化学分析検査学	11	化学検査学	6 (180)	2 (90)	8 (270)	11 (375)	
			放射性同位元素検査学	1 (30)		1 (30)		
			遺伝子検査学	1 (30)	1 (45)	2 (75)		
	病因・生体防御検査学	10	微生物検査学	4 (120)	2 (90)	6 (210)	10 (360)	
			免疫検査学	1 (30)	1 (45)	2 (75)		
			輸血移植検査学	1 (30)	1 (45)	2 (75)		
	生理機能検査学	9	生体機能検査学	6 (180)	2 (90)	8 (270)	9 (300)	
			検体機能検査学	1 (30)		1 (30)		
	検査総合管理学	7	検査運営管理学	2 (60)		2 (60)	9 (270)	
			検査精度管理学	1 (30)	1 (30)	2 (60)		
医療情報管理学			1 (30)		1 (30)			
検査情報処理学			1 (30)		1 (30)			
検査機器学			2 (60)		2 (60)			
医療科学			1 (30)		1 (30)			
臨地実習	7	臨地実習		8 (360)	8 (360)	8 (360)		
選択実習	-	研究実習		5 (150)	5 (150)	7 (210)		
		演習		2 (60)	2 (60)			
総単位数		93		67 (1815)	39 (1485)	106 (3300)	106 (3300)	

() 内数字：時間数

6) 天理医学技術学校 (第38~40期生)

臨床検査学科 教育内容と履修単位表

指定規則		学則					
教育内容	単位数	科目	科目単位数			合計	
			講義	実習	合計		
基礎分野	科学的思考の基礎	自然科学 (化学、物理学、生物学、生物学等より2科目以上)	2 (30)		2 (30)	14 (240)	
			1 (15)		1 (15)		
			1 (15)		1 (15)		
	人間と生活	人文科学	天理教養学 (心理学、哲学より1科目)	2 (30)	1 (30)		3 (60)
			社会科学 (社会学、文化人類学、人権教育論等より2科目)	2 (30)			2 (30)
			外国語	2 (30)			2 (30)
		保健体育	1 (15)	1 (30)	2 (45)		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体解剖学	2 (42)		2 (42)	7 (156)	
			人体生理学	2 (42)			2 (42)
			生化学	2 (42)	1 (30)		3 (72)
			臨床検査学総論	1 (21)	1 (30)		2 (51)
	医学検査の基礎とその疾病との関連	5	病理学	2 (42)		2 (42)	5 (108)
			薬理学	1 (15)		1 (15)	
	保健医療福祉と医学検査	4	公衆衛生学	2 (42)	1 (30)	3 (72)	5 (108)
			看護学	1 (15)		1 (15)	
			関係法規	1 (21)		1 (21)	
	医療工学及び情報科学	4	医用生体工学概論	1 (21)		1 (21)	5 (123)
			医用工学概論	1 (21)	1 (30)	2 (51)	
			情報科学概論	1 (21)	1 (30)	2 (51)	
専門分野	臨床病理学	6	臨床病理学	2 (42)		2 (42)	6 (126)
			臨床病理学演習	1 (21)		1 (21)	
			臨床医学概論	1 (21)		1 (21)	
			臨床医学各論	2 (42)		2 (42)	
	形態検査学	9	病理組織検査学	1 (21)	1 (30)	2 (51)	10 (246)
			血液検査学	1 (21)		1 (21)	
			医動物検査学	1 (21)		1 (21)	
			顕微鏡検査学		3 (90)	3 (90)	
			画像診断検査学	1 (21)		1 (21)	
			画像診断検査学演習	1 (21)		1 (21)	
			形態検査学系特論	1 (21)		1 (21)	
	生物化学分析検査学	11	化学検査学	6 (126)	2 (60)	8 (186)	12 (279)
			放射性同位元素検査学	1 (21)		1 (21)	
			遺伝子検査学	1 (21)	1 (30)	2 (51)	
			生物化学分析検査学系特論	1 (21)		1 (21)	
	病因・生体防御検査学	10	微生物検査学	4 (84)	2 (60)	6 (144)	11 (267)
			免疫検査学	1 (21)	1 (30)	2 (51)	
			輸血移植検査学	1 (21)	1 (30)	2 (51)	
病因・生体防御検査学系特論			1 (21)		1 (21)		
生理機能検査学	9	生体機能検査学	6 (126)	2 (60)	8 (186)	9 (207)	
		生体機能検査学系特論	1 (21)		1 (21)		
検査総合管理学	7	検査運営管理学	1 (21)		1 (21)	7 (141)	
		検査精度管理学	1 (21)		1 (21)		
		検査情報処理学	1 (21)		1 (21)		
		検査機器学	2 (42)		2 (42)		
		医療科学	1 (15)		1 (15)		
		検査総合管理学系特論	1 (21)		1 (21)		
臨地実習	7	臨地実習		8 (360)	8 (360)	8 (360)	
選択実習	-	研究実習		5 (150)	5 (150)	7 (210)	
		演習		2 (60)	2 (60)		
総単位数	93		71	35	106	106	

() 内数字：時間数

7) 天理医学技術学校 (第41～45期生)

臨床検査学科 教育内容と履修単位表

指定規則		学則						
教育内容	単位数	科目	科目単位数 (() 内は時間数)			合計		
			講義	実習	合計			
基礎分野	科学的思考の基礎	自然科学	化学I	2 (30)		2 (30)	18 (390)	
			化学II	1 (15)		1 (15)		
			生物学	1 (15)		1 (15)		
	人間と生活	14	人文科学	天理教教義学	2 (30)			2 (30)
				天理教教義学実習		3 (135)		3 (135)
			宗教学	1 (15)		1 (15)		
			心理学	1 (15)		1 (15)		
			哲学	1 (15)		1 (15)		
			社会科学	文化人類学	1 (15)			1 (15)
				医療社会学	1 (15)			1 (15)
外国語		2 (30)		2 (30)				
専門基礎分野	人体の構造と機能	7	保健体育	1 (15)	1 (45)	2 (60)	7 (210)	
			人体解剖学	2 (60)		2 (60)		
			人体生理学	2 (60)		2 (60)		
			生化学	2 (60)	1 (30)	3 (90)		
	医学検査の基礎とその疾病との関連	5	臨床検査学総論	1 (30)	1 (30)	2 (60)	5 (135)	
			病理学	2 (60)		2 (60)		
	保健医療福祉と医学検査	4	薬理学	1 (15)		1 (15)	5 (120)	
			公衆衛生学	2 (60)	1 (30)	3 (90)		
	医療工学及び情報科学	4	看護学	1 (15)		1 (15)	6 (165)	
			関係法規	1 (15)		1 (15)		
医用生体工学概論			1 (15)		1 (15)			
臨床病態学	6	医用工学概論	2 (60)	1 (30)	3 (90)	6 (180)		
		情報科学概論	1 (30)	1 (30)	2 (60)			
		臨床病理学	2 (60)		2 (60)			
形態検査学	9	臨床病理学演習	1 (30)		1 (30)	9 (270)		
		臨床医学概論	1 (30)		1 (30)			
		臨床医学各論	2 (60)		2 (60)			
		病理組織検査学	1 (30)	2 (60)	3 (90)			
		血液検査学	1 (30)		1 (30)			
		医動物検査学	1 (30)		1 (30)			
		顕微鏡検査学I (血液)		1 (30)	1 (30)			
生物化学分析検査学	11	顕微鏡検査学II (組織・細胞診)		1 (30)	1 (30)	12 (360)		
		顕微鏡検査学III (染色体・尿沈渣)		1 (30)	1 (30)			
		形態検査学系特論	1 (30)		1 (30)			
		化学検査学総論	1 (30)		1 (30)			
		化学検査学各論	5 (150)	2 (60)	7 (210)			
病因・生体防御検査学	10	放射線同位元素検査学	1 (30)		1 (30)	11 (330)		
		遺伝子検査学	1 (30)	1 (30)	2 (60)			
		生物化学分析検査学系特論	1 (30)		1 (30)			
		微生物検査学総論	1 (30)		1 (30)			
		微生物検査学各論	3 (90)	2 (60)	5 (150)			
		免疫検査学	1 (30)	1 (30)	2 (60)			
		輸血移植検査学	1 (30)	1 (30)	2 (60)			
生理機能検査学	9	病因生体防御検査学系特論	1 (30)		1 (30)	9 (270)		
		生理機能検査学I (総論・酸塩基平衡)	1 (30)		1 (30)			
		生理機能検査学II (呼吸)	1 (30)		1 (30)			
		生理機能検査学III (循環)	1 (30)		1 (30)			
		生理機能検査学IV (脳神経)	1 (30)		1 (30)			
		生理機能検査学V (画像検査)	2 (60)		2 (60)			
		生理機能検査学実習		2 (60)	2 (60)			
検査総合管理学	7	生理機能検査学系特論	1 (30)		1 (30)	7 (210)		
		検査運営管理学	1 (30)		1 (30)			
		検査精度管理学	1 (30)		1 (30)			
		検査情報処理学	1 (30)		1 (30)			
		検査機器学I (共通機器)	1 (30)		1 (30)			
		検査機器学II (専門機器)	1 (30)		1 (30)			
		医療科学	1 (30)		1 (30)			
臨床実習	7	検査総合管理学系特論	1 (30)		1 (30)	9 (405)		
		臨床実習I (形態検査)		2 (90)	2 (90)			
		臨床実習II (病因・生体防御検査)		1 (45)	1 (45)			
		臨床実習III (生理機能検査)		3 (135)	3 (135)			
		臨床実習IV (化学検査)		1 (45)	1 (45)			
		臨床実習V (検査総合管理)		1 (45)	1 (45)			
		臨床実習VI (専門実習)		1 (45)	1 (45)			
選択実習	-	研究実習		5 (150)	5 (150)	7 (210)		
		演習		2 (60)	2 (60)			
総単位数	93		72 (1890)	39 (1365)	111 (3255)	111 (3255)		

8) 天理医学技術学校 臨床工学専攻科 (1期生～5期生)
臨床工学専攻科 教育内容と履修単位表

科目		時間数		
		講義	実習	合計
専門基礎医学科目	公衆衛生学	15		15
	医学概論	15		15
	人の構造及び機能	60		60
	病理学概論	45		45
	基礎医学実習		45	45
	臨床生理学	30		30
	臨床生化学	45		45
	臨床免疫学	30		30
	臨床薬理学	30		30
	看護学概論	30		30
専門基礎工学科目	応用数学	45		45
	医用工学概論	30		30
	システム工学	30	45	120
	情報処理工学	45		
	電気工学	75	45	120
	電子工学	75	45	120
	物性工学	45		45
	機械工学	45		45
	材料工学	45		45
	計測工学	60		60
専門科目	医用機器学概論	120		120
	生体機能代行装置学	180	90	270
	医用治療機器学	60	45	105
	生体計測装置学	60	45	105
	医用機器安全管理学	60	45	105
	臨床医学総論	240		240
	関係法規	15		15
	臨床実習		180	180
合計		1530	585	2115

() 内数字：時間数

9) 天理医学技術学校 臨床工学専攻科 (6期生～13期生)
 臨床工学専攻科 教育内容と履修単位表

指定規則		学期					
教育内容	単位数	科目	科目単位数 ()内は時間数			合計	
			講義	実習	合計		
基礎分野	人文科学	1	天理教教義学	1 (15)	1 (45)	2 (60)	2 (60)
専門基礎分野	人体の構造及び機能	6	人体生理学	2 (30)		2 (30)	6 (105)
		人体解剖学	2 (30)		2 (30)		
		病理学概論	1 (15)		1 (15)		
		基礎医学実習		1 (30)	1 (30)		
	臨床工学に必要な医学的基礎	8	医学概論	1 (15)		1 (15)	8 (120)
			関係法規	1 (15)		1 (15)	
			公衆衛生学	1 (15)		1 (15)	
			臨床生理学	1 (15)		1 (15)	
			臨床生化学	1 (15)		1 (15)	
			臨床免疫学	1 (15)		1 (15)	
			臨床薬理学	1 (15)		1 (15)	
			看護学概論	1 (15)		1 (15)	
	臨床工学に必要な理工学的基礎	16	応用数学	2 (30)		2 (30)	16 (270)
			電気工学	5 (75)	1 (30)	6 (105)	
			電子工学	5 (75)	1 (30)	6 (105)	
			機械工学	2 (30)		2 (30)	
臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	7	システム工学	2 (30)			7 (120)	
		情報処理工学	2 (30)	1 (30)	7 (120)		
		医療情報学	2 (30)				
専門分野	医用生体工学	7	医用工学概論	2 (30)		2 (30)	8 (120)
		医用物性工学	2 (30)		2 (30)		
		医用材料工学	2 (30)		2 (30)		
		医用計測工学	2 (30)		2 (30)		
	医用機器学	8	医用機器学概論	2 (30)		2 (30)	10 (180)
			医用治療機器学	2 (30)	1 (30)	3 (60)	
			医用計測機器学	2 (30)	1 (30)	3 (60)	
			医用機器学演習	2 (30)		2 (30)	
	生体機能代行技術学	12	生体機能代行技術学Ⅰ(循環器)	3 (45)			12 (210)
			生体機能代行技術学Ⅱ(呼吸器)	3 (45)	2 (60)	12 (210)	
			生体機能代行技術学Ⅲ(血液浄化)	4 (60)			
	医用安全管理学	5	医用安全管理学	4 (60)	1 (30)	5 (90)	5 (90)
	関連臨床医学	6	臨床内科学Ⅰ(循環器、腎臓)	2 (30)		2 (30)	7 (105)
			臨床内科学Ⅱ(呼吸器)	1 (15)		1 (15)	
			臨床内科学Ⅲ(血液、消化器、内分泌)	2 (30)		2 (30)	
臨床外科学(総論、集中治療、麻酔)			2 (30)		2 (30)		
臨床実習	4	臨床実習Ⅰ(血液浄化業務)		1 (45)	1 (45)	4 (180)	
		臨床実習Ⅱ(人工心肺業務)		1 (45)	1 (45)		
		臨床実習Ⅲ(集中治療、手術室業務)		1 (45)	1 (45)		
		臨床実習Ⅳ(医用機器管理業務)		1 (45)	1 (45)		
総単位数		79		71 (1065)	14 (495)	85 (1560)	85 (1560)



3. 受験生・入学生の変遷

1) 入学試験科目一覧（臨床検査学科）①

年度	期	入学試験科目	備考
S42	1	英語B、物理A、化学B、現代国語及び作文	面接試験、身体検査
S43	2	英語B、物理A、化学B、現代国語	面接試験、身体検査
S44	3	英語B、物理B、化学B、生物、数学（Ⅰ、ⅡB）、現代国語	面接試験、身体検査
S45	4	英語B、物理B、化学B、生物、数学（Ⅰ、ⅡB）、現代国語	面接試験、身体検査
S46	5	英語B、物理B、化学B、現代国語及び作文	面接試験、身体検査
S47	6	英語B、物理B、化学B、現代国語及び作文	面接試験、身体検査、 適性検査
S48	7	英語、物理、化学、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
S49	8	英語、物理、化学、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
S50	9	英語、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
S51	10	英語、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
S52	11	英語A、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、現代国語	面接試験、身体検査
S53	12	英語A、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、数学（Ⅰ）、現代国語	面接試験、身体検査
S54	13	英語、物理、化学、数学、現代国語	面接試験、身体検査
S55	14	英語A、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、数学（Ⅰ）、現代国語	面接試験、身体検査
S56	15	英語、物理、化学、数学、国語	面接試験、身体検査
S57	16	英語、物理、化学、小論文	面接試験、身体検査
S58	17	英語B、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、小論文	面接試験、身体検査
S59	18	英語、物理（Ⅰ）、化学（Ⅰ）、小論文	面接試験、身体検査
S60	19	英語、数学（Ⅰ）、化学、小論文	面接試験、身体検査、 適性検査
S61	20	英語（Ⅰ、Ⅱ）、数学（Ⅰ）、化学、小論文	面接試験、身体検査、 適性検査
S62	21	英語（Ⅰ、Ⅱ）、数学（Ⅰ）、理科（物理・化学・生物のうち2科目選択）、小論文	面接試験、身体検査、 適性検査
S63	22	英語（Ⅰ、Ⅱ）、数学（Ⅰ）、理科（物理・化学・生物のうち2科目選択）、小論文	面接試験、身体検査、 適性検査
H1	23	英語（Ⅰ、Ⅱ）、数学（Ⅰ）、理科（物理・化学・生物のうち2科目選択）、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
H2	24	英語（Ⅰ、Ⅱ）、数学（Ⅰ）、理科（物理・化学・生物のうち2科目選択）、作文	面接試験、身体検査、 適性検査
H3	25	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H4	26	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H5	27	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H6	28	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H7	29	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H8	30	化学、生物、数学（Ⅰ）のうち2科目選択	面接試験、身体検査
H9	31	数学Ⅰ・数学A、物理ⅠB、化学ⅠB、生物ⅠBのうち2科目選択	面接試験、身体検査
H10	32	（推）生物ⅠB、化学ⅠBより1科目選択 （一）英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ・A、化学ⅠB、生物ⅠBのうち2科目選択	面接試験 面接試験
H11	33	（推）生物ⅠB、化学ⅠBより1科目選択、小論文 （一）英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ・A、化学ⅠB、生物ⅠBのうち2科目選択、小論文	面接試験 面接試験
H12	34	（推）生物ⅠB、化学ⅠBより1科目選択、小論文 （一）英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ・A、化学ⅠB、生物ⅠBのうち2科目選択、小論文	面接試験 面接試験
H13	35	（推）生物ⅠB、化学ⅠBより1科目選択、小論文 （一）英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ・A、化学ⅠB、生物ⅠBのうち2科目選択、小論文	面接試験 面接試験

1) 入学試験科目一覧（臨床検査学科）②

年度	期	入学試験科目	備考
H14	36	(推) 生物 I B、化学 I B より 1 科目選択、小論文 (一) 英 I・II、数 I・A、化学 I B、生物 I B のうち 2 科目選択、小論文	面接試験 面接試験
H15	37	(推) 生物 I B、化学 I B、生物・化学より 1 科目選択、小論文 (一) 英 I・II、数 I・A、化学 I B、生物 I B のうち 2 科目選択、小論文	面接試験 面接試験
H16	38	(推) 国語 I・II、数学 I・A、選択科目(生物 I B、化学 I B より 1 科目選択) (一) 国語 I・II、数学 I・A、 選択科目(英語 I・II、生物 I B、化学 I B より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H17	39	(推) 国語 I・II、数学 I・A、選択科目(生物 I B、化学 I B より 1 科目選択) (一) 国語 I・II、数学 I・A、 選択科目(英語 I・II、生物 I B、化学 I B より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H18	40	(推) 国語総合、数学 I、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、数学 I・A、 選択科目(英語 I・II、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H19	41	(推) 国語総合、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、選択科目(数学 I・A、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H20	42	(推) 国語総合、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、選択科目(数学 I・A、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H21	43	(推) 国語総合、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、選択科目(数学 I・A、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H22	44	(推) 国語総合、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、選択科目(数学 I・A、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験
H23	45	(推) 国語総合、選択科目(生物 I、化学 I より 1 科目選択) (一) 国語総合、選択科目(数学 I・A、生物 I、化学 I より 1 科目選択)	面接試験 面接試験

2) 入学試験科目一覧（臨床工学専攻科）

年度	期	入学試験科目	備考
H13	1	物理・数学、小論文	面接試験
H14	2	物理・数学、小論文	面接試験
H15	3	物理・数学、小論文	面接試験
H16	4	物理・数学、小論文	面接試験
H17	5	物理・数学、人体の構造と機能、小論文	面接試験
H18	6	数学、人体の機能と構造、小論文	面接試験
H19	7	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H20	8	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H21	9	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H22	10	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H23	11	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H24	12	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験
H25	13	(推) 内部推薦 (一) 人体の機能と構造、小論文	面接試験 面接試験

3) 受験状況・入学者数一覧 (臨床検査学科)

年度	期	志願者数	受験者数			合格者数			補欠	競争率	入学者数			
			男	女	計	男	女	計			男	女	計	
S42	1	86	43	43	86	19	23	42		2.0	18	20	38	
S43	2	73	30	43	73	12	23	35		2.1	9	22	31	
S44	3	71	28	43	71	11	27	38		1.9	10	25	35	
S45	4	51	23	26	49	13	21	34		1.4	12	20	32	
S46	5	74	28	42	70	9	28	37		1.9	8	28	36	
S47	6	69	27	32	59	14	26	40		1.5	12	25	37	
S48	7	75	21	43	64	8	35	43		1.5	8	22	30	
S49	8	89	32	48	80	7	33	40		2.0	6	30	36	
S50	9	110	46	55	101	12	29	41		2.5	11	23	34	
S51	10	156	61	71	132	10	32	42		3.1	8	26	34	
S52	11	177	85	73	158	13	31	44		3.6	9	30	39	
S53	12	203	107	73	180	17	24	41		4.4	13	17	30	
S54	13	177	96	57	153	13	29	42		3.6	10	25	35	
S55	14	116	45	56	101	14	26	40		2.5	11	22	33	
S56	15	101	39	45	84	13	24	37		2.3	13	20	33	
S57	16	107	46	47	93	13	27	40		2.3	10	17	27	
S58	17	104	53	44	97	12	28	40		2.4	8	25	33	
S59	18	130	56	66	122	12	30	42		2.9	8	16	24	
S60	19	98	37	50	87	13	28	41		2.1	11	19	30	
S61	20	131	26	77	103	6	34	40		2.6	3	22	25	
S62	21	113	33	75	108	6	34	40		2.7	3	22	25	
S63	22	95	24	63	87	7	36	43		2.0	4	24	28	
H1	23	74	22	50	72	8	29	37		1.9	6	21	27	
H2	24	53	17	32	49	8	27	35		1.4	4	17	21	
H3	25	① 154 ② 54	45 27	105 21	150 48	7 1	32 10	39 11		3.8 4.4	6 1	15 9	21 10	
H4	26	① 153 ② 49	50 17	100 25	150 42	8 1	31 9	39 10		3.8 4.2	6 1	18 8	24 9	
H5	27	① 99 ② 55	34 14	63 33	97 47	5 1	27 8	32 9		3.0 5.2	5 1	21 6	26 7	
H6	28	① 117 ② 40	49 14	67 23	116 37	17 2	21 5	38 7		3.1 5.3	15 2	13 4	28 6	
H7	29	① 130 ② 42	38 14	90 25	128 39	8 1	31 5	39 6		3.3 6.5	6 1	28 4	34 5	
H8	30	① 141 ② 54	47 16	88 26	135 42	14 2	24 4	38 6		3.6 7.0	12 2	22 3	34 5	
H9	31	① 86 ② 29 推	33 10 4	49 16 15	82 26 19	15 3 2	21 5 9	36 8 11		2.3 3.3 1.7	14 3 2	18 4 9	32 7 11	
H10	32	推	20	4	15	19	2	9	11		2.3	9	12	21
H11	33	推	69	29	40	69	11	19	30		2.0	7	5	12
H12	34	推	25	12	12	24	7	5	12		2.1	3	16	19
H13	35	推	56	18	36	54	5	21	26		1.9	2	10	12
H14	36	推	23	8	15	23	2	10	12		2.4	3	14	17
H15	37	推	53	15	33	48	2	18	20	2	1.9	7	8	15
H16	38	推	31	14	17	31	7	9	16	3	2.5	2	11	13
H17	39	推	49	17	28	45	3	15	18		1.6	7	7	14
H18	40	推	23	11	12	23	7	7	14	1	2.5	3	16	19
H19	41	推	65	19	38	57	3	20	23	2	1.7	9	9	18
H20	42	推	30	14	16	30	9	9	18		3.8	4	5	9
H21	43	推	59	29	28	57	5	10	15	5	2.2	9	6	15
H22	44	推	33	19	14	33	9	6	15	4	3.3	5	8	13
H23	45	推	56	24	29	53	8	8	16	6	2.4	9	7	16
H24	46	推	39	23	16	39	9	7	16		3.1	7	7	14
H25	47	推	54	29	21	50	8	8	16	2	2.0	8	7	15
H26	48	推	32	16	14	30	8	7	15	5	2.7	8	2	10
H27	49	推	40	24	16	40	8	7	15		1.4	6	11	17
H28	50	推	24	10	14	24	6	11	17	2	2.2	3	9	12
H29	51	推	33	18	15	33	5	10	15		1.5	7	7	14
H30	52	推	21	10	11	21	7	7	14	3	1.5	9	7	16
H31	53	推	28	15	13	28	10	9	19	1	5.0	2	0	2
H32	54	推	11	6	4	10	2	0	2		1.6	7	7	14
H33	55	推	22	13	9	22	7	7	14	4	2.7	5	8	13
H34	56	推	41	20	21	41	6	9	15	2	5.5	0	2	2
H35	57	推	11	5	6	11	0	2	2		2.4	3	6	9
H36	58	推	22	11	11	22	3	6	9	5	3.1	7	8	15
H37	59	推	47	27	19	46	7	8	15		2.0	8	4	12
H38	60	推	24	13	11	24	8	4	12	3	4.3	5	9	14
H39	61	推	60	28	32	60	5	9	14					
		4837	1934	2551	4485	534	1194	1728	48		456	948	1404	

4) 受験状況・入学者数一覧(臨床工学専攻科)

年度	期	志願者数	受験者数			合格者数			補欠	競争率	入学者数		
			男	女	計	男	女	計			男	女	計
H13	1	9	7	2	9	5	1	6	1	1.5	5	1	6
H14	2	11	7	4	11	3	4	7		1.6	3	3	6
H15	3	17	7	9	16	1	9	10		1.6	0	9	9
H16	4	9	5	4	9	4	1	5	1	1.8	4	1	5
H17	5	9	7	2	9	4	2	6		1.5	4	2	6
H18	6	8	6	2	8	4	2	6		1.3	4	1	5
H19	7	推7 -6	3	4	7	3	4	7	1	1.0	3	4	7
H20	8	推7 -6	6	0	6	1	0	1		6.0	1	0	1
H21	9	推7 -6	5	3	8	3	3	6		1.3	3	3	6
H22	10	推6 -6	5	0	5	1	0	1		5.0	1	0	1
H23	11	推6 -6	4	2	6	4	2	6		1.0	4	1	5
H24	12	推6 -6	4	2	6	2	1	3		2.0	2	1	3
H24	13	推6 -2	4	2	6	4	2	6		1.0	4	2	6
			4	2	6	1	2	3		2.0	1	2	3
		140	91	47	138	57	42	99	3		56	39	95

5) 入学検定料・入学金・授業料・実習費一覧(臨床検査学科)

年度	期	入学検定料	入学金	授業料	実習費
S42～S43	1～2	1,500円	10,000円	30,000円	
S44	3	2,000	10,000	30,000	
S45～S49	4～8	3,000	10,000	30,000	
S50	9	5,000	10,000	30,000	
S51～S52	10～11	5,000	20,000	50,000	
S53～S55	12～14	10,000	50,000	100,000	
S56～S60	15～19	10,000	100,000	200,000	
S61	20	12,000	100,000	200,000	
S62～H1	21～23	12,000	100,000	200,000	200,000円
H2～H3	24～25	15,000	103,000	200,000	200,000
H4	26	15,000	100,000	200,000	200,000
H5～H10	27～32	20,000	200,000	300,000	300,000
H11～H23	33～45	15,000	150,000	300,000	300,000

6) 入学検定料・入学金・授業料・実習費一覧(臨床工学専攻科)

年度	期	入学検定料	入学金	授業料	実習費
H13～S19	1～7	15,000円	100,000円 (本校卒業又は見込者は50,000円)	350,000円	350,000円
H20～S25	8～13	15,000円	150,000円 (本校卒業又は見込者は70,000円)	350,000円	350,000円

4. 科目別歴代講師一覧

1) 臨床検査学科 1期生から33期生まで

基礎科目

科目名	担当講師名
人文・社会科学	丸山良治、堀尾治代、岡田康伸、松田健三郎、森岡正芳、島山平三、千原雅代、田中 穰、南川諦弘、菅野英機、寺田友子、小田 健、山田光二
数学	東 正弘
物理学	東 正弘
化学	村上和雄、竹田妙子、平井山起子、喜多村昭子、上田慶子、島本雅子、芝田陽子
生物学	平岩公男、大上静子、山本利雄、喜多村昭子、宮西節子
情報科学概論	東 正弘、梅園千明、萬砂秀雄、長谷川正行、岡山幸成
英語	木村達夫、喜多村康二、羽白 清、高橋 浩、岡村一弘、井上裕二、市村輝義、山下純子、松下陽子
独語	三好成美、坂口尚史、中川義英
保健体育	林 正邦、湯浅 晃、藤井主計、小椋 博、森井博之
天理教教義学	中島秀夫、芹沢 茂、宮田 元、矢持辰三、西山輝夫、岡本久長、山本正義、金子圭介、佐治隆則、伊橋房和、渋谷陽一、荒木健夫、塩谷 悟、事情部講師

基礎専門科目

科目名	担当講師名
医学概論	飯田照明、高橋 浩、市村輝義、奥村秀弘
公衆衛生学	南森正友、荒地英明、近藤雄二、氏平高敏、喜多村昭子
臨床病理学総論	高橋 浩、大野博之、佐藤智城、谷口万里、岡村一弘、野村信丞、高橋泰生、左野 明、松田信義、井上裕二、松尾収二
臨床医学総論	松尾収二、浅野 博
臨床検査総論	高橋 浩、桐林憲治、喜多村昭子、市村輝義、木田光雄
検査管理総論	山中 享、山本慶和、市村輝義
検査機器総論	市村輝義、杉邑芳樹、藤本一満
関係法規	武谷比古根、佐治隆則、栢植恭平、市村輝義、廣達弥
解剖組織学	三宅健夫、山本泰猛、山辺博彦、益子尚彦、藤堂章男、沢田英夫、稲田満夫、大石雅己、井上 昇、市島国雄、木田光雄、木幸英明
生理学	高山英世、楠川礼造、松原恒雄、岡村一博、野村信丞、益子尚彦、藤堂章男、沢田英夫、稲田満夫、大石雅己、井上 昇、梶間清隆、木田光雄、市村輝義
生化学	竹田妙子、大津英二、佐藤智城、上田慶子、島本雅子、喜多村昭子
病理学	沢田真治、山辺博彦、市島国雄、小橋陽一郎、岩本宏文
実験動物学	平岩公男、山辺博彦、市島国雄、笠倉和之、梶間清隆
医動物学	沢田真治、山本利雄、山内康平、岩本宏文
微生物学	小松 方、島川宏一、樫葉周三

臨床専門科目

科目名	担当講師名
臨床生理学	高山英世、楠川礼造、松原恒雄、山中 享、西沢理夫、岡村一博、益子尚彦、稲田満夫、藤堂章男、沢田英夫、大石雅己、井上 昇、小木幸人、増田喜一、西 健裕、土居忠文、市村輝義、木田光雄、加藤 晃、原田 穰、高橋元代、高橋秀一、岡山幸成、岡 弘、杉邑芳樹、山下宗人
臨床化学	高橋 浩、喜多村昭子、島本雅子、上田慶子、市村輝義、三根たまよ、芝田陽子、岩谷一雄、山本慶和、瀧本順三郎、猪田猛久、畑中徳子、藤本一満
臨床血液学	松田信義、高橋 浩、前川芳明、氏家静代、井上裕二、松尾収二、平山好美、大峠和彦、津田勝代
臨床免疫学	松田信義、西 清子、宮西節子、森本武次、木寺英明
臨床微生物学	小林 裕、渡辺昌平、金田吉男、相原雅典、山内康平、西尾利一、岡田雅幸、上原明彦、島川宏一、嶋田昌司、小松 方
ウイルス学	丹治 王、西 清子、森本武次、喜多村昭子
病理組織学	岩本宏文
細胞診	滝沢 清、大橋 功、木下康枝、鴻池資啓
医用工学概論	東 正弘、瀬川義朗
R I 検査技術学	稲田満夫、中崎利彦、佐藤紘一、石原 明、比嘉敏明

2) 臨床検査学科 34期生から40期生まで

基礎科目

科目名	担当講師名
分析化学	上田慶子
物理化学	亘 弘
生物学	喜多村昭子、宮西節子
天理教教義学	荒木健夫、伊橋房和、塩谷 悟、河村喜寛、木寺英明、前川ふみよ、瀧本順三郎
宗教学概説	東馬場郁生
心理学	千原雅代、高森淳一、中出英子、金子榮美
哲学	松田健三郎
社会学	喜多村昭子
文化人類学	住原則也
人権教育論	山田光二
法学	小田 健
医療社会学	市村輝義
外国語	宮西節子、松下陽子
保健体育	森井博之、伊藤 淳

専門基礎分野

科目名	担当講師名
人体解剖学	木寺英明
人体生理学	市村輝義
生化学	上田慶子
臨床検査学総論	市村輝義
病理学	小野喜雄、本庄 原、安田正利
薬理学	山本育由
公衆衛生学	喜多村昭子、後藤きよみ
看護学	大田容子
関係法規	市村輝義
医学生体工学概論	杉邑芳樹
医用工学概論	東 正弘、瀬川義朗、曾山奉教
情報科学概論	長谷川正行、藤本一満、杉邑芳樹

専門分野

科目名	担当講師名
臨床病理学	松尾収二、大峠和彦、山本慶和
臨床医学	浅野 博
病理組織検査学	岩本宏文、木下康枝、木寺英明
血液検査学	前川芳明、津田勝代、前川ふみよ
医動物検査学	岩本宏文、喜多村昭子、前川ふみよ
顕微鏡検査学	喜多村昭子、木下康枝、鴻池資啓、木寺英明、山崎善夫、前川芳明、土屋直道、杉邑芳樹、前川ふみよ、原嶋一幸、岸森千幸、松田江身子
画像診断検査学	亘 弘、高橋秀一、山下宗人、後藤きよみ、植田隆史
化学検査学	藤本一満、山本慶和、猪山猛久、嶋田昌司、瀧本順三郎、津田勝代、畑中徳子、下村大樹、杉村充子、費用充宏
RI検査技術学	石原 明、佐藤絃市、比嘉敏明、御前 隆
遺伝子検査学	藤本一満、前川ふみよ、竹岡加陽
微生物検査学	小松 方、島川宏一、森本武次、岩崎瑞穂、河野 久、浅野 博
免疫検査学	木寺英明
輸血移植検査学	森本武次、前川ふみよ、林田雅彦、木寺英明
生体機能検査学	市村輝義、山中 亨、岡山幸成、原田 讓、高橋秀一、杉邑芳樹、田崎昭夫、山下宗人、後藤きよみ、小林昌弘
検体機能検査学	藤本一満
検査運営管理学	山中 亨
検査精度管理学	山本慶和
検査情報処理学	長谷川正行
検査機器学	藤本一満、杉邑芳樹、瀧本順三郎、曾山奉教
医療科学	市村輝義、小吹孝二、渡邊 彰

3) 臨床検査学科 41期生から45期生(閉校)まで

基礎分野

科目名	担当講師名
化学Ⅰ	上田慶子、瀧本順三郎
化学Ⅱ	松田治和、上田慶子
生物学	宮西節子、福塚勝弘
天理教教義学	荒木健夫、伊橋房和、河村喜寛、木寺英明、瀧本順三郎、青木健裕、山中修吾、荒川善廣
天理教教義学実習	瀧本順三郎
宗教学	東馬場郁生
心理学	金子栄美
哲学	松田健三郎
文化人類学	住原則也
人権教育論	河村喜寛
医療社会学	市村輝義、渡辺 彰、前川ふみよ、後藤きよみ、福井清三、森岡正彦、久保良輔、宮崎 歩、上村繁則、前川彰彦
外国語	宮西節子、松下陽子
保健体育	森井博之、伊藤 淳、難波真理

専門基礎分野

科目名	担当講師名
人体解剖学	木寺英明
人体生理学	曾山奉教
生化学	上田慶子
臨床検査学総論	市村輝義、木寺英明
病理学	小野真雄、本庄 原、安田正利、今井教嗣、坂本真一、山崎貴之
薬理学	山本育由、上田晴明
公衆衛生学	後藤きよみ
公衆衛生学実習	後藤きよみ、上田慶子
看護学	大田容子
関係法規	上田慶子
医用生体工学概論	杉邑芳樹
医用工学概論	曾山奉教
情報科学概論	長谷川正行、杉邑芳樹
情報科学概論実習	杉邑芳樹

専門分野

科目名	担当講師名
臨床病理学	松尾取二、大崎和彦、山本慶和
臨床病理学演習	松尾取二、山本慶和
臨床医学	浅野 博、松尾取二、山本慶和、中村文彦
病理組織検査学	木寺英明
血液検査学	前川ふみよ
医動物検査学	前川ふみよ
顕微鏡検査学Ⅰ	津田勝代、上屋直道、前川ふみよ、岸森千幸
顕微鏡検査学Ⅱ	鴻池資啓、木寺英明、山崎善夫
顕微鏡検査学Ⅲ	前川ふみよ、後藤きよみ
形態検査学系特論	木寺英明、前川ふみよ、後藤きよみ
化学検査学総論	猪田猛久
化学検査学各論	嶋田昌司、瀧本順三郎、津田勝代、畑中徳子、下村大樹、杉村充子、豊田充宏、倉村英二
放射性同位元素検査学	御前 隆
遺伝子検査学	前川ふみよ、竹園加陽
生物化学検査学系特論	上田慶子、瀧本順三郎
微生物検査学総論	浅野 博、河野 久、中村彰宏
微生物検査学各論	福田砂織、阿部教行、河野 久
微生物検査学各論実習	上田慶子、福田砂織、阿部教行、中村彰宏
免疫検査学	木寺英明、諸井ひろみ
輸血移植検査学	森本武次、前川ふみよ、林田雅彦、木寺英明、諸井ひろみ
病因生体防御検査学系特論	木寺英明、前川ふみよ、諸井ひろみ
生理機能検査学Ⅰ	杉邑芳樹
生理機能検査学Ⅱ	杉邑芳樹
生理機能検査学Ⅲ	田崎昭夫
生理機能検査学Ⅳ	小林昌弘
生理機能検査学Ⅴ	後藤きよみ、植田隆史、口浦之和、錦 成郎
生理機能検査学実習	田崎昭夫、杉邑芳樹、後藤きよみ、小林昌弘、諸井ひろみ
生理機能検査学特論	田崎昭夫、杉邑芳樹、後藤きよみ、諸井ひろみ
検査運営管理学	山中 亨
検査精度管理学	山本慶和
検査情報処理学	長谷川正行
検査機器学Ⅰ	瀧本順三郎、曾山奉教
検査機器学Ⅱ	瀧本順三郎、後藤きよみ
医療科学	渡邊 彰、山本慶和、松尾取二、山本智恵美、中川美穂、北川孝道、柴田正慶、伊東裕之、南 睦、嶋田昌司、中村彰宏、畑中徳子、脇本理栄子、高田章美、木下真紀、松谷勇人、福田篤久、岡山幸成、永井直治、池内和代
検査総合管理学系特論	後藤きよみ、曾山奉教、前川ふみよ

4) 臨床工学専攻科 1期生から5期生まで

基礎科目

科目名	担当講師名
天理教教義学	木寺英明、前川ふみよ

専門基礎医学科目

科目名	担当講師名
臨床生化学	上田慶子
基礎医学実習	木寺英明
臨床免疫学	木寺英明
臨床薬理学	山本育由
看護学概論	大田容子
病理学	本庄 原

専門基礎工学科目

科目名	担当講師名
応用数学	田端敬昌
医用工学概論	杉邑芳樹
システム工学	上田勝彦
情報処理工学	上田勝彦
電気工学	奥田昌宏、東正弘、瀬川義朗
電子工学	奥田昌宏、東正弘、瀬川義朗
物性工学	亘 弘
機械工学	山本英毅、酒井史敏
材料工学	田崎昭夫
計測工学	杉邑芳樹

専門科目

科目名	担当講師名
医用機器学概論	津田 淳、田崎昭夫、杉邑芳樹
生体機能代行装置学	田崎昭夫、杉邑芳樹、木田光雄、吉田秀人、津田 淳
医用治療機器学	杉邑芳樹、藤本伸泰
医用機器安全管理学	吉田秀人
臨床医学総論	奥村和弘、奥村紀子、種田和清、熊野穂高、小西 孝、日村好宏、 高橋清一、中村義徳、松尾取二、松山克彦、松村正彦、石戸谷哲、岩倉 篤、 吉村真一郎、沖波 武
関係法規	市村輝義
臨床実習(指導教員)	吉田秀人、小林靖雄、藤本伸泰、津田 淳

5) 臨床工学専攻科 6期生から13期生(閉校)まで

基礎分野

科目名	担当講師名
天理教教義学	澁本順三郎

専門基礎分野

科目名	担当講師名
関係法規	市村輝義、杉邑芳樹
臨床薬理学	山本育山、上田睦明
看護学概論	大田容子
応用数学	山端敬昌
電気工学	奥田昌宏、上田勝彦
電子工学	奥田昌宏、上田勝彦
電子工学実習	瀬川義朗、杉邑芳樹、曾山奉教
機械工学	酒井史敏
システム工学	上田勝彦
情報処理工学	上田勝彦

専門分野

科目名	担当講師名
医用工学概論	杉邑芳樹
医用物性工学	豆 弘、曾山奉教
医用材料工学	田崎昭夫、松田治和
医用計測工学	杉邑芳樹
医用計測機器学(実習含む)	杉邑芳樹、田崎昭夫、後藤きよみ
臨床生理学	杉邑芳樹
臨床免疫学	木寺英明
基礎医学実習	杉邑芳樹、木寺英明
医療情報学(実習含む)	杉邑芳樹
医用機器学概論	田崎昭夫、杉邑芳樹
医用機器学演習	田崎昭夫、杉邑芳樹
医用治療機器学	杉邑芳樹、藤本伸泰
医用治療機器学実習	杉邑芳樹、田崎昭夫、曾山奉教
生体機能代行技術学(実習含む)	田崎昭夫、杉邑芳樹、津田 淳、吉田秀人
医用安全管理学(実習含む)	曾山奉教、田崎昭夫
臨床医学内科学	植田和清、金子嘉志、奥村紀子、依馬弘忠、高橋清一、吉村真一郎、小西 孝、 日村好宏、中川義久、泉 知里、近藤博和
臨床外科学	中村茂徳、前谷俊三、熊野穂高、西田隆也、岩倉 篤、仁科 健、柴崎 昇、 川西博晃
臨床実習(指導教員)	吉田秀人、小林靖雄、藤本伸泰、津田 淳

5. 国家試験合格者数一覽

1) 臨床検査科

期	実施年月(回)	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
1	S44.10(14)	34	33	26	78.8	51.2
2	S45.10(16)	30	30	29	96.7	57.7
3	S46.3(17)	30	30	22	73.3	69.6
4	S47.3(19)	34	34	33	97.1	79.0
5	S48.3(21)	35	35	34	97.1	75.8
6	S49.3(23)	37	37	31	83.8	85.6
7	S51.3(臨10)	28	28	27	96.4	50.0
8	S52.3(臨12)	33	33	31	93.9	53.1
9	S53.3(臨14)	34	34	32	94.1	56.2
10	S54.3(臨16)	28	28	28	100	70.0
11	S55.3(臨18)	40	40	28	70.0	50.0
12	S56.3(臨20)	27	27	23	85.2	44.8
13	S57.3(臨22)	31	31	31	100	60.8
14	S58.3(臨24)	30	30	28	93.3	50.0
15	S59.3(臨26)	27	27	21	77.8	55.3
16	S60.3(臨28)	27	27	22	81.5	52.4
17	S61.3(臨30)	29	29	29	100	57.5
18	S62.3(臨32)	23	23	23	100	55.8
19	S63.3(臨34)	27	27	27	100	49.4
20	H01.3(臨35)	22	22	22	100	51.5
21	H02.3(臨36)	24	24	24	100	61.0
22	H03.3(臨37)	25	25	24	96.0	57.5
23	H04.3(臨38)	24	24	24	100	59.6
24	H05.3(臨39)	17	17	17	100	63.0
25	H06.3(臨40)	29	29	28	96.6	66.1
26	H07.3(臨41)	31	31	31	100	70.9
27	H08.3(臨42)	29	29	29	100	74.2
28	H09.3(臨43)	27	27	26	96.3	63.3
29	H10.3(臨44)	37	37	37	100	71.0
30	H11.3(臨45)	32	32	32	100	76.6
31	H12.3(臨46)	31	31	30	96.8	75.0
32	H13.3(臨47)	32	32	31	96.9	69.4
33	H14.3(臨48)	30	30	29	96.7	68.0
34	H15.3(臨49)	27	27	21	77.8	56.2
35	H16.3(臨50)	27	30	30	100	79.0
36	H17.3(臨51)	29	30	29	96.7	75.2
37	H18.3(臨52)	26	26	24	92.3	72.9
38	H19.3(臨53)	25	25	25	100	74.7
39	H20.2(臨54)	25	25	25	100	73.7
40	H21.2(臨55)	24	24	24	100	71.8
41	H22.2(臨56)	27	27	27	100	67.8
42	H23.2(臨57)	25	25	25	100	67.0
43	H24.2(臨58)	28	28	28	100	75.4
44	H25.2(臨59)	25	25	25	100	77.2
45	H26.2(臨60)	25	25	25	100	81.2

2) 臨床工学専攻科

期	実施年月(回)	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
1	H14.3(15)	6	6	6	100	83.6
2	H15.3(16)	6	6	6	100	85.2
3	H16.3(17)	9	9	9	100	87.5
4	H17.3(18)	5	5	5	100	84.8
5	H18.3(19)	6	6	6	100	83.7
6	H19.3(20)	5	5	5	100	84.9
7	H20.3(21)	8	8	8	100	83.1
8	H21.3(22)	7	7	7	100	79.5
9	H22.3(23)	8	8	8	100	81.4
10	H23.3(24)	9	9	9	100	77.4
11	H24.3(25)	9	9	9	100	75.5
12	H25.3(26)	8	8	8	100	75.3
13	H26.3(27)	9	9	9	100	78.8

6. 卒業生の変遷

1) 卒業生数一覧

(1) 臨床検査学科

期	男	女	計
1	15	19	34
2	9	21	30
3	9	24	33
4	10	21	31
5	8	27	35
6	13	24	37
7	7	21	28
8	4	29	33
9	11	23	34
10	6	22	28
11	9	31	40
12	11	16	27
13	10	21	31
14	7	23	30
15	12	15	27
16	10	17	27
17	7	22	29
18	8	15	23
19	9	18	27
20	3	19	22
21	3	21	24
22	3	22	25
23	5	19	24
24	2	15	17
25	7	22	29
26	8	23	31
27	4	25	29
28	12	15	27
29	5	32	37
30	12	21	33
31	12	19	31
32	11	21	32
33	10	20	30
34	5	22	27
35	10	17	27
36	9	20	29
37	14	12	26
38	13	12	25
39	12	13	25
40	15	9	24
41	9	18	27
42	12	13	25
43	13	15	28
44	10	15	25
45	13	12	25
合計	407	881	1288

(2) 臨床工学専攻科

期	男	女	計
1	5	1	6
2	3	3	6
3	0	9	9
4	4	1	5
5	4	2	6
6	4	1	5
7	4	4	8
8	4	3	7
9	6	2	8
10	5	4	9
11	7	2	9
12	4	4	8
13	5	4	9
合計	55	40	95

2) 臨床検査学科 進学者数一覧

年度(期)	本校専攻科	大学編入学 ()内は編入大学名	その他
H12(32)	3	1 (大阪大学)	1
H13(33)	3	0	1
H14(34)	6	0	1
H15(35)	3	0	0
H16(36)	4	1 (神戸大学)	0
H17(37)	3	1 (神戸大学)	0
H18(38)	7	2 (大阪大学) (神戸大学)	0
H19(39)	7	1 (神戸大学)	0
H20(40)	7	0	0
H21(41)	6	0	0
H22(42)	9	0	0
H23(43)	8	0	0
H24(44)	9	0	0
H25(45)	0	0	2
合計	75	6	5

(平成12年度以降)

3) 卒業記念品一覧(答辞・送辞者) 臨床検査学科

期	卒業年月日	記念品	代表者	答辞	送辞
1	S.44.9.20	記念樹 2本、記念鏡 1台	大崎 和恵	村上 治	市村 輝義
2	S.45.9.20	記念樹 2本、記念絵画 1幅	吉木 健治	切 美子	芝崎 定男
3	S.46.3.24	赤燗焼き花瓶 1鉢	石原 明	石持 益江	山本 慶和
4	S.47.3.21	記念樹 2本、幻燈機 1台	竹上 恵	内田 有紀	西 健裕
5	S.48.3.20	食器棚 1台	鎌松 千鶴	相ヶ瀬 孝	中上 道治
6	S.48.3.20	幻燈機 1台	久保田理彦	田中みのり	安田 正利
7	S.51.3.19	ウォータークーラー 1台	田中 茂	露江 好江	富沢 雅治
8	S.52.3.19	ディープリフリーザー 1台	土居 忠文	佐々木さと	瀧池 資啓
9	S.53.3.18	図書 1式	木寺 英明	芝田 陽子	今井 教嗣
10	S.54.3.20	電動タイプライター IBM モデル 895 型 1台	大久保 徹	佐藤三千代	唐木 幹次
11	S.55.3.19	キャンプ用テント 2張、紅白幕 20間分	河野 久	藤原美智子	田中 教雄
12	S.56.3.20	キャンプ用テント 2張、集合用テント 1張	藤本 一満	橋森 茂美	吉田 秀人
13	S.57.3.20	キャンプ用テント 2張	野村 和子	長谷川正行	上原 直道
14	S.58.3.19	ビデオ装置 1式	西尾 久明	近藤 敏江	大西 博之
15	S.59.3.19	遊園	岸 正幸	加藤美千代	尾崎 俊也
16	S.60.3.20	複写機 1台	小出 泰志	松下 陽子	藤 慎二
17	S.61.3.15	キャンプ用テント 1張、集合用テント 1張	小松 正志	藤原しのぶ	小林 靖雄
18	S.62.3.20	応接セット 1式、柱時計 1台、保管庫 1台	幸田 晴康	龍木 三佳	清水 俊宏
19	S.63.3.19	収納庫 2基	渡辺 周吾	竹岡 加陽	大谷 正伸
20	H.1.3.20	複写機 1台	大谷 正伸	前田 朋代	嶋山 昌司
21	H.2.3.20	ロビーチェア 1式、会議用テーブル 1台	前川ふみよ	嶋山 昌司	田中敬一郎
22	H.3.3.19	ワイヤレス、アンプ等 1式	豊田 一宏	岡本 純子	小松 方
23	H.4.3.19	拡大プリンター 1台	夏秋 知佳	小松 方	柳田 裕起
24	H.5.3.16	プリセットキーカード 1式	富岡 万理	中川 美穂	下元 勝彦
25	H.6.3.15	複写機 1台	山田ちとせ	小倉 登	中島 政司
26	H.7.3.15	パネル写真 6点	下村 大樹	橋本 ゆみ	小林 昌弘
27	H.8.3.15	ホールロック 1台	大谷 直英	小林 昌弘	山本 将毅
28	H.9.3.15	新校舎竣工記念碑 1基	山本 将毅	福田 砂織	武井 哲也
29	H.10.3.14	校章銘板 1基	武井 哲也	杉山 佳代	曾山 泰教
30	H.11.3.13	絵画 1点	山下 朋子	佐々木新介	秋田 博之
31	H.12.3.13	マルチメディア医学解剖ソフト 1式、PC 1台	松村 充子	秋田 博之	阿部 教行
32	H.13.3.13	テレビ録画 1台、オーディオビデオレコーダー 1台	大上 知子	中沢 務	井手 大輔
33	H.14.3.13	紫帽 花台 1台	奥田 陽子		中村 彰宏
34	H.15.3.13	DVD デジタルビデオカメラ 1台	鬼村 道子	川 直子	白土慎一郎
35	H.16.3.8	学生ホール用応接セット 1式	廣居 睦美	白土慎一郎	藤北 克彦
36	H.17.3.8	液晶プロジェクター 1台	藤原知佳子	藤井 恵理	丸沢 雄佑
37	H.18.3.10	ポータブルアンプ 1台	松谷 勇人	山崎 貴之	吉岡 明治
38	H.19.3.10	応接センターテーブル 2台	吉岡 明治	潮崎 裕也	松下 隆史
39	H.20.3.10	パーソナルコンピュータ 2台	石川 豊	横田準一郎	山本利二郎
40	H.21.3.10	応接セット 1式	川邊 晴樹	八木美智子	龍川 宣郎
41	H.22.3.10	会議用テーブル 1台、椅子 8脚	勝田 唯	龍神 翔太	堂山 真由
42	H.23.3.10	会議用テーブル 1台、椅子 8脚	荒井 優佳	清水 一茂	大谷 祐哉
43	H.24.3.9	会議用テーブル 2台、椅子 6脚	山本 早希	橋山 周	楠本 奈央
44	H.25.3.7	屋外時計 1式	松岡 直子	磯脇 志舞	黒田 教太
45	H.26.3.7	屋外ベンチ 5台	高橋 陸	高田 旬生	

4) 卒業記念品一覧(答辞・送辞者) 臨床工学専攻科

期	卒業年月日	記念品	代表者	答辞	送辞
1	H.14.3.13	PC用カラープリンター 1台、PC用スキャナー 1台	河野 佑一	曾山 泰教	
2	H.15.3.13	スタンド式スクリーン 1台	木村 優友		
3	H.16.3.8	インクジェット複合機 1台	高橋 清香		
4	H.17.3.8	体外循環シミュレーター 1式	三島 拓士		
5	H.18.3.10	ワイヤレスマイクホン 1本	神谷 真知子		
6	H.19.3.10	コンパクト両面カラーレックスキャナー	杉村 宗典		
7	H.20.3.10	パソコン用プリンター 2台	長岡 俊治		
8	H.21.3.10	プリンター 1台	武藤 淳平		
9	H.22.3.10	応接セット 1式	吉田 諭		
10	H.23.3.10	応接セット 1式	向井 菜津実		
11	H.24.3.9	プリンター 1台、タブレット型コンピュータ 1台	清水 一茂		
12	H.25.3.7	タブレット型コンピュータ 1台、プリンター 1台	山本 早希		
13	H.26.3.7	屋外ベンチ 5台	清水 貞則		

7. 就職の変遷と現状

1) 臨床検査学科 卒業時就職先都道府県一覧①

県名	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期	23期	
北海道									1		1								1		1			
東北	青森											1												
	秋田																							
	岩手																							
	福島																							
関東	茨城													1						1				
	東京					2		1							1	1	1				1	2		
	千葉	1	2	2																			1	
	山梨									1														
信州・北陸・東海	神奈川																							
	群馬																							
	栃木																							
	長野		1			1				1	2													
	石川										1	1			1									
	福井							2								1	1							
	岐阜	1							1	1								1		1				
	静岡		2	2							2	2										1	1	
	愛知			1	1			1	2	1	1	3								1				
	三重		2				1				1			3				1		1	1		1	1
近畿	滋賀	1					1		1	1		1	1	2			3	1	1		1	1	1	
	京都	2			1	3		1	3		1		2	2	1	2	4	2	1	4	2		1	
	大阪	3	3	2	5	5	3	3	5	3	2	8	4	4	6	6	10	7	8	6	6	7	8	6
	兵庫	2	1	1		1	1				1	1			1					1		2		
	奈良	1	3	1	1	1	1	1	2	4	2	6	4	6	5	6	4	3	6	7	4	2	3	2
	塾の家	19	15	18	21	23	26	19	16	17	18	12	10	13	13	10	4	3	4	6	4	4	3	4
	和歌山				1																		1	2
中国・四国	鳥取							1																
	鳥根			1																			1	
	岡山			1	1	1	2	1		1		1	1			1	1			1	1	1		
	広島											1			1		2					1	1	
	山口	1													1					1				
	香川								2													1		
	愛媛							1	1		1	1				1	1		1		1		1	
九州	徳島																							
	高知															1								
	福岡			3																			1	
	長崎					1																	1	
	熊本												1											
	鹿児島								1															
大分																						1		
沖縄								1																
コンゴ	1																							
計	32	29	32	31	35	37	27	33	34	28	39	27	30	30	27	25	28	21	28	21	24	24	22	

臨床検査学科 卒業時就職先都道府県一覧②

	県名	24期	25期	26期	27期	28期	29期	30期	31期	32期	33期	34期	35期	36期	37期	38期	39期	40期	41期	42期	43期	44期	45期	計		
	北海道													1										5		
東北	青森																							1		
	秋田																				1				1	
	岩手						1																		1	
	福島																1								1	
関東	茨城																								2	
	東京		1				2								1									3	16	
	千葉														1										7	
	山梨																	1							2	
	神奈川					1					1														2	
信州・北陸・東海	群馬				1																				1	
	栃木																		1						1	
	長野																								5	
	石川		1																						4	
	福井		1	1			2													1					9	
	岐阜		1		1	1			1																9	
	静岡		1	1	3			1					1				1					1			19	
	愛知						1				1				1				1					1	16	
	三重			1	2	2	1	2			1	1						1							23	
	近畿	滋賀			1	1	1		2		1	1		1	2			1	1		1	1				30
京都		1	1	3	2	3	3	5	5	6	6	2	11	7	5	7	2	6	5	2	5	2	1		122	
大阪		2	4	4	8	8	13	3	5	3	6	5	2	5	3	1	1	3	1	1	3	5	2		208	
兵庫			3	1				2		2		1	1		1		2		2				2		29	
奈良		4	5	5	5	2	4	5	8	5	3	7	4	5	3	1	4	3	5	7	5			4	169	
徳島		4	5	4	3	4	2	4	6	4	3	3	2	2	3	3	3	3	4	3	3	5	11		366	
和歌山							1		1	1	1						1								9	
中国・四国	鳥取	1																		1					3	
	島根	1													1										4	
	岡山											1													15	
	広島	1		1			1	2	2						1	1									15	
	山口																									3
	香川						1		1					1												6
	愛媛	1	1		1			1															1	2	16	
	徳島																				1					1
	高知																									1
九州	福岡		1			1		1		1									1					1	10	
	長崎					1	1																		4	
	熊本																								1	
	鹿児島	1	1		1																				4	
	大分	1																							2	
沖縄																									1	
	コンゴ																								1	
	計	17	26	22	27	25	33	28	29	23	23	20	22	23	20	13	17	17	21	16	20	16	23		1145	

2) 就職先一覧

(平成 26 年 4 月現在確認済のみ掲載)

臨床検査学科

<北海道>	<岐阜県>	蘇生会総合病院	大阪労災病院
CCP センター	岐阜県労働基準協会連合会労働衛生セン	洛和会音羽病院	公益財団法人北野病院
千歳第一病院	ター	京都大学医学部附属病院	大阪府立精神医療センター
済生会北生病院	高山赤十字病院	京都大学医学部総合解剖センター	シオノギメディカルサービス
日本細胞病理ラボラトリー	上岐市立総合病院	京都大学大学院医学研究科	<兵庫県>
札幌厚生病院	公立郡上中央病院	京都府立洛東病院	兵庫県保健部地域保健課
苫小牧臨床検査センター	野田記念病院	京都第一赤十字病院	パソナメディカル(株)
<青森県>	<静岡県>	京都第二赤十字病院	加古川総合保健センター
青森県赤十字血液センター	SRL 静岡ラボラトリー	京都双鶴病院	郷クリニク検査部
<秋田県>	県立静岡がんセンター	シミズ病院	兵庫県豊岡保健所
JA 秋田厚生農業組合連合会	磐田市立総合病院	小嶋診療所	兵庫県立加古川病院
<福島県>	<愛知県>	京都微生物研究所	兵庫県立緑川病院
いわき市立総合野城共立病院	社会保険中央病院	ゆいかがく	神戸徳州会病院
<群馬県>	名古屋大学医学部付属病院	ゆふろくバイオシステムズ	神崎総合病院
館林厚生病院	刈谷総合病院	ゆめ日本医学臨床検査研究所	兵庫県立粒島線医療センター
<栃木県>	東海記念病院	<大阪府>	兵庫県立柏原病院
富塚メディカルクリニック	愛知厚生連海南病院	国立循環器病センター	市立加西病院
<千葉県>	県西部浜松医療センター	大阪大学医学部附属病院	兵庫県立姫路循環器病センター
習志野第一病院	名古屋臨床検査センター	近畿大学医学部附属病院	神戸百年記念病院
小張総合病院	<三重県>	松下記念病院	<奈良県>
<東京都>	済生会松阪病院	沢田病院	天理よろづ相談所病院
聖路加国際病院	松阪市民病院	関西医科大学附属病院	天理医学研究所
順天堂大学附属浦安病院	四日市市民病院	関西医科大学附属滝井病院	天理医学技術学校
心臓血管研究所附属病院	名張市立病院	明和記念病院	奈良県立医科大学附属病院
木原病院	武内病院	市立吹田市民病院	奈良県立奈良病院
森下記念病院	国立療養所鈴鹿病院	星ヶ丘厚生年金病院	奈良県立五條病院
都立大塚病院	国立岩手病院	住吉市民病院	奈良県立三宅病院
成仁病院	津生協病院	八尾徳洲会病院	奈良県健康づくりセンター
東大和病院	橿原白鳳病院	若弘会病院	近畿大学医学部附属奈良病院
関エスアールエル	紀南病院	関西医科大学附属香里病院	古田病院
<神奈川県>	介護老人保険施設よくにし	幸備会 OBP クリニック	天理市立病院
相模病院	近畿健康管理センター	動脈硬化疫学研究所	友永循環器医院
保健科学株式会社	<滋賀県>	住友病院	大和南田市立病院
<石川県>	滋賀医科大学附属病院	西院病院	町立吉野病院
公立能登総合病院	健康保健滋賀病院	八木診療所	古環境研究所
金沢大学医学部附属病院	大津市民病院	聖バルナバ病院	メディック奈良ラボ
珠洲市立総合病院	滋賀生協病院	済生会吹田病院	伏見診療所
北陸病院	滋賀県立成人病センター	内藤病院	奈良社会保険病院
<福井県>	済生会滋賀県病院	東和病院	おかたに病院
高浜町社会福祉協議会	寺田病院	結核予防会大阪支部	済生会奈良病院
光陽生協病院	甲賀市立信楽中央病院	日本労働文化協会	済生会中和病院
福井医科大学付属病院	近江草津徳洲会病院	三和会永山病院	済生会御所病院
光陽生協病院	メディック滋賀	友誠会病院	奈良市総合医療検査センター
県立福井病院	<京都府>	普草第一病院	奈良県赤十字血液センター
<長野県>	御京都医療サービス	大阪血清微生物研究所	宇陀市立病院
諏訪赤十字病院	公立山崎病院	清恵会病院	秋田駒池病院
慈泉会相澤病院	国立舞鶴病院	緑ヶ丘病院	平井病院
<山梨県>	洛西ニュータウン病院	愛仁会病院	平成記念病院
ながせき頭痛クリニック	京都桂病院	大阪済生会泉尾病院	本宮医院
	武田総合病院	大阪明顔病院	しみず小児科
	宇治徳洲会病院	岸和田徳洲会病院	田北病院

8. 年譜

12. 22 男子学生“別所荘”より“親里一号館”へ転寮

[昭和41年(1966年)]

- 4. 1 天理よろづ相談所(憩の家)開所
- 5. 11 衛生検査技師養成所開設の件につき具体的準備開始
- 8. 11 衛生検査技師養成所の設立につき昭和42年開校の件、理事会で決定。
- 12. 10 「天理衛生検査技師学校」指定申請書、坊秀太厚生大臣に提出

[昭和42年(1967年)]

- 2. 28-3. 1 入学試験(第1期生86名受験)
- 3. 22 「天理衛生検査技師学校」設置認可申請を奈良県知事に提出
- 23 「天理衛生検査技師学校」指定認可される
- 4. 1 山本俊平初代学校長就任、佐治隆則事務員就任、栢植恭平用務員着任
- 6 「天理衛生検査技師学校」開設式(病院7階講堂38名入学)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 19 天理教体育大会(19回)初参加
- 10. 26 秋季大祭参拝
- 11. 12 女子寮(別所荘新館)へ入寮
- 14 二代真柱様お出直
- 21 二代真柱様ご葬儀参列
- 12. 3 男子学生“川原荘”へ仮入寮
- 12 男子学生“川原荘”より“別所荘”へ転入寮

[昭和43年(1968年)]

- 3. 1 「天理衛生検査技師学校」を昭和45年度より昼間制に変更決定(理事会)
- 12-14 入学試験(第2期生73名受験)
- 4. 6 入学式(第2期生31名入学)
- 10 夜間制から昼間制への学則変更届、厚生大臣に提出
- 16 校旗完成
- 8. 26 学則変更届承認される
- 10. 26 秋季大祭参拝
- 11. 14 二代真柱様1年祭執行
- 16-17 第1回衛検祭

[昭和44年(1969年)]

- 2. 18-20 入学試験(第3期生71名受験)
- 4. 1 喜多村(旧小坂田)昭子専任技師就任、上田(旧幸田)慶子専任技師就任
- 4. 5 入学式(第3期生35名入学)、昼間制スタート
- 5. 31 第1回本校体育祭開催
- 7. 26-28 第1回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 9. 20 卒業式(第1期生、34名卒業)
- 10. 19 第14回衛生検査技師国家試験(21名合格)
- 31-11. 2 第2回衛検祭

[昭和45年(1970年)]

- 1. 16 高橋浩教務主任、海外医療ラオス出張(3/3まで)
- 3. 10-12 入学試験(第4期生49名受験)
- 4. 1 島本(旧上田)雅子専任技師就任
- 4 入学式(第4期生32名入学)
- 5. 21 臨床検査技師・衛生検査技師に関する法律公布
- 23 第2回本校体育祭開催
- 8. 3-5 第2回キャンプ(日野大教会)
- 9. 22 卒業式(第2期生、30名卒業)
- 10. 18 第16回衛生検査技師国家試験(29名合格)
- 30-11. 1 第3回衛検祭

[昭和46年(1971年)]

- 1. 1 『臨床検査技師・衛生検査技師に関する法律』施行
高橋浩二代学校長就任
松田信義教務主任就任
- 3. 1 第17回衛生検査技師国家試験(22名合格)
- 9-11 入学試験(第5期生70名受験)
- 20 卒業式(第3期生、33名卒業)
- 4. 7 入学式(第5期生36名入学)
- 29 山本俊平初代学校長(病院長)勲三等旭日中綬章叙勲
- 7. 27-29 第3回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 8. 22 第1回臨床検査技師国家試験
- 10. 28-11. 1 第4回衛検祭
- 11. 3 第3回本校体育祭開催

[昭和47年(1972年)]

- 3.14-16 入学試験(第6期生 59名受験)
- 19 第19回衛生検査技師国家試験(33名合格)
- 21 卒業式(第4期生、31名卒業)
- 4. 7 入学式(第6期生37名入学)
- 7.31-8.2 第4回キャンプ(都邨村青少年活動センター)
- 10.31-11.2 第5回衛検祭
末 天理准看護婦養成所校舎空け渡し
- 11. 上 校舎改修工事着工(翌年3月まで)
- 4 第1回同窓会(本部第二食堂)
- 14 二代真柱様五年祭参列
- 25 「天理医学技術学校」指定申請書および設置認可申請書、厚生大臣および奈良県知事に提出
- 12.18 厚生省より、開設に伴う視察

[昭和48年(1973年)]

- 2.26 県私学審議会「天理医学技術学校」開設許可に伴う調査
- 3. 1 『天理医学技術学校』設立に関し奈良県知事より指定認可
- 12-13 入学試験(第7期生 64名受験)
- 18 第21回衛生検査技師国家試験(34名合格)
- 20 卒業式(第5期生、35名卒業)
- 4. 9 『天理医学技術学校』開校式(兼入学式、第7期生30名入学)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7. 第5回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 11. 1-3 第6回衛検・臨検祭
3 第2回同窓会(本部第二食堂)

[昭和49年(1974年)]

- 1.15 島本(旧上田)雅子専任教員退職
- 16 「天理衛生検査技師学校」廃校届提出
- 3. 7-9 スキー実習(箱館山スキー場)
- 12-13 入学試験(第8期生80名受験)
- 19 第23回衛生検査技師国家試験(31名合格)
- 20 「天理衛生検査技師学校」閉校式(兼卒業式、37名卒)
- 31 「天理衛生検査技師学校」廃校
- 4. 1 市村輝義専任教員、木田光雄専任教員就任
- 5 入学式(第8期生、36名入学)

- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.29-31 第6回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 10.29-11.1 第7回臨検祭
- 11. 2 第3回同窓会(本部第二食堂)

[昭和50年(1975年)]

- 1.29-31 スキー実習(第8期生、箱館山スキー場)
- 3.12-13 入学試験(第9期生 101名受験)
- 4. 1 佐治隆則事務員病院医事課へ転属
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.25-8.3 こどもおちばがえりひのきしん
- 29-31 第7回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 11. 4-8 第8回臨検祭
- 29-30 第1回研究発表会(第7期生)

[昭和51年(1976年)]

- 1.16 天理よろづ相談所病院「総合診療棟」オープン
- 26-2.18 教祖90年祭ひのきしん
- 2.28-3.6 スキー実習(9期生、信州)
- 3. 9-10 入学試験(第10期生 132名受験)
- 14 第10回臨床検査技師国家試験(27名合格)
- 19 卒業式(天理医学技術学校第7期生、28名卒業)
- 4. 7 入学式(第10期生、34名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 6. 1 三根たまよ専任教員就任
- 7.20-22 第8回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.30-11.1 第9回臨検祭
- 12.24 第2回研究発表会(第8期生)
- 30 旧衛生検査技師法による制度全廃

[昭和52年(1977年)]

- 2.1-6 スキー実習(第10期生、信州高山)
- 3. 8-9 入学試験(第11期生 158名受験)
- 13 第12回臨床検査技師国家試験(31名合格)
- 19 卒業式(第8期生、33名卒業)
- 4. 7 入学式(第11期生、39名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.17-19 第9回キャンプ(都邨村青少年活動センター)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10. 8-10 第10回臨検祭

9 創立10周年記念式典挙行(本部第二食堂)

10.26 秋季大祭参拝

30-11.5 第13回臨検祭

[昭和53年(1978年)]

- 1.24 専修学校専門課程設置認可申請
- 26 春季大祭参拝
- 2.3 3年生(第9期生)研究発表会
- 3.7-8 入学試験(第12期生180名受験)
- 12 第14回臨床検査技師国家試験(32名合格)
- 18 卒業式(第9期生34名)
- 4.7 入学式(第12期生、30名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.19-23 第10回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.8-14 第11回臨検祭
- 26 秋季大祭参拝
- 12.23 3年生(第10期生)研究発表会

[昭和56年(1981年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 3.15 第20回臨床検査技師国家試験(23名合格)
- 17-18 入学試験(第15期生84名受験)
- 20 卒業式(第12期生27名)
- 31 三根たまよ専任教員、芝川陽子専任教員退職
- 4.7 入学式(第15期生、33名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 30 木田光雄専任教員臨床病理部へ転属
- 5.1 平山好美専任教員、岩谷一雄専任教員、木寺英明専任教員就任
- 7.16-22 第13回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.3 3年生(第13期生)研究発表会
- 26 秋季大祭参拝
- 31-11.2 第14回臨検祭

[昭和54年(1979年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 2.27 専修学校医療専門課程設置認可受ける
- 3.11 第16回臨床検査技師国家試験(28名合格)
- 13-15 入学試験(第13期生153名受験)
- 20 卒業式(第10期生28名)
- 4.6 入学式(第13期生、35名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.16-21 第11回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.18-24 第12回臨検祭
- 26 秋季大祭参拝

[昭和57年(1982年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 2.23-24 入学試験(第16期生93名受験)
- 3.14 第22回臨床検査技師国家試験(31名合格)
- 20 卒業式(第13期生31名)
- 4.6 入学式(第16期生、27名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.1 佐治隆則事務主任就任
- 31 柘植恭平事務員病院医事課へ転属
- 7.15-21 第14回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.9 3年生(第14期生)研究発表会
- 26 秋季大祭参拝
- 28-11.3 第15回臨検祭
- 11.21 15周年同窓会総会(湖東詰所)

[昭和55年(1980年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 2.3 3年生(第11期生)研究発表会
- 3.16 第18回臨床検査技師国家試験(28名合格)
- 11-13 入学試験(第14期生101名受験)
- 19 卒業式(第11期生40名)
- 4.7 入学式(第14期生、33名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.17-23 第12回キャンプ(桐生キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 9.27 3年生(第12期生)研究発表会

[昭和58年(1983年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 30-31 入学試験(第17期生97名受験)
- 3.13 第24回臨床検査技師国家試験(28名合格)
- 19 卒業式(第14期生30名)



4. 6 入学式（第17期生33名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.17-23 第15回キャンプ（洞川キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 10. 1 3年生（第15期生）研究発表会
 26 秋季大祭参拝
 27-11.2 第16回臨検祭

〔昭和59年（1984年）〕

- 1.26 春季大祭参拝
 29-30 入学試験（第18期生122名受験）
 3.11 第26回臨床検査技師国家試験（21名合格）
 20 卒業式（第15期生27名）
 31 佐治隆則事務主任事情部へ転属
 4. 1 松井博子事務員就任
 6 入学式（第18期生24名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.16-21 第16回キャンプ（桐生キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 10.12 3年生（第16期生）研究発表会
 25-31 第17回臨検祭
 26 秋季大祭参拝

〔昭和60年（1985年）〕

- 1.26 春季大祭参拝
 2. 3-4 入学試験（第19期生87名受験）
 3. 第28回臨床検査技師国家試験（22名合格）
 20 卒業式（第16期生27名）
 31 松本洋子事務員退職
 4. 1 田村靖也事務員就任
 6 入学式（第19期生30名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.21-24 第17回キャンプ（洞川キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 9.28 3年生（第17期生）研究発表会
 10.24-30 第18回臨検祭
 26 秋季大祭参拝

〔昭和61年（1986年）〕

- 1.26 教祖100年祭参拝
 24-2.20 教祖百年祭ひのきしん

- 2.23-24 入学試験（第20期生103名受験）
 3. 9 第30回臨床検査技師国家試験（29名合格）
 20 卒業式（第17期生29名）
 4. 7 入学式（第20期生25名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.20-22 第18回キャンプ（東吉野キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 9.27 3年生（第18期生）研究発表会
 10.23-29 第19回臨検祭
 26 秋季大祭参拝

〔昭和62年度（1987年）〕

- 1.26 春季大祭参拝
 2. 8-9 入学試験（第21期生108名受験）
 12 指定規則指導要領改正に伴い教育課程変更の承認受ける
 3.15 第32回臨床検査技師国家試験（23名合格）
 20 卒業式（第18期生23名）
 4. 1 新教育課程開始（21期生より）
 7 入学式（第21期生25名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.20-22 第19回キャンプ（東吉野キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 10. 5 3年生（第19期生）研究発表会
 26 秋季大祭参拝
 11.19-25 第20回臨検祭
 22 創立20周年記念式典（船場詰所）
 （創立20周年記念資料集発刊）

〔昭和63年（1988年）〕

- 1.26 春季大祭参拝
 2. 7-8 入学試験（第22期生87名受験）
 3.13 第34回臨床検査技師国家試験（27名合格）
 19 卒業式（第19期生27名）
 4. 6 入学式（第22期生28名）
 18 教祖誕生祭参拝
 7.17-19 第20回キャンプ（東吉野キャンプ場）
 25-8.4 こどもおちぼがえりひのきしん
 10. 1 3年生（第20期生）研究発表会
 26 秋季大祭参拝
 11.21-26 第21回臨検祭

[平成元年(1989年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 2.5-6 入学試験(第23期生72名受験)
- 3.19 第35回臨床検査技師国家試験(22名合格)
- 20 卒業式(第20期生22名)
- 4.7 入学式(第23期生27名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.21-23 第21回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 9.22 3年生(第21期生)研究発表会
- 10.26 秋季大祭参拝
- 30 岩谷一雄専任教員MRセンターへ転属
- 11.21-27 第22回臨検祭

[平成2年(1990年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 2.4-5 入学試験(第24期生49名受験)
- 3.13 第36回臨床検査技師国家試験(24名合格)
- 20 卒業式(第21期生24名)
- 4.6 入学式(第24期生21名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.20 3年生(第22期生)研究発表会
- 21-23 第22回キャンプ(富山高原保健休養地)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.23-25 第23回臨検祭

[平成3年(1991年)]

- 1.19-20 入学試験一次募集(第25期生150名受験)
- 26 春季大祭参拝
- 3.17 第37回臨床検査技師国家試験(24名合格)
- 19 卒業式(第22期生25名)
- 21-22 入学試験二次募集(第25期生48名受験)
- 4.9 入学式(第25期生31名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.19 3年生(第23期生)研究発表会
- 21-23 第23回キャンプ(東吉野キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.23-25 第24回臨検祭

[平成4年(1992年)]

- 1.19-20 入学試験一次募集(第26期生150名受験)
- 26 春季大祭参拝
- 3.15 第38回臨床検査技師国家試験(24名合格)
- 19 卒業式(第23期生24名)
- 22-23 入学試験二次募集(第26期生42名受験)
- 4.8 入学式(第26期生33名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7. 3年生(第24期生)研究発表会
- 21-23 第24回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.21 25周年 同窓会総会(コトブキ)
- 21-23 第25回臨検祭

[平成5年(1993年)]

- 1.17-18 入学試験一次募集(第27期生97名受験)
- 26 春季大祭参拝
- 3.14 第39回臨床検査技師国家試験(17名合格)
- 16 卒業式(第24期生17名)
- 18-19 入学試験二次募集(第27期生47名受験)
- 4.1 市村輝義教務主任就任
- 7 入学式(第27期生33名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.1 田村靖也事務員病院医事課へ転属
志茂嘉美事務員就任
- 7.16 3年生(第24期生)研究発表会
- 21-23 第25回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 10.26 秋季大祭参拝

[平成6年(1994年)]

- 1.23-24 入学試験一次募集(第28期生116名受験)
- 26 春季大祭参拝
- 3.9 第40回臨床検査技師国家試験(28名合格)
- 15 卒業式(第25期生29名)
- 22-23 入学試験二次募集(第28期生37名受験)
- 4.7 入学式(第28期生34名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 7.20-22 第26回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん



8.22	専門士称号授与認可	26	秋季大祭参拝
9.14	3年生(第25期生)研究発表会		
10.26	秋季大祭参拝		
11.7-8	第26回臨検祭		
[平成7年(1995年)]			
1.22-23	入学試験一次募集(第29期生128名受験)		
26	春季大祭参拝		
3.9	第41回臨床検査技師国家試験(31名合格)		
15	卒業式(第26期生31名) 第1回専門士称号		
22-23	入学試験二次募集(第29期生39名受験)		
4.12	入学式(第29期生39名)		
18	教祖誕生祭参拝		
5.21-22	第27回臨検祭		
7.20-23	第27回キャンプ(洞川キャンプ場)		
25-8.4	こどもおちぼがえりひのきしん		
10.18	3年生(第27期生)研究発表会		
26	秋季大祭参拝		
[平成8年(1996年)]			
1.15-16	入学試験一次募集(第30期生135名受験)		
26	教祖110年祭参拝 教祖110年祭ひのきしん		
3.10	第42回臨床検査技師国家試験(29名合格)		
15	卒業式(第27期生29名)		
21-22	入学試験二次募集(第31期生42名受験)		
4.7	入学式(第30期生39名)		
18	教祖誕生祭参拝		
5.18-19	第28回臨検祭		
6.1	平山好美専任教員臨床病理部へ転属 杉邑芳樹専任教員就任(臨床病理部より)		
7.21-23	第28回キャンプ(洞川キャンプ場)		
25-8.4	こどもおちぼがえりひのきしん (ひのきしん期間中、新校舎への移転完了)		
8.1	水谷篤技能員就任		
31	柘植桂子用務員退職		
9.1	新校舎落成披露(真柱さまをお迎えして) 樗葉周三専任教員就任		
5	新校舎落成披露(教外者への披露)		
10.1	3年生(第28期生)研究発表会		
1.13-14	入学試験一次募集(第31期生82名受験)		
26	春季大祭参拝		
3.9	43回臨床検査技師国家試験(26名合格)		
15	卒業式(第28期生27名)		
18-19	入学試験二次募集(第31期生26名受験)		
30	30周年記念式典挙行(新校舎講堂・食堂)		
4.1	藤本一講専任教員就任(臨床病理部より)		
8	入学式(第31期生39名)		
18	教祖誕生祭参拝		
6.8-9	第29回臨検祭		
7.15	学校長(高橋浩)公開講義		
22-23	第29回キャンプ(天川村ファミーキャンプ場「いのせ」)		
25-8.4	こどもおちぼがえりひのきしん		
8.31	高橋浩二代学校長退任		
9.1	奥村秀弘三代学校長就任		
18	3年生(第29期生)研究発表会		
10.26	秋季大祭参拝		
11.23	推薦入学試験(19名受験11名合格)		
[平成10年(1998年)]			
1.22-23	一般入学試験 (第32期生69名受験 合格者30名)		
26	春季大祭参拝		
3.8	第44回臨床検査技師国家試験(37名合格)		
14	卒業式(第29期生37名)		
4.1	市村輝義副学校長、喜多村昭子教務主任 福井清三事務係長就任(看護学院事務係長兼務)		
8	入学式(第32期生32名)		
18	教祖誕生祭参拝		
6.6-7	第30回臨検祭		
7.22-23	第30回キャンプ(東吉野キャンプ場)		
25-8.4	こどもおちぼがえりひのきしん		
8.1	亘弘専任教員就任		
9.28	研究実習発表会(30期生)		
10.26	秋季大祭参拝		
11.22	推薦入試(受験者24名 合格者12名)		
12.26	「天理医学技術学校三十年史」刊行		

[平成11年(1999年)]

- 1.27-28 一般入学試験(56名受験 合格者26名)
- 26 春季大祭参拝
- 2.26 卒業判定会議(全員卒業)
- 3.2-6 スキー実習
- 8 第45回臨床検査技師国家試験(32名合格)
- 13 卒業式(30期33名卒業)
- 18 進級判定会議
- 4.6 平成11年度新学期始業
- 8 入学式(第33期生31名入学)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.15 合同避難訓練
- 6.4-6 臨検祭
- 7.21-23 第31回キャンプ(信楽キャンプ場)
- 26-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8.5-31 夏期休暇期間
- 25-27 教職員夏期研修会(佐賀 市村/木寺)
- 9.20 研究発表会(31期生)
- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.23 平成12年度推薦入試
(10.26発表 受験者23名 合格者12名)

[平成12年(2000年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 27-28 平成12年度一般入試
(2.1発表 受験者48名 合格者20名)
- 2.18 卒業判定会議(全員卒業)
- 3.5 46回国家試験(31名受験 30名合格)
- 13 第31期生卒業式(31名卒業)
- 17 進級判定会議
- 4.7 平成12年度新学期開始
- 11 第34期生入学式(29名入学)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.13 合同避難訓練
- 6.2-5 臨検祭
- 7.21-23 第32回キャンプ(洞川キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8.5-31 夏期休暇期間
- 23-25 教職員夏期研修会(市村/木寺)
- 9.22 研究発表会(32期生)
- 26 臨床工学専攻科申請書類厚生省提出

- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.23 平成13年度臨床検査学科推薦入試
(11.25発表 受験者31名 合格者16名)
- 12.25-1.6 冬期休暇

[平成13年(2001年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 27-28 平成13年度臨床検査学科一般入試
(1.31発表 受験者45名 合格者18名)
- 2.3 平成13年度臨床工学専攻科一般入試
(2.6発表 受験者9名 合格者6名)
- 15 卒業判定会議
- 3.1 田崎昭夫専任教員就任(臨床病理部より)
- 4 第47回国家試験(32名受験 31名合格)
- 5 厚生労働省臨床工学専攻科査察調査
- 5-9 1年生スキー実習(信州戸隠)
- 13 第32期生卒業式(32名卒業)
- 15 進級判定会議
- 21-4.5 春期休暇
- 4.1 『臨床工学専攻科』厚生労働大臣認可
- 1 前川ふみや専任教員就任(臨床病理部より)
- 6 平成13年度授業開始
- 9 入学式(臨床検査学科第35期生28名、
臨床工学専攻科1期生6名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.12 合同避難訓練
- 6.1-4 臨検祭
- 7.19 研究発表会(3年生33期生)
- 20-23 第33回キャンプ(東吉野キャンプ場)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8.5-9.1 臨床検査学科夏期休暇
- 6-18 臨床工学専攻科夏期休暇
- 23-25 教職員夏期研修会(市村/杉邑/前川)
- 10.3- 臨地実習開始(33期生)
- 20 合同防災教育
- 26 秋季大祭参拝
- 11.28 平成14年度臨床検査学科推薦入試
(11.30発表 受験者23名 合格者14名)
- 平成14年度臨床工学専攻科一般入試
(11.30発表 受験者11名 合格者7名)
- 12.25-1.5 冬期休暇

[平成14年(2002年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 28-29 平成14年度臨床検査学科一般入試
(1.31 発表 受験者57名 合格者23名)
- 2.15 卒業判定会議
- 3.3 第15回臨床工学技士国家試験
(6名受験6名合格)
- 4 第48回臨床検査技師国家試験
(30名受験29名合格)
- 4-8 1年生スキー実習(信州戸隠)
- 13 平成13年度卒業式(MT33期生、CE1期生)
(臨床検査学科30名、臨床工学専攻科6名)
- 18 進級判定会議
- 22-4.5 春期休暇
- 31 創立35周年 同窓会総会(コブキ)
- 4.8 平成14年度授業開始(新カリキュラム開始)
- 9 平成14年度入学式(臨床検査学科第36期生
33名、臨床工学専攻科2期生6名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.11 合同避難訓練
- 6.7-9 臨検祭
- 7.18 研究発表会(3年生34期生)
21-23 第34回キャンプ(洞川キャンプ場)
25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8.5-17 臨床工学専攻科夏期休暇
5-31 臨床検査学科夏期休暇
25-27 教職員夏期研修会(小豆島,市村/藤本)
- 10.2- 臨地実習開始(35期生)
3 「憩の家」採用試験(MT:3名内定/17名受験,
CE:3名内定/3名受験)
- 5 合同防災教育
- 26 秋季大祭参拝
- 11.20 平成15年度臨床検査学科推薦入試
(11.22 発表 受験者30名 合格者18名)
平成15年度臨床工学専攻科一般入試
(11.22 発表 受験者16名 合格者10名)
- 12.24-2001.1.7 冬期休暇

[平成15年(2003年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 28-29 平成15年度臨床検査学科一般入試

- (1.31 発表 受験者57名 合格者15名)
- 2.18 卒業判定会議(全員卒業)
- 3.3 第16回臨床工学技士国家試験
(6名受験6名合格)
- 7 第49回臨床検査技師国家試験
(27名受験21名合格)
- 13 平成14年度卒業式(MT34期生、CE2期生)
(臨床検査学科27名、臨床工学専攻科6名)
- 14 進級判定会議
- 15-19 1年生スキー実習(信州戸隠)
- 22-4.5 春期休暇
- 4.7 平成15年度授業開始
- 9 平成15年度入学式(臨床検査学科第37期生
27名、臨床工学専攻科3期生9名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.17 合同避難訓練
- 6.27-30 臨検祭
- 6.30 白川分院竣工
- 7.17 研究発表会(3年生35期生)
21-23 第35回キャンプ(洞川キャンプ場)
25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8.5-16 臨床工学専攻科夏期休暇
5-30 臨床検査学科夏期休暇
24-26 教職員夏期研修会(諏訪,市村/藤本/木寺)
- 28 新「おやさと一号館」竣工
- 10.1- 臨地実習開始(36期生)
3 「憩の家」採用試験
(MT:2名採用/8名受験,CE:1名採用/3名受験)
- 4 合同防災教育
- 26 秋季大祭参拝
- 11.20 平成16年度臨床検査学科推薦入試
(11.22 発表 受験者33名 合格者15名)
平成16年度臨床工学専攻科一般入試
(11.22 発表 受験者9名 合格者5名)
- 12.22-2004.1.7 冬期休暇

[平成16年(2004年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 28-29 平成16年度臨床検査学科一般入試
(1.31 発表 受験者53名 合格者16名)
- 2.18 卒業判定会議(全員卒業)

- | | | | |
|---------|---|-------------------|--|
| 3. 5 | 第 50 回臨床検査技師国家試験
(30名受験<新卒27名, 既卒3名> 30名合格) | 8 | 平成 16 年度卒業式 (MT36 期生、CE4 期生) |
| 7 | 第 17 回臨床工学技士国家試験
(9名受験 9名合格) | 13-17 | 1 年生スキー実習 (信州戸隠) |
| 8 | 平成 15 年度卒業式 (MT35 期生、CE3 期生)
(臨床検査学科 27 名、臨床工学専攻科 9 名) | 19 | 進級判定会議 (全員進級) |
| 12 | 進級判定会議 | 21-24 | 2 年生研修旅行 (東京 SRL, 北里大学病院) |
| 14-18 | 1 年生スキー実習 (信州戸隠) | 22-4. 6 | 春期休暇 |
| 17-20 | 2 年生研修旅行 (東京 SRL, 茨城日立) | 4. 7 | 平成 17 年度授業開始 |
| 22-4. 6 | 春期休暇 | 11 | 平成 17 年度入学式 (臨床検査学科第 39 期生
30 名、臨床工学専攻科 5 期生 6 名) |
| 4. 7 | 平成 16 年度授業開始 | 18 | 教祖誕生祭参拝 |
| 9 | 平成 16 年度入学式 (臨床検査学科第 38 期生
28 名、臨床工学専攻科 4 期生 5 名) | 5. 14 | 合同避難訓練 |
| 18 | 教祖誕生祭参拝 | 7. 21 | 研究発表会 (3 年生 37 期生) |
| 5. 15 | 合同避難訓練 | 25-8. 4 | こどもおちばがえりひのきしん |
| 31 | 喜多村昭子教務主任退職 | 28-30 | 臨床工学専攻科研修旅行 |
| 6. 1 | 上山慶子教務主任就任 | 8. 1-13 | 臨床工学専攻科夏期休暇 |
| 7. 1 | 後藤きよみ専任教員就任 (臨床病理部より) | 5-31 | 臨床検査学科夏期休暇 |
| 22 | 研究発表会 (3 年生 36 期生) | 24-26 | 教職員夏期研修会 (仙台、市村 / 木寺 / 後藤) |
| 25-8. 4 | こどもおちばがえりひのきしん | 9. 1-2 | 水上救命法講習会 (上津川、峠の郷) |
| 29-31 | 臨床工学専攻科研修旅行 | 29 | 「憩の家」採用試験 |
| 8. 2-14 | 臨床工学専攻科夏期休暇 | 30 | 藤本一満専任教員臨床病理部へ転属 |
| 5-31 | 臨床検査学科夏期休暇 | 10. 1 | 瀧本順三郎専任教員就任 (臨床病理部より) |
| 25-27 | 教職員夏期研修会 (大阪) | 26 | 秋季大祭参拝 |
| 9. 2-3 | 水上救命法講習会 (上津川、峠の郷) | 11. 4-5 | 臨検祭 |
| 21 | 「憩の家」採用試験 | 22 | 平成 18 年度臨床検査学科推薦入試
(11. 25 発表 受験者 30 名 合格者 15 名) |
| 10. 26 | 秋季大祭参拝 | | 平成 18 年度臨床工学専攻科一般入試
(11. 25 発表 受験者 8 名 合格者 6 名) |
| 11. 18 | 平成 17 年度臨床検査学科推薦入試
(11. 20 発表 受験者 39 名 合格者 16 名)
平成 17 年度臨床工学専攻科一般入試
(11. 20 発表 受験者 9 名 合格者 6 名) | 12. 24-2006. 1. 6 | 冬期休暇 |
- [平成 18 年 (2006 年)]
- | | | | |
|--|--|--------|---|
| | | 1. 10 | 「憩の家」外来診療棟竣工 |
| | | 16 | 外来診療棟診療開始 |
| | | 26 | 教祖 120 年祭参拝 |
| | | 2. 3-4 | 平成 18 年度臨床検査学科一般入試
(2. 7 発表 受験者 40 名 合格者 15 名) |
| | | 17 | 卒業判定会議 (全員卒業) |
| | | 3. 4 | 第 52 回臨床検査技師国家試験 (26 名受験
<新卒 26 名> 24 名合格) |
| | | 6 | 第 19 回臨床工学技士国家試験
(6 名受験 6 名合格) |
- [平成 17 年度 (2005 年)]
- | | |
|-------|--|
| 1. 26 | 春季大祭参拝 |
| 28-29 | 平成 17 年度臨床検査学科一般入試
(1. 31 発表 受験者 50 名 合格者 16 名) |
| 2. 18 | 卒業判定会議 (全員卒業) |
| 3. 4 | 第 51 回臨床検査技師国家試験
(30 名受験<新卒 29 名, 既卒 1 名> 29 名合格) |
| 6 | 第 18 回臨床工学技士国家試験 |



- | | | | |
|----------------|--|----------------|--|
| 3.10 | 平成17年度卒業式 (MT37期生、CE5期生)
(臨床検査学科26名、臨床工学専攻科6名) | 19 | 進級判定会議 |
| 12-16 | 1年生スキー実習 (信州戸隠) | 21-24 | 2年生研修旅行 (東京SRL、慶應大病院) |
| 20 | 進級判定会議 (全員進級) | 22-4.5 | 春期休暇 |
| 22-25 | 2年生研修旅行 (東京SRL、東京大学病院) | 25 | 天理医学技術学校創立40周年総会 (看護学
院棟体育館兼講堂)・懇親会 (コトブキ) |
| 22-4.5 | 春期休暇 | 25 | 「創立40周年資料集」刊行 |
| 4.1 | 曾山奉教専任教員就任 (臨床病理部より) | 4.6 | 平成19年度授業開始 |
| 6 | 平成18年度授業開始 | 7 | 平成19年度入学式 (臨床検査学科第41期生
29名、臨床工学専攻科7期生8名) |
| 7 | 平成18年度入学式 (臨床検査学科第40期生
25名、臨床工学専攻科6期生5名) | 18 | 教祖誕生祭参拝 |
| 18 | 教祖誕生祭参拝 | 5.12 | 合同避難訓練 |
| 5.13 | 合同避難訓練 | 7.9-11 | 臨床工学専攻科研修旅行 |
| 7.20 | 研究発表会 (3年生38期生) | 19 | 研究発表会 (3年生39期生) |
| 25-8.5 | こどもおちぼがえりひのきしん | 23-24 | 第36回キャンプ (みつえ青少年旅行村) |
| 26-28 | 臨床工学専攻科研修旅行 | 25-8.4 | こどもおちぼがえりひのきしん |
| 31-8.12 | 臨床工学専攻科夏期休暇 | 8.1-11 | 臨床工学専攻科夏期休暇 |
| 8.6-31 | 臨床検査学科夏期休暇 | 5-9.1 | 臨床検査学科夏期休暇 |
| 23~25 | 第1回臨床検査教育学会学術大会 (東京、市村) | 27-29 | 第2回臨床検査教育学会学術大会 (香川、市村) |
| 9.28 | 憩の家採用試験 | 9.10 | 憩の家採用試験 |
| 10.26 | 秋季大祭参拝 | 10.24-27 | 臨檢祭週間 |
| 26-30 | 臨檢祭週間 | 26 | 秋季大祭参拝 |
| 11.22 | 平成19年度臨床検査学科推薦入試
(11.25発表 24名受験 17名合格)
平成19年度臨床工学専攻内部推薦入試
(11.25発表 7名受験 7名合格) | 11.20 | 平成20年度臨床検査学科推薦入試
(11.22発表 21名受験 14名合格)
平成20年度臨床工学専攻内部推薦入試
(11.22発表 8名受験 6名合格) |
| 12.25-2007.1.6 | 冬期休暇 | 12.25-2008.1.5 | 冬期休暇 |

[平成19年(2007年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 30-31 平成19年度臨床検査学科一般入試
(2.3発表 33名受験 15名合格)
平成19年度臨床工学専攻一般入試
(2.3発表 6名受験 1名合格)
- 2.19 卒業判定会議 (全員合格)
- 3.2 第53回臨床検査技師国家試験
(25名受験<新卒25名>25名合格)
- 4 第20回臨床工学技士国家試験
(5名受験 5名合格)
- 10 平成18年度卒業式 (臨床検査学科38期生25
名、臨床工学専攻科6期生5名)
- 12-16 1年生スキー実習 (奥志賀高原)

[平成20年(2008年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 31 平成20年度臨床検査学科一般入試一次
(2.2発表 28名受験 19名合格)
平成20年度臨床工学専攻一般入試
(2.2発表 5名受験 1名合格)
- 2.29 第54回臨床検査技師国家試験
(25名受験<新卒25名>25名合格)
- 3.2 第21回臨床工学技士国家試験
(8名受験 8名合格)
- 10 平成19年度卒業式 (MT39期生、CE7期生)
(臨床検査学科25名、臨床工学専攻科8名)
- 11-15 1年生スキー実習 (奥志賀高原)
- 3.18 平成20年度臨床検査学科一般入試二次

- (3.19 発表 10名受験 2名合格)
- 19 進級判定会議
- 20-23 2年生40期 研修旅行
(東京SRL、虎ノ門病院)
- 3.19-4.5 春期休暇
- 3.25 市村輝義副学校長退職
- 4.1 上田慶子副学校長就任、木寺英明検査学科教務主任就任、杉邑芳樹専攻科教務主任就任
- 7 平成20年度授業開始
- 8 平成20年度入学式(臨床検査学科第42期生 32名、臨床工学専攻科8期生 7名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.10 合同避難訓練
- 7.3-5 臨床工学専攻科研修旅行
- 17 研究発表会(3年生40期生)
- 21-24 第37回キャンプ(みつえ青少年旅行村)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 28-8.9 臨床工学専攻科夏期休暇
- 8.5-31 臨床検査学科夏期休暇
- 20-22 第3回臨床検査教育学会学術大会(福岡、上田)
- 9.4 憩の家採用試験
- 10.25-27 臨検祭週間
- 26 秋季大祭参拝
- 11.11 平成21年度臨床検査学科推薦入試
(11.13 発表 22名受験 14名合格)
- 平成21年度臨床工学専攻内部推薦入試
(11.13 発表 6名受験 6名合格)
- 12.22-2009.1.3 冬期休暇

[平成21年(2009年)]

- 1.22 平成21年度臨床検査学科一般入試一次
(1.24 発表 41名受験 15名合格)
- 平成21年度臨床工学専攻一般入試
(1.24 発表 6名受験 3名合格)
- 26 春季大祭参拝
- 2.25 第55回臨床検査技師国家試験
(24名受験<新卒24名>24名合格)
- 3.1 第22回臨床工学技士国家試験
(7名受験 7名合格)
- 3 平成21年度臨床検査学科一般入試二次
(3.4 発表 11名受験 2名合格)

- 10 平成20年度卒業式(MT40期生、CE8期生)
(臨床検査学科24名、臨床工学専攻科7名)
- 11-15 1年生スキー実習(奥志賀高原)
- 19 進級判定会議
- 21-4.4 春期休暇
- 4.1 諸井ひろみ 専任教員就任
- 6 平成21年度授業開始
- 8 平成21年度入学式(臨床検査学科第43期生 29名、臨床工学専攻科9期生 8名)
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.9 合同避難訓練
- 7.16 研究発表会(3年生41期生)
- 21-24 第38回キャンプ(みつえ青少年旅行村)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 27-8.8 臨床工学専攻科 夏期休暇
- 8.5-31 臨床検査学科 夏期休暇
- 27-29 臨床工学専攻科研修旅行
9. 別所よろこび寮竣工
- 8 憩の家採用試験
- 10.23-24 臨検祭週間
- 26 秋季大祭参拝
- 11.13 平成22年度臨床検査学科推薦入試
(11.16 発表 22名受験 9名合格)
- 平成22年度臨床工学専攻内部推薦入試
(11.16 発表 6名受験 6名合格)
- 12.24-2010.1.5 冬期休暇

[平成22年(2010年)]

- 1.26 春季大祭参拝
- 28 平成22年度臨床検査学科一般入試
(1.30 発表 46名受験 15名合格)
- 平成22年度臨床工学専攻一般入試
(1.30 発表 6名受験 3名合格)
- 2.24 第56回臨床検査技師国家試験(27名受験<新卒27名>27名合格)
- 3.7 第23回臨床工学技士国家試験
(8名受験 8名合格)
- 10 平成21年度卒業式(MT41期生、CE9期生)
(臨床検査学科27名、臨床工学専攻科8名)
- 11 1年生スキー実習(奥志賀高原)
- 3.19 進級判定会議



- 21-4.3 春期休暇 26名、臨床工学専攻科 11期生 9名)
4. 1 上田勝彦 専任教員就任 18 教祖誕生祭参拝
- 5 平成 22 年度授業開始 5.7 合同避難訓練
- 7 平成 22 年度入学式(臨床検査学科第 44 期生 24 名、臨床工学専攻科 10 期生 9 名) 6.1 財団法人天理よろづ相談所を公益財団法人天理よろづ相談所に名称変更
- 18 教祖誕生祭参列 7.14 研究発表会(3 年生 43 期生)
5. 8 合同避難訓練 20-23 台風 6 号の影響でキャンプ中止
- 7.15 研究発表会(3 年生 42 期生) 25-8.4 こどもおぢばがえりひのきしん
- 21-24 第 39 回キャンプ(みつえ青少年旅行村)
- 25-8.4 こどもおぢばがえりひのきしん 8. 5-31 臨床検査学科夏期休暇
8. 5-31 臨床検査学科夏期休暇 8-20 臨床工学専攻科夏期休暇
- 8-22 臨床工学専攻科夏期休暇 17-19 第 6 回臨床検査学教育学会学術大会(新潟、皆山)
- 18-20 第 5 回臨床検査学教育学会学術大会(弘前、前川、瀧本) 9. 8-10 臨床工学専攻科研修旅行
- 26-28 臨床工学専攻科研修旅行 12 憩の家採用試験
- 9.10 憩の家採用試験 10.21-22 臨検祭週間
- 10.26 秋季大祭参拝 26 秋季大祭参拝
- 22-23 臨検祭週間 11.19 平成 24 年度臨床工学専攻内部推薦入試(11.19 発表 7 名受験 7 名合格)
- 11.12 平成 23 年度臨床検査学科推薦入試(11.15 発表 24 名受験 12 名合格) 12.23-2012.1.5 冬期休暇
- 平成 23 年度臨床工学専攻内部推薦入試(11.15 発表 8 名受験 8 名合格)
- 12.23-2011.1.5 冬期休暇
- [平成 23 年(2011 年)]
- 1.26 春季大祭参拝
- 27 平成 23 年度臨床検査学科一般入試(1.29 発表 60 名受験 14 名合格) 平成 23 年度臨床工学専攻一般入試(1.29 発表 1 名受験 1 名合格)
- 2.23 第 57 回臨床検査技師国家試験(25 名受験<新卒 25 名> 25 名合格)
3. 6 第 24 回臨床工学技士国家試験(9 名受験 9 名合格)
- 10 平成 22 年度卒業式(MT42 期生、CE10 期生)(臨床検査学科 25 名、臨床工学専攻科 9 名)
- 11 1 年生スキー実習(戸隠)
- 18 進級判定会議
- 20-4.3 春期休暇
- 4.4 平成 23 年度授業開始
- 7 平成 23 年度入学式(臨床検査学科第 45 期生
- [平成 24 年(2012 年)]
- 1.21 平成 24 年度臨床工学専攻科一般入試(1.23 発表 1 名受験 1 名合格)
- 26 春季大祭参拝
- 2.22 第 58 回臨床検査技師国家試験(28 名受験<新卒 28 名>28 名合格)
3. 4 第 25 回臨床工学技士国家試験(9 名受験 9 名合格)
- 9 平成 23 年度卒業式(MT43 期生、CE11 期生)(臨床検査学科 28 名、臨床工学専攻科 9 名)
- 10 1 年生スキー実習(戸隠)
- 15 進級判定会議
- 20-4.3 春期休暇
- 25 前川ふみよ専任教員研究所に転属
4. 3 平成 24 年度授業開始(検査学科 2、3 年生) 天理医療大学第 1 回入学式挙行 天理医療大学開学祝賀会(5 階食堂)
- 6 臨床工学専攻科入学式 第 12 期生 8 名
- 11 事務員として奥田麻里奈氏(天理医療大学)着任
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.12 合同防火避難訓練実施
- 7.12 研究発表会(3 年生 44 期生)

- 19-20 第40回キャンプ(みつえ青少年旅行村) 12.24-2014.1.4 冬季休暇
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8. 6-31 臨床検査学科夏期休暇 [平成26年(2014年)]
- 6-19 臨床工学専攻科夏期休暇 1.26 春季大祭参拝
- 20-22 臨床工学専攻科研修旅行 2.19 第60回臨床検査技師国家試験
(25名受験<新卒25名>25名合格)
- 9. 4 憩の家採用試験 3. 2 第27回臨床工学技士国家試験
(9名受験9名合格)
- 10.26 秋季大祭参拝 7 平成25年度卒業式(MT45期生、CE13期生)
(臨床検査学科25名、臨床工学専攻科9名)
- 27 3校(医技校、学院、医療大学)合同による
文化祭(天医祭)を実施
- 11.10 天理医療大学推薦入試 22 天理医学技術学校 閉校式
- 22 平成25年度臨床工学専攻内部推薦入試
(11.22発表 7名受験 7名合格)
- 12.25-2013.1.7 冬期休暇

[平成25年(2013年)]

- 1.21 平成25年度臨床工学専攻科一般入試
(1.22発表 2名受験 2名合格)
- 26 春季大祭参拝
- 2.16 天理医療大学一般入試
- 20 第59回臨床検査技師国家試験
(25名受験<新卒25名>25名合格)
- 3. 3 第26回臨床工学技士国家試験
(8名受験 8名合格)
- 7 平成24年度卒業式(MT44期生、CE12期生)
(臨床検査学科25名、臨床工学専攻科8名)
- 14 進級判定会議
- 18-4.3 春期休暇
- 4. 4 平成25年度授業開始(検査科3年生)
- 8 臨床工学専攻科第13期生9名 入学式
- 18 教祖誕生祭参拝
- 5.25 合同避難訓練実施
- 7.18 研究発表会(3年生45期生)
- 22-23 第41回キャンプ(みつえ青少年旅行村)
- 25-8.4 こどもおちばがえりひのきしん
- 8. 5-17 臨床工学専攻科夏期休暇
- 5-31 臨床検査学科夏期休暇
- 29-31 臨床工学専攻科研修旅行
- 9. 3 憩の家採用試験
- 10.26 秋季大祭参拝
- 11.16-17 天理医療大学推薦入試
- 23 3校合同による第2回天医祭

9. 天理医学技術学校学則

第1章 総則

第1条 天理医学技術学校（以下「学校」という）は臨床検査技師、臨床工学技士として必要な知識及び技術を教授研究し、あわせて天理教教義に基づく信条教育を行い、以て医療の実践並びに医学の進展に貢献する人材を育成することを目的とする。

第2条 学校には次の課程及び学科を置く。

課 程	学 科
医療専門課程	臨床検査学科
医療専門課程	臨床工学専攻科

第3条 修業年限は次のとおりとする。

学科名	修業年限
臨床検査学科	3年
臨床工学専攻科	1年

第4条 入学定員は次のとおりとする。

学科名	入学定員	総定員
臨床検査学科	30名	90名
臨床工学専攻科	10名	10名

第2章 学年、学期及び休業日

第5条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

学期は次の2期とする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から3月31日まで

第6条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律178号）の規定日

(3) 天理教祭日及び教祖誕生日（10月26日・1月26日・4月18日）

(4) 本校創立記念日 4月1日

(5) 季節休暇（夏季、冬季、春季を合わせて11週を越えない）

2. 前項の規定にかかわらず学校長が必要と認めるときは臨時に休業日を設けることができ、また休業日に授業を行うことができる。

第3章 教育内容及び履修単位数

第7条 臨床検査学科の教育内容及び履修単位数は別表（1）のとおりとする。

2. 臨床工学専攻科の教育内容及び履修単位数は別表（2）のとおりとする。

3. 学校長は前項の規定にかかわらず教育内容の追加又は単位数を増減することができる。

第4章 試験及び修了

第8条 試験は科目試験及び卒業試験とする。なお、試験の成績は100点をもって最高とし、60点以上を合格とする。

第9条 各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1を越える者は進級又は卒業することができない。ただし、出席すべき日数の3分1以内であって20日を越える者は補習を受けなければならない。

第10条 各学年の修了又は卒業の認定は所定の科目を修了した者について試験の成績、出席状況等を総合して学校長が行う。

2. 学校長は臨床検査学科の基礎分野及び専門基礎分野において、臨床検査技師学校養成所指定



規則別表の備考二に該当する学校で既に履修した科目については10単位の範囲内で単位を認定し、履修を免除することができる。

3. 学校長は臨床工学専攻科において、臨床工学技士学校養成所指定規則別表第三の備考二に該当する学校及び養成所で既に履修した科目については単位を認定し、履修を免除することができる。

第11条 学校長は卒業の認定をした者に対して卒業証書を授与し、併せて専門士と称することを認める。

第5章 教職員及び組織

第12条 学校に次の職員を置く

- (1) 学校長
- (2) 副学校長
- (3) 臨床検査学科に6名以上、臨床工学専攻科に4名以上の専任教員（教務主任者を含む）
- (4) 講師30名以上
- (5) 校医
- (6) 各学科に事務職員、その他必要な職員

2. 学校長その他の教職員は公益財団法人天理よろづ相談所理事長が任命する。
3. 教職員の任務は学校業務基準の定めるところによる。

第6章 入学

第13条 入学の時期は学期の始めとする。

第14条 各学科の入学資格は次のとおりとする。

第15条 学校に入学しようとする者は次の各号に掲げる書類に入学検定料を添えて学校長に提出しなければならない。

- (1) 入学願書（所定のもの）
- (2) 調査書

第16条 入学を希望する者には次の試験を行い、入学試験判定会議を経て、学校長が合格者を決定する。

- (1) 学力試験
- (2) 面接

第17条 学校長は入学試験に合格した者で、指定の期日までに所定の誓約書等必要書類を提出し、入学金、学費を納入した者に対し入学を許可する。

第18条 前条の誓約書の保証人は2名とする。なお保証人の内1名は両親のどちらか（あるいはこれにかわる保護者）とする。

第7章 休学及び退学

第19条 傷病その他特別の理由により2ヵ月以上引き続いて就学できない者は保証人連署の上休学願を提出し学校長の許可を受けなければならない。

休学期間は1年以内とする。但し学校長はやむを得ない理由があると認める時は1年に限ってその期間を延長することができる。

2. 休学期間中に休学の理由がなくなったときは学校長の許可を受けて復学することができる。
3. 第1項の規定による休学期間満了後においてもなお就学することができない者については退学させるものとする。

第20条 臨床検査学科の学生は5年を越えて在学することができず、同一学年の在籍期限は2年以内とする。

2. 臨床工学専攻科の学生は2年を越えて在学することはできない。

第21条 やむを得ない理由により退学しようとする者は保証人連署の上退学願を提出し、学校長の許可を受けなければならない。

第8章 学 費

第22条 学費とは授業料およびその他の校納金をいう。学費は別に定める期限内に納入しなければならない。

第23条 前項の学費ならびに入学検定料、入学金、その他の校納金については、別表（3）の通りとする。

第9章 賞 罰

第24条 学校長は学生の模範と認められる者を表彰することができる。

学科名	入学資格
臨床検査学科	(1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により、大学に入学することができる者。 (2) 旧中学校令（昭和18年勅令第36号）による中等学校を卒業した者。 (3) 臨床検査技師学校養成所指定規則（昭和45年文部省第3号）第3条の規定により旧中学校令による中等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。
臨床工学専攻科	学校教育法に基づく大学若しくは高等専門学校、旧大学令に基づく大学又は臨床工学技士施行規則第13条に定める学校、文教研修施設若しくは養成所において2年（高等専門学校にあっては、5年）以上修業し、かつ、厚生大臣の指定する科目を修めた者（臨床工学技士法第14条第2号による）

第25条 学校長は教育上必要があると認めるときは、学生に対し懲戒を加えることができる。

2. 懲戒は退学、停学及び訓告とする。
3. 前項の退学は次の各号の1に該当する者に対して行う。
 - (1) 品行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で卒業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
 - (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第10章 そ の 他

第26条 この学則に必要な細則は学校長が別に定める。

（附 則）

この学則は平成8年9月1日から施行する。
 この学則は平成10年11月1日から施行する。
 この学則は平成12年4月1日から施行する。
 この学則は平成13年4月1日から施行する。
 この学則は平成17年4月1日から施行する。
 この学則は平成18年4月1日から施行する。
 この学則は平成20年4月1日から施行する。
 この学則は平成23年6月1日から施行する。

別表（1）臨床検査学科（3年制）教育内容と履修単位数〔省略〕
 「2. カリキュラムの変遷」参照

別表（2）臨床工学専攻科（1年制）教育内容と履修単位数〔省略〕
 「2. カリキュラムの変遷」参照

別表（3）学費その他の経費〔省略〕
 「3.5）, 6）入学検定料・入学金・授業料・実習費一覧」参照



編集後記

閉校記念誌「天理医学技術学校 47 年の歩み」を作成する事となり、その編集に携わらせて頂きました。本校 47 年の歴史の中 45 年間本校で奉職させて頂きました私としては大変有難かつ有意義な仕事でした。47 年を振り返ってみると、必ずしも順風満帆なものではなく何度か閉校の危機を迎えながらのものでした。しかし、大学への移行という形で教育を終わらせて頂いたのは大変幸運であり、多くの皆様方の御好意と御尽力のお陰であったと編集を終えて強く思いました。

閉校記念誌編集に当たっては、なるべく写真を多く取り入れ、文章は簡潔に流れだけを纏めるように心掛けました。第 1 章は検査技師教育及び本校を取り巻く環境等の変化にどの様に対応したかを年を追って纏めた沿革であります。又第 2 章は各期の卒業生が纏めたものであり、いわゆる校風又は伝統といえるものであるかと考えます。この二つの章は見ていただく時各自が属していた時期から前後に扇を開くように見ていただくと「あの人はどうしているかな、そんな時期があったのか又その後はこのように変化したのか」と興味を持って頂けるのではないかと思います。

最後になりましたが記念誌作成に協力して頂きました教職員の皆様、卒業生の皆様並びに多額の援助を頂きました同窓会に厚く御礼申し上げます。

(副学校長 上田 慶子)

母校が天理医療大学臨床検査学科への移行という発展的な閉校の機会に、これまで歩んできた足跡を記録として残したいとの一念から編集に携わって参りました。発刊に至るまでには数多くの方々のご協力とご支援を頂きました。ご多忙の中、本校への心温まる原稿を寄稿して頂いた学外・学内の関係各位の皆様、卒業生の皆様には心より深く感謝し、お礼申し上げます。

47 年間の足跡をたどるには通常、膨大な資料と労力がかかりますが、本校には天理医学技術学校十年史、20 年資料集、三十年史、40 年資料集がきちんと残されていたおかげで、正確な足跡をたどることができました。また、卒業式後の記念写真もすべて残されており卒業生の氏名と顔を確認することができました。ここまで揃った記念誌は数少ないと思いますが、これまでにご尽力頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

自分が学んだ学校名が消えることは淋しいことですが、教員として最後を無事に締めくくらせて頂いたことに感謝しております。本校を卒業された皆様方が社会でご活躍されることを心より祈念いたします。

(教務主任 木寺 英明)

第 14 期生として昭和 58 年 3 月に天理医学技術学校を卒業した私は平成 8 年 6 月に専任教員として母校に戻り、約 18 年間勤めさせて頂きました。教員としては未熟な面も多々ございましたが、周りの諸先生方のご指導により何とか終わりを全うできたように思います。この場をお借りして本校に関係する方々ならびに卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、閉校記念誌の編集におきましても各方面の先生方、卒業生の方々にご協力頂き、完成させることが出来たことに重ねて御礼申し上げます。

私を含め卒業生が天理医学技術学校で学んだ事、得た事は臨床検査技師、臨床工学技上に必要な知識技術はもとより、他の養成施設では決して受けることが出来ない信条教育により身につけたひのきしん精神、一手一つの精神であると思います。これは大きな財産だと思います。自分のテクニカルスキル向上ばかりにあくせくする人間が多い世の中で、今後さらにコミュニケーション能力の優れた協調性のある人間が求められることは必至です。特に医療現場ではチーム医療の重要性がますます高まっています。チーム医療とは患者さんの命を守るという目的に対して行う一手一つの行為です。そのような場面できっと本校で身につけた事が生かされると私は確信しております。卒業生の皆様の益々のご活躍を祈念しまして本誌の編集を終えたいと思います。

(教務主任 杉邑 芳樹)

平成 26 年（立教 177 年）4 月 1 日 発行

閉校記念誌 天理医学技術学校 47 年の歩み

編集 天理医学技術学校閉校記念誌編集委員会

発行 天理医学技術学校 天理医学技術学校同窓会

印刷 株式会社 天理時報社